北

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

396
137

情221
398

TAKAHASHI'S ENGLISH GRAMMAR FOR BEGINNERS

よくわかる

自修者の英文法

東京外國語學校元講師

高橋盛雄著

TAIYODO
TOKYO

緒　　言

本書は自修者の英語、自修者の英作文の姉妹篇として編著されたものである。內容は極めて平易で、書名通り、適當な教師の指導を受けることなしに、自學自習出來るやうに編んだもので、ＡＢＣ 廿六文字の讀み方さへ心得て置けば誰にでも分る。所謂誰にでもよく分る文法自修書である。

英語の研究には文法が必要であることはよく分つてゐるものの、さてこれが研究となると、とかく輕んじがちになつて來る、これは文法は無味乾燥なものと思はれてゐるからだと思ふ。併しかゝる考は大なる誤りであつて、これは文法を理解せぬ人達にのみ考へられる言葉である。いやしくも英語は勿論の事、外國語を研究せんとせば、その國語の性質を知る上からして必ずその文法の一般を知る必要がある。又かくすることが外國語を學ぶ捷徑である。

文法と解釋と作文、この三者の關係は實に密接で離るべからざる關係にあり、文法は文法、解釋は解釋、作文は作文と云つた風に個々別々に考へてはならぬ性質のものである。常にこの三者の密接なる關係を念頭に置き、實際に英文を讀み書きする際是非心得て置かねばならぬ必要事項を極めて簡易に分り易く讀者に理解せしめやうと云ふのが本書を公にした目的なのである。從つてあまり煩雜にわたる文法上の分類や、實際にうとい

規則などは之をはぶき、出來得る限り簡潔平易を旨とし、普通の文法書と其類を異にし、英文の解釋、英作文に必要なる事項を列擧して、極めて丁寧に解說を施し、六ケ數い語には一々著者獨得の日本假名を付し何所迄も自修者向きに親切味たつぷりに編述したつもりである。

英語は國際語である、將來世界の檜舞臺に立ち活躍せんとする我國の中堅たるべき學生諸君は、何を措いても英語を征服することが第一の必要條件であらねばならぬ。

此の書物を何度も何度も繰返し、研究自分のものにすれば上級の英語は自ら理解し得ることゝ信じて疑はぬ次第である。江湖の好評を得ば光榮之にすぎない。

著　者　識

自習者の英文法

目　次

第一編　文の種類と文の要素 1

第一章　品　詞（語の分類） 1

〔1〕名　詞 2

〔2〕代名詞 3

〔3〕動　詞 3

〔4〕形容詞 4

〔5〕副　詞 4

〔6〕前置詞 4

〔7〕接續詞 5

〔8〕間投詞 5

第二章　語と音節 6

〔1〕語 6

〔2〕字と語との區別 6

〔3〕音　節 7

〔4〕アクセント 7

〔5〕アクセント符 10

第三章　文と節と句 11

〔1〕句 11

〔2〕文 11

〔3〕節 12

第四章　主部、叙述部、動詞、目的語、補語 14

〔1〕文を作る要素（主部と叙述部） 15

〔2〕文の種類 15

〔3〕 述動詞又は動詞 …… 17
〔4〕 目的語と補語 …… 18
〔5〕 目的語と補語を必要とする動詞 …… 19
〔6〕 二重目的 …… 20
第五章 自動詞と他動詞 …… 21
〔1〕 自動詞と他動詞 …… 21
〔2〕 完全自動詞と不完全自動詞 …… 22
〔3〕 完全他動詞と不完全他動詞 …… 23
第六章 修飾部 …… 25
第七章 文の種類 (I) …… 23
〔1〕 單 文 …… 23
〔2〕 混 文 …… 23
〔3〕 複 文 …… 28
第八章 文の種類 (II) …… 32
〔1〕 平叙文 …… 32
〔2〕 疑問文 …… 33
〔3〕 否定文と疑問文 …… 34
〔4〕 Does の用法 …… 37
〔5〕 感歎文 …… 38
〔6〕 命令文 …… 40
〔7〕 祈願文 …… 42
第九章 語の位置 …… 43
〔1〕 **主語と動詞の位置** …… 43
(A) 平叙文 …… 43
(B) 疑問文 …… 44
(C) 希望又は祈願を表はす May …… 45
(D) 意味を強める場合 …… 45
〔2〕 **目的の位置** …… 46

〔3〕 **補語の位置** …… 47
第二編 語の種類 …… 49
第一章 名 詞 …… 49
〔1〕 **名詞の種類** …… 49
(1) 固有名詞 …… 49
(2) 普通名詞 …… 50
(3) 集合名詞 …… 50
(4) 物質名詞 …… 51
(5) 抽象名詞 …… 51
〔2〕 **數の變化** …… 52
複數名詞の作り方 …… 53
〔3〕 **性** …… 57
(1) 性の變化 …… 57
(2) 性の種類 …… 57
〔4〕 **格** …… 62
(1) 格の種類 …… 62
(2) 主格の意味 …… 62
(3) 目的格 …… 63
(4) 所有格 …… 64
(5) 名詞の格の變化 …… 64
(6) 複數名詞の所有格 …… 65
(7) 無生物の所有格 …… 67
(8) 無生物に 's を附する場合 …… 68
(9) 所有格に關する注意と 's の後に名詞の省略 …… 69
第二章 代名詞 …… 71
〔1〕 **人稱代名詞** …… 71
人稱、格、性、數 …… 71
〔2〕 **人稱代名詞の特別用法** …… 74

(1) 不定用法 74
(2) It の用法 75
〔3〕 **再歸代名詞** 81
〔4〕 **所有代名詞** 82
(1) 所有代名詞の用法 83
(2) 所有代名詞の數と格 84
〔5〕 **疑問代名詞** 83
(1) Which の用法 83
(2) 疑問代名詞の格と數 87
(3) 疑問代名詞と前置詞 88
〔6〕 **關係代名詞** 89
(1) 關係代名詞の格 91
(2) 先 行 語 93
(3) 關係代名詞 That 94
(4) 關係代名詞 What 94
(5) 關係代名詞と前置詞 95
(6) 關係代名詞の省略 97
〔7〕 **形容代名詞** 98
第三章 冠 詞 100
〔1〕 **冠 詞** 100
〔2〕 **不定冠詞 a, an の用法** 102
〔3〕 **冠詞の位置** 102
〔4〕 **不定冠詞 a, an の特殊な意味** 103
(1) "a, an" が "one" の代りに用ひられる場合 104
(2) (per＝毎に、～に付) の意に用ひられる場合 .. 104
(3) (same＝同一、同じ) 104
(4) (a certain＝某) の意味に用ひられる場合 104
(5) 其類一般を表はす場合 105
〔5〕 **定冠詞 the の用法** 106

〔6〕 **定冠詞 the の特別の意味** 108
(1) (by＋the) 計算の標準 108
(2) (the＋形容詞) 複數普通名詞又は抽象名詞を表はす 109
(3) 形のある物を表はす語に附けて無形の意味を表はす場合 110
(4) 普通 the を附ける名詞 110
(5) the を附ける成句 111
〔7〕 **冠詞の省略** 113
(1) 官職名や稱號で、同格語や補足語の役目をするもの 113
(2) 血統を表はす語句で、同格語や補足語の役目をするもの 114
(3) 自分の家族の人を表はす語 114
(4) 意味の密接に關聯せる名詞を對立して用ひる場合 115
(5) 語本來の意味を表はさぬ場合 115
(6) 交通機關などで by や on で始まる句 116
(7) 現在を基準として next, last の附く句 116
第四章 形 容 詞 117
〔1〕 **形容詞——その位置とその二つの役目** 117
〔2〕 **形容詞の種類** 118
〔3〕 **性質形容詞** 119
〔4〕 **數量形容詞** 122
〔5〕 **不定の數及量に就いて** 123
(1) Many と Much 123
(2) Few と A few 123
(3) Little と A little 124
〔6〕 **數 詞** 125

(A) 基 數 125
(B) 序 數 126
(C) 倍 數 127
① Half 127
② Double 128
③ Once, twice, three times 等 128
④ Twice as ～ as 128
〔7〕 代名形容詞 129
〔8〕 形容詞の比較 130
(A) 比較級及び最上級の作り方 131
(B) 比較級の用法 135
(C) Superior, inferior 等の用法 138
(D) 同程度を表はす場合 138
(E) 最上級の用法 139
(F) 比較級を用ひて最上級の意味を表はす場合 140
(G) No＋比較級＝最上級 141
(H) 比較級及び最上級に關し注意すべき語句 142
① Elder, eldest; older, oldest 142
② No more ～ than; not any more than 143
第五章 動 詞 143
〔1〕 特に注意すべき自動詞と他動詞 144
〔2〕 動詞の活用 144
〔3〕 規則動詞と不規則詞動 146
(A) 規則動詞の作り方 147
(B) 不規則動詞 149
〔4〕 數及び人稱に就いて 155
〔5〕 時形 (A) 157
〔6〕 時形 (B) 160
〔7〕 時形の用法（其の一）現在、過去、未來 162

(A) 現在形の用法 162
① 一般的眞理 162
② 習慣的動作 163
③ 現在の有樣、動作を述べる場合 164
④ 特に注意すべき現在の用法 165
(甲) 現在が未來の代りに用ひられる場合 165
(乙) If, there, before, after, till, as soon as 等の從屬接續詞で導かれた文が、副詞の役目をしてゐる場合は、その文中の動詞が未來であつても現在形を用ひる 166
(B) 過去の用法 168
① 過去に於ける動作又は狀態を表はす 168
② 過去の習慣を表はす 168
③ 過去の用法に就て特に注意すべき點 169
(C) 未來の用法 170
① 叙述文の未來形 170
單なる未來（＝無意志未來） 170
② 主語の意志と話者の意志 171
(D) 疑問文の未來形 172
① 單に未來を表はす場合 173
② 話相手の意志を問ふ場合 173
③ 話相手の命令を言ふ場合 174
〔8〕 時形の用法（其の二）現在完了、過去完了、未來完了 175
(1) 現在完了と過去との相違 178
(2) 現在完了の用法 178
(A) 動作の完了を表はす 179
(B) 動作の完了から其の結果たる現在の狀態を表はす 179
(C) 經驗を表はす 182

(D) 或る狀態が現在まで繼續して居ることを表は す..... 184
(3) 過去完了と未來完了..... 187
〔9〕 時形の用法（其の三）進行形..... 188
(A) 現在進行形 188
現在形行進の特殊の用法 190
(1) 未來の代用..... 190
(B) 過去進行形..... 191
(C) 未來進行形..... 192
(D) 現在完了進行形..... 192
(E) 過去完了進行形 193
(F) 未來完了進行形 193
〔10〕 態..... 193
〔11〕 受動態の作り方..... 195
特に注意すべき事柄..... 199
(1) 動詞の時の注意..... 200
(2) 數を一致させること..... 200
(3) 省いてよい目的語..... 201
(4) 二重目的の場合..... 202
(5) By 以外の前置詞を用ひる場合..... 204
(6) 英作文の場合特に注意すべき點..... 206
〔12〕 助動詞..... 207
(1) Shall と will 207
(2) Would と should の用法..... 207
① Would..... 208
(A) Would=used to..... 208
(B) 意志、願望を表す..... 208
(C) 過去に於ける拒絕を表す..... 208
(D) 婉曲を表すす..... 209

② Should .....
(A) (～すべきものだ) 義務..... 209
(B) 當然を表す..... 209
(C) 意外を表す..... 210
(D) I should like (したいものだ) 210
婉曲を表す 210
(E) Lest ～ should (せぬやうに) 210
(3) Be の用法 211
(4) Do の用法 211
(A) 疑問文..... 211
(B) 否定文..... 212
(C) 强勢の意を表す場合..... 213
(D) 代動詞..... 213
(5) Have の用法..... 214
(6) Can の用法 214
① ～ できる ② 全體 ～ か..... 214
(7) May の用法 216
慣用句 may well 218
(8) Must の用法..... 218
(9) Need の用法..... 220
(10) Can, may, must, の過去形..... 221
(11) Can, may, must の未來形..... 222
(12) Ought to の用法..... 222
〔13〕 法..... 223
法の種類..... 223
① 直接法..... 224
② 假定法..... 224
(1) 假定法過去..... 224
(2) 假定法過去完了..... 227

(3) 假定法現在 229
(4) 假定法未來 231
(5) 注意すべき假定法の用法 232
(A) If の省略せられる場合 232
(B) I wish {were / had} 假定法過去 232
(C) I wish＋假定法過去完了 233
(D) {As if / As though}＋假定法 233
(E) But for (～なかりせば) 234
(F) {If it were not for / Were it not for} (～なかりせば) .. 234
(G) {Had it not been for / If it had not been for} (なかりせば) 234
(H) 慣用句 235
① Had better 235
② As it were 235
③ {Had / Would} rather ～ than (～よりいつそ～がましだ) 235
③ 命令法 236
(1) 命令文は通例主語を省略す 236
(2) 否定の命令 236
(3) 意味を强める場合 (＋do) 237
(4) 〃 (＋you) 237
(5) 一人稱と三人稱の命令 237
(6) 命令法の特別用法 238
① 命令法＋and 238
② 命令法＋or 239
〔14〕 變體動詞 239
(1) 不定詞のお話 240

〔A〕 名詞的用法 241
〔B〕 形容詞的用法 241
〔C〕 副詞的用法 243
(1) 目的を表はすもの 243
(2) 原因を表はすもの 243
(3) 結果を表はすもの 244
〔D〕 假設目的と假定目的 245
(1) 假設主語 245
(2) 假設目的 246
〔E〕 不定詞を打消す場合 247
〔F〕 疑問詞＋不定詞 247
〔G〕 不定詞の to を省略する場合 248
〔H〕 注意すべき不定詞の慣用句 249
① To be＋Infinitive 249
② Have＋Infinitive 249
③ Have only＋Infinitive 250
④ Have not＋Infinitive 250
(2) 分詞のお話 250
〔A〕 分詞の三形 250
〔B〕 分詞の用法 251
(1) 形容詞の役目 251
(2) 補語の役目 252
(3) 接續詞の役目 254
(A) 時を表はす 255
(B) 原因又は理由を表はす 255
(C) 條件を表はす 256
(D) 讓步を表はす 256
(E) 連續を表はす 256
(4) 分詞の主語 257

(5) 受身の分詞 257
(6) Have+過去分詞 258
(A) (～される) 258
(B) (～して貰ふ) 258
(C) (～させる) 259
(3) 體用詞のお話 259
〔A〕 體用詞の形 260
〔B〕 名詞の役目 260
〔C〕 體用詞と名詞 267
〔D〕 體用詞に關する主なる慣用句 263
(1) Cannot help+Gerund 263
(2) There is no+Gerund 263
(3) On+Gerund 263
(4) Worth+Gerund 264
(5) Go+Gerund 264
〔15〕 時の照應 264
(A) 原則の一 (主節の動詞が現在) 265
(B) 原則の二 (主節の動詞が過去) 266
(C) 例 外 267
(A) 一般的眞理 267
(B) 歴史上の事實 268
〔16〕 話 法 268
(A) 直接話法と間接話法 268
(B) 直接話法より間接話法へ 269
(C) 疑問文を間接話法へ 270
(D) 疑問詞のない疑問文の場合 271
(E) 命令文を間接話法へ 271
第六章 副 詞 272
〔1〕 副詞の種類 272

〔2〕 單純副詞 274
〔A〕 時を表はすもの 274
〔B〕 場所を表はすもの 275
〔C〕 程度を表はすもの 275
〔D〕 性狀、方法を表はすもの 275
〔E〕 肯定及否定を表はすもの 275
〔3〕 副詞の比較變化 276
〔4〕 副詞の位置 277
〔A〕 副詞を說明する副詞の位置 277
〔B〕 動詞以外の語に附く副詞の位置 278
〔C〕 場所を表はす副詞と時を表はす副詞 279
〔D〕 一語の副詞と熟語の副詞 279
〔5〕 注意すべき副詞の用法 279
〔イ〕 Not 279
〔ロ〕 Yes と No 231
〔ハ〕 Very と Much 232
〔ニ〕 Seldom, handly, scarcely 233
〔ホ〕 Already と Yet と Still 233
〔ヘ〕 Ever, never, once 234
〔ト〕 Ago, since, before 235
〔チ〕 Too ～ to 237
〔リ〕 Not always 237
〔ヌ〕 The 238
〔6〕 疑問副詞 239
〔7〕 關係副詞 290
第七章 接續詞 291
〔1〕 等位接續詞 291
〔2〕 從屬接續詞 292
第八章 前置詞 296

〔1〕 時に關する前置詞 at, on, in 297
〔2〕 場所に關する前置詞 at, in, in front of, behind.. 298
〔3〕 時を表はす前置詞 till, by, since, for 299
〔4〕 時間に關する前置詞 during, for, in, within, before, by 300
〔5〕 位置に關する前置詞 301
〔6〕 〃 (續き) 303
〔7〕 間違ひ易い前置詞 304
〔8〕 位置を表はす前置詞 (續き) 305
〔9〕 特に注意すべき前置詞 306
第九章 間 投 詞 308

ENGLISH GRAMMAR HELPS TO HOME STUDY

ふくわかる

自習者の英文法

第 一 編

文の種類と文の要素

第一章 Part of Speech

〔品 詞 (語の分類)〕

❶ 名 詞 (Noun) ❷ 代名詞 (Pronoun)
❸ 動 詞 (Verb) ❹ 形容詞 (Adjective)
❺ 副 詞 (Adverb) ❻ 前置詞 (Preposition)
❼ 接續詞 (Conjunction)
❽ 間投詞 (Interjection)

❶ naun [ナウン]。 ❷ próunaun [プろウナウン]。 ❸ vəːb [ぶァ〜ブ]。 ❹ ædʒiktiv [アヂクティぶ]。 ❺ ædvəːb [アドぶァ〜ブ]。 ❻ prepəzíʃən [プれパズィシャン]。 ❼ kəndʒʌ́ŋkʃən [カンヂャんクシャン]。 ❽ intədʒékʃən [インタヂェクシャン]。

一切の英語は，そのあらはす意味によつて分類すると上表の八種となる。これを **八品詞** (**Eight Parts of Speech**) と云ふ。即ち英語の品詞には八種あるから，普通これを八品詞と稱してゐる。これ等八品詞の中で一番多いのが **名詞** と **動詞** である，從つてこの兩者が英文に最も多く出るわけである。それでは名詞から順次說明をして見やう。

(1) 名　詞

人の名，土地の名，國の名，物の名，何でも「**名**」を表はすに用ひる語を **名詞** (**Noun**) と云ふ。

(A) 【人 の 名】

George (ヂョーヂ), **Henry** (ヘンリー), **Togo** (東鄕), **Napoleon** (ナポレオン), **Nogi** (乃木) 等。

(B) 【土地の名】

London (ロンドン), **New York** (ニューヨーク), **Tokyo** (東京), **Paris** (パリー) 等。

(C) 【國 の 名】

England (英國), **America** (アメリカ), **Japan** (日本), **France** (佛蘭西) 等。

(D) 【物 の 名】

dog (犬), **rat** (鼠), **cat** (猫), **tree** (木), **desk** (机), **steamer** (汽船), **mouth** (口), **school** (學校), **pen**

Eight Parts of Speech 〔八品詞〕。 **London** [lʌ́ndən] ランダン。 **New York** [njúːjɔːk] ニゅーよーク。 **Paris** [pǽris] パリス。 **England** [íŋgland] イんグランド。 **America** [əmérikə アメリカ]。 **France** [frɑːns ふらーンス]。 **steamer** [stíːmə] スティーマ。 **mouth** [mauθ] マウす。

(ペン) 等。

(E) 【無形の名】

health (健康), **necessity** (必要), **invention** (發明) 等。

(2) 代 名 詞

名を云ふ代りに使ふ語，例へば自分の名を一々云ふ代りに，**I** (私は), **my** (私の), **me** (私に) など云ひ，相手の人の名を一一云ふ代りに **you** (あなたは), **your** (あなたの), **you** (あなたに) など云ひ，また他人を指して，その名を云ふ代りに **he** (彼は), **his** (彼の), **him** (彼に); **she** (彼女は), **her** (彼女の), **her** (彼女に) と云ひ，又品物の名を一々云ふ代りに **this** (これは), **that** (それは，あれは), **it** (それは) など云ふ。これ等の語の事を代名詞と云ふのである。

(3) 動　詞

動詞とは**動作**や**有樣**を示す語である。例へば I **play** tennis. (私はテニスをする) と云ふ中の **play** (遊ぶ) と云ふ語は，I (私) のする**動作**，即ち「テニス遊びをする」の意を述べてゐる。また He **has** a racket. (私はラケツトを持つてゐる) の中の **has** は，その男の「持つてゐる」と云ふ狀態を述べてゐる。I **am** a student. (私は學生である) と云へば，**am** は I の有樣を述べてゐる。

---

health [helθ]。 **necessity** [nisésiti]。 **invention** [invénʃən]。 **play** [pleí] 遊ぶ。 **tennis** [ténis] テニス。 **racket(s)** [rǽkit(s)] ラケツト。

(4) 形容詞

名詞や代名詞を説明する語，例へば a rich man (金持の人) と云ふ中の **rich** と云ふ語は，名詞の man を説明して，どんな人であるかを示してゐる語，斯んな語を文法では形容詞と云ふのである。

one (一つの), **two** (二つの), **three** (三つの) など，數を表はす語も形容詞である。後章で述べるが "**a, an, the**" 即ち冠詞も，名詞に附いて，それを説明する語であるから，形容詞の一種として差支ない。

(5) 副詞

動詞や形容詞や他の副詞に附いて，それを説明する語を副詞と云ふ。He can play tennis **very well.** (彼はテニスが非常にうまい) と云ふ文中の **well** は，動詞の **play** に附いて，どんなに遊ぶか，「**うまく**」遊ぶと，遊び工合を説明してゐる語であるから副詞である。また **very** well の **very** は副詞の well に附いて，どんなにうまいのか，「**大變，非常に**」にうまいと，うまい程度を説明してゐるから副詞である。また He is a **very** rich man. (彼は大變金持だ) と云ふ文中の **very** は，形容詞の **rich** に附いて，どの位金持の人か，**大層**金持の人，と説明してゐるから，これもまた副詞である。

(6) 前置詞

日本語で云へば「卓子**の上に**」，「**家の中に**」と云つた風に，

---

rich [ritʃ] 富める。 **can** [出來る]。 **very** [非常に]。 **well** [よく]。

名詞の「卓子」，「家」の後に置かれる「の上に」，「の中に」に相當する **on, in** は英語では反對に

on the table　　**in** the house

といつた風に，「卓子」，「家」にあたる the table, the house の前に置かれるのである。斯んな風に，日本語では，名詞の後に來るのに，英語では反對に前に置かれる語を，前置詞と云ふのである。

(7) 接續詞

語と語，句と句，または文と文をつなぐ役目をする語，即ち**つなぎことば**を接續詞と云ふのである。

He has a racket **and** a ball. (彼はラケツトとボールを持つてゐる) の文中の **and** は racket と云ふ語と ball と云ふ語とをつないでゐるから，接續詞である。

(8) 間投詞

嬉しい時に出す聲「ヤー」，「マー」などの様な，喜怒哀樂總て感情の激動から發する聲を，字に寫したものを間投詞と云ふのである。**Oh! Ha!** などの語はそれである。

---

table 〔卓子〕。 **house** 〔家〕。 **ball** 〔球〕。 **Oh; Ha**

第二章　Words and Syllables
〔語と音節〕

(1)　語

Look, at, this 又は **flower** の如く，各何等かの意味を有する詞を **word**〔語〕と云ふのである。今 **look** と云ふ語を見るに，l, o, o, k の四文字より，又 **at** は a と t の二文字よりなり，言ひかへると，l, o, o, k といふ四字がよつて，**look** と云ふ語を書き表はし，a と t といふ二字がよつて **at** と云ふ語を表はしてゐるのである。

(2)　字と語との區別

今上に述べた如く **字 (letter) が集つて語をあらはすのであるが**，「語」と「字」の區別は誰でも知つてゐるのだが，何千年來，それを混同してゐた漢字の癖がついてゐるものだから，日本人は兎角「語」と「字」とを同じに云ふのである。漢字では「字」即ち「語」で，兩方共同じものである。「花」と云ふ字は，「ハナ」と云ふ語を表はしてゐるから，「花」の字は，即ち「ハナ」の「語」である。併し英語ではさうではない。「ハナ」と云ふ語は **flower**（フラウア）と云ふが，**flower** と云ふ字ではない。それは f, l, o, w, e, r, と云ふ六字なのである。日本語の假名もさうである。「ハ」の字と「ナ」の字が集つて，「ハナ」と云ふ語を表はすのである。だから**英字にしろ，假名にしろ，f** の字，**ハ**の字を見ただけでは「**花**」と云ふ感じは直ぐ起らない。**flower**

Word [wə:d ウァード] 語。 **letter** [létə レタ] 字。 **syllable** [síləbl スィラブル] 音節。

と揃ひ，**ハナ**と揃つて，始めて「花」の感じが起るのである。

字 (letter) が集つて語 (word) をあらはすのである。

(3)　音　節

語即ち言葉は竹に似てゐる。竹には幾つも節(フシ)があるが，言葉にも同じく節があつて，それを **syllable**（スイラブル）〔**音節**〕と云ふのである。

中には僅かに一音節だけで出來て居る言葉もあるが，また二音節，三音節，多いのになると五音節も六音節もから成立つてゐる長い言葉もある。

❶ **boy**〔男の兒〕，**look**〔見る〕，**at**〔～を〕，**dog**〔犬〕，**cat**〔猫〕は，一音節の言葉である。**horse**（ホース）〔馬〕や **goat**（ゴウト）〔山羊〕，**cow**（カウ）〔牛〕も同じく一音節の言葉である。

❷ 併し **lion**（ライアン）〔獅子〕や **tiger**（タイガ）〔虎〕，**flower**〔花〕は二音節である。

❸ **elephant**（エリふアント）〔象〕や **Kangaroo**（カンがるー）〔袋鼠〕は三音節である。

それではどうしてその音節の數(スウ)を數(カゾ)へることが出來るかと云ふに，それはその言葉の中にある**發音する母音の數**を數へればよい。發音する母音の數が一つしかなければ，その言葉は一音節だし，二つあれば二音節，三つあれば三音節と云つた風に勘定するのである。

(4)　アクセント

accent（**アクセント**）の事に就て述べやう。先づ次の英語は

---

syllable [síləbl スィラブル] 音節。 **horse** [hɔ:s]。 **goat** [gout]。 **cow** [kau]。 **lion** [láiən]。 **tiger** [táigə]。 **elephant** [élifənt]。 **kangaroo** [kæŋgərú:]。 **accent** [æksənt アクサント] アクセント＝〔一語中の强音〕。

幾つの音節から出來てゐるか，勘定して頂きたいものです。次の英語は日曜日から土曜日までの曜日と，一月から十二月までの月の名とである。

❶ **Sunday**	〔日曜日〕	❷ **Monday**	〔月曜日〕
❸ **Tuesday**	〔火曜日〕	❹ **Wednesday**	〔水曜日〕
❺ **Thusday**	〔木曜日〕	❻ **Friday**	〔金曜日〕
❼ **Saturday**	〔土曜日〕		
❽ **January**	〔一　月〕	❾ **February**	〔二　月〕
❿ **March**	〔三　月〕	⓫ **April**	〔四　月〕
⓬ **May**	〔五　月〕	⓭ **June**	〔六　月〕
⓮ **July**	〔七　月〕	⓯ **August**	〔八　月〕
⓰ **September**	〔九　月〕	⓱ **October**	〔十　月〕
⓲ **November**	〔十一月〕	⓳ **December**	〔十二月〕

以上の十九語の中**一音節の語**は **March** と **May, June** の三語である。**二音節**は **Sun-day, Mon-day, Tues-day, Wednes-day, Thurs-day, Fri-day** と曜日の名六つと,それから **A-pril, Ju-ly, Au-gust** の三語。**三音節**は **Sat-ur-day** と **Sep-tem-ber, Oc-to-ber, No-vem-ber, De-cem-ber** の五語で, **Ja-nu-a-ry** と **Feb-ru-a-ry** とは**四音節**で曜日の名には四音節はないのである。

---

❶ sándi [サンディ]。❷ mándi [マンディ]。❸ tjúːzdi [テゆーズディ]。❹ wénzdi [ウェンズディ]。❺ θɔːzdi [すァ〜ずディ]。❻ fráidi [ふらイディ]。❼ sǽtədi [サタディ]。❽ dʒǽnjuəri [ヂャニゅアリ]。❾ fébruəri [ふェブるアリ]。❿ mɑːtʃ [マーチ]。⓫ éiprəl [エイプラル]。⓬ mei [メイ]。⓭ dʒuːn [ヂューン]。⓮ dʒulái [ヂュライ]。⓯ ɔːgəst [オーガスト]。⓰ səptémbə [サプテムバ]。⓱ ɔktóubə [オクトウバ]。⓲ novémbə [ノぶェムバ]。⓳ disémbə [ディセムバ]。

ところで，二音節以上の語を云ふ時には，發音の自然の必要上，その中の一音節，いや，その音節中の母音，母音と其前にある父音とで出來る熟音を，他の部分よりは特に強くはつきり言ひ，從つて其他の部分は，幾分か輕く弱く云ふことになる。

さて，この二音節以上の語は，其中の一音節，いや，その音節中の**母音**，またはその**母音と其前の父音**とを續けて云ふ音を強く云ふ。このことを**アクセント** (**accent**) と云ふのである。譯して〔揚音〕,〔强音〕とでも云ふか。兎に角他の部分よりも、調子を張り揚げて，强く，明瞭に云ふ音のことをアクセントと云ふのである。

本書では，英語の讀方を示すに，**太字體の活字**（**ゴジツク活字**）と**並字體の活字**とをまぜて，太字體の部分は，並字體よりも，强くはつきり讀んで貰ふことに定めてあるが，つまりその太字體の部分にその語のアクセントがあるのである。この意味から云へば一音節の語にもやはりアクセントはあるわけで，**dog** を［**ドッ**グ］と書けば［**ドッ**］にアクセントがあり，**cat** を［**キヤッ**ト］と書けば，［**キアッ**］にアクセントがあるわけである。

併し普通には，アクセントは，二音節以上の語にのみあるとして，その所在を示すアクセント符は二音節以上の語のみ附けて，一音節の語には附けないことになつてゐる。これは一音節にアクセントがないと云ふわけではなくて，一音節の語には母音が一つしかないから，その母音（と，其前の父音とを續けて云ふ音）を、他の父音より特に强く云ふ。即ち **dog** では **do** を **g** よりも强く，**cat** では，**ca** を **t** より强く云ふにきまつてゐて，一々符號を附けなくとも，誰でもまちがうことがないからと云ふので，これが一音節の語にアクセント符を附けない理由なのである。

（5）アクセント符

さて，二音節で以上の語に附けるアクセント符とは，どんなものであるか，何れの辭典を見ても，語のアクセントの所在を示すために［′］符を附けてあるので氣が附いてゐることだらう。あれが即ちアクセント符なのである。あの符號の附いてゐる母音（と，其前の父音とを續けて云ふ音）は，特に他の部分より，强くはつきり，即ちアクセントのあるやうに讀まねばならぬのである。例へば

Atlas（アトラス）「[ǽtləs] 地圖」とあれば，母音の［æ］を他の［tləs］よりは，ずつとはつきり，强く讀まねばならぬ。

人により，また辭書により，アクセント符を，母音の上に附けないで，其字の次に附けて［æ′tləs］とする人もあるが，どちらでもよい。

また音標文字でなく，普通英語綴りに附けるアクセント符は，やはり，母音字の上に附け átlas とすれば，よいわけであるが，それを，その音節の最後に附けて at′las とする人もあり，また反對に，音節の前につけて ′at-las とする人もあり。この式は音標文字の場合にも使つて ′ætləs とする人もあつて一定してゐない，だから若し諸君は新しい書物や辭書を使ふ時には，何處にアクセントを附けることに，其本や辭書ではなつてゐるかを一番に調べなければならぬ。

兎に角，母音字の上に附けると云ふのが，一番簡單でわかり易いから，近來では，一番廣くこれが行はれて來たやうである。本書にも，勿論その式を使つてある。

第三章　Phrase, Clause and Sentence

〔文と節と句〕

（1）句

「單語」と「熟語」の區別は誰にも解つてゐる筈。普通に語（**word**）（ワード）と云ふのは，單語のことである。「熟語」とは又**句**（**Phrase**）（ふれイズ）とも云ふ。これは二つ，または二つ以上の「語」が集つて，只一つの「語」があらはすと同じやうな意味をあらはすものを云ふのである。

例へば

in this place.（プレイス）

と三語が集ると，「この所に」だから，**here**（ヒア）（こゝに）と云つても同じ意味を表はすことになる。また

At that time.（タイム）

と三語で，「その時に」だから，**then**（ずエン）（その時に）と同じ意味になる。こんなのを〔熟語〕とも〔句〕とも云ふのである。

（2）文

語が集つて出來るものと云へば，**文**（**Sentence**）（センタンス）もやはりさうである。併し〔**文**〕は必ずそれだけで，一つの纏つた意味を言ひ表はしてゐなければならぬ。例へば

❶　私は　學校へ　行きます。

と云へば，それで纏つた一つのことを述べてゐるから，〔文〕である。

Phrase [freiz ふれイズ] 句。**Clause** [klɔːz クローズ] 節。**Sentence** [séntəns センタンス]。

❷ 私は　學校へ　行つて。

と云つたのでは，纏つてゐない。(行つて，それからどうするのか) まだその次に言ふべきことがあるから，それは〔文〕ではない。それは文の一部分で，全部ではない。英語で言へば

❶ I go to school.

は〔文〕だが。

❷ I going to school.

は〔文〕ではないのである。では，そんなのは何んと云ふのであるか，やはり「句」である，「熟語」である。二つ以上の言葉が集つても，「文」にならぬものは，皆「句」なのである。

(3)　節

節 (**Clause**) と云ふのは，またちがふのである。よく似てゐるが，全くちがふのだから，その區別は大に注意しなければならぬ。

〔**節**〕は，それだけを離せば，一つの〔**文**〕であるが，**つなぎことば**〔接續詞〕を使つて，他の〔文〕とつながりあつて，一つの長い文となり，その一部となつてゐるもの。

〔句〕は，それだけを離しては，一つの〔文〕とならぬもの，單に「文」の一部であるものを云ふのである。

例へば

I go to school, and (I) learn English.

(私は學校に行つて英語を習ひます)。

と云ふ文の一部

I go to school. (私は學校へ行きます)。

は，前にも言つた通りに，これだけでも，一つの纏つた意味を述べてゐるから，〔文〕であるが，それが

I learn English. (私は英語を習ひます)。

と云ふ別の文と，**and** と云ふ**つなぎことば**でつながれて，長い〔文〕の一章となつてゐるから，それは「節」である。併し

Going to school, I learn English.

(學校へ行つて，私は英語を學びます)。

の中の，**Going to school,** は，これだけでは，前にも言ふ通りに，纏つた意味でないから，他の部分と離せば，これだけで〔文〕とはならぬ，だから，これは〔節〕でなくて〔句〕の方だ。ただし **I learn English.** の方は，それだけで，立派に一つの纏つた意味を述べてゐるから，これは勿論〔節〕である。

次に〔A〕It is fine. [晴天です)。〔B〕I will start for Nikko. (日光へ出掛けやう)。これは〔A〕〔B〕二つとも意味が纏つてゐるから，立派な文である。併しこれを **if** (もし〜ならば) と云ふ**ツナギ言葉** (**接續詞**) でつないで

I will start for Nikko, **if** it is fine.

(晴天ならば日光へ出掛けやう)。

とすれば，これで一つの〔**文**〕となる，I will start for Nikko も if it is fine も各々その一節となつたわけである。而してツナギ言葉の附いてゐない方，即ち，I will start for Nikko の方を**主節** (**Principal Clause**) と云ひ，**ツナキ言葉**の附いてある方即ち if it is fine の方を**從節** (**Subordinate Clause**) と云ふ。つまり (出掛けやう) と云ふのがこの文では大切な事で、(若し晴天ならば) と云ふのは，その (條件)，(但しがき) であるから大切な事を述べる方を〔主節〕，(但しがき) の方を〔從節〕と云ふわけである。

〔從節〕の方を〔主節〕の後に置くものとは必ずしも定つて

ゐない，反對に

If it is fine, I will go to Nikko.

としてもよい，意味に少しも變りはないのである。

第四章　Subject, Predicate, Verb, Object and Complement

〔主部・叙述部・動詞・目的語・補語〕

	主部	叙述部			
	❶	❷	❸	❹	❺
〔A〕			(何を)		何せよ
〔B〕	何は				何する
〔C〕	何は			何	である
〔D〕	何は		何を		何する
〔E〕	何は	何に	何を		何する
〔F〕	何は		何を	何	とする

Subject [sʌ́bdʒikt サブヂクト] 主部。 **Predicate** [prédikeit プれディケイト] 叙述部。 **Verb** [vəːb ぶァ～ブ] 動詞。 **Object** [ɔ́bdʒikt オブヂクト] 目的。 **Complement** [kɔ́mplimənt コムプリマント] 補語。

(1) 文を作る要素(主部と叙述部)

文とは一つの纏つた意味を述べてゐるものを云ふのである。併し普通に文と云ふ以上は，少くとも**二つの語**が寄り集らねばならぬのがきまりである〔尤も **stand**(スタンド)(立て)，**Hear**(ヒア)(聞け)等の如く一語で立派な文をなしてゐる場合もあるが〕。その二つの語と云ふのは

❶ 文の頭になるべき語。　❷ 文の頭を説明する語。

この二つである。即ち ❶ 文の主人公となるべき語と ❷ その主人公がどんな働きや動作をするかを説明する語の二つが必要である。

文法ではこの頭になるべき部分を**主部**(**Subject**)と云ひ，頭になるべき部分を説明する部分を**叙述部**(**Predicate**)と名を附けて居るのである。

(2) 文の種類

最も簡單な文には，六種ある。

上表〔A〕の例

❶ Go.　(行け[5])。
❷ Stand(スタンド) up.　(立て[5])。
❸ Open(オウパン) | the door(ドー).　(戸を[3] | 開け[5])。
❹ Read(リード) | it.　(それを[3] | 讀め[5])。

斯んな風に ❶，❷ の例の如く上表の ⑤ だけより成るもの，または ❸，❹ の例の如く，⑤ の次に ③ を附加して出來てゐる文もある。

---

stand [stænd] 立つ。 **open** [óupən] 開ける。 **door** [dɔː] 戸。

上表〔B〕の例

❶ I go.　(私は[1]｜行く[5])。

❷ You stand up.　(君は[1]｜立つ[5])。

即ち上表の ① と ⑤ とより成立つてゐる文である。

上表〔C〕の例

❶ I｜am｜a student.(ステゆーダント)　(私は[1]學生[4]｜である[5])。

❷ He｜became(ビケイム)｜rich(リッチ).　(彼は[1]｜金持[4]｜になつた[5])。

即ち上表の ①, ④, ⑤ から成立つた文である。

上表〔D〕の例

❶ I｜open｜the door.　(私は[1]｜戸を[3]｜開く[5])。

❷ He｜reads(リーヅ)｜the book.　(彼は[1]｜本を[3]｜讀む[5])。

即ち ①, ③, ⑤ から成立つ文である。

上表〔E〕の例

❶ I gave(ゲイぶ) him a book.

(私は[1]｜彼に[2]｜本を[3]｜やつた[5])。

❷ Father(ふアーずア) bought(ボート) me a fountain-pen(ふアウンテインペン).

(父が[1]｜私に[2]｜萬年筆を[3]｜買つて下さつた[5])。

①, ②, ③, ⑤ から成立つてゐる文である。

上表〔F〕の例

❶ They think(すイんク) him honest(オニスト).

(彼等は[1]彼を[3]｜正直[4]｜と思つてゐる[5])。

---

became [bikéim] は **become** [bikám ビカム] 〜に成るの過去。**rich** [ritʃ] 金持の。**gave** [geiv] は **give** [giv ギぶ與へる] の過去。**bought** [bɔ:t] は **buy** [bai バイ 買ふ] の過去。**fountain-pen** [fáuntinpen] 萬年筆。**think** [θiŋk] 思ふ。**honest** [ɔ́nist] 正直な。

❷ I found(ふアウンド) the book easy(イージイ).

〔私は[1]｜その本が[3]｜やさしい[4]｜のに氣が附いた[5]〕。

斯んな風に ❶, ❸, ❹, ❺ より成立つてゐる文である。

以上述べた六種の文を，今述べた例に依り表と比較研究して貰ひたい。

① 六種の文中，どれにも ❺ は必ずある。即ち ❺ なくては文は成立しないのである。

② 六種の文中，〔A〕を除いては ❶ は必ずある。即ち（何せよ）と命令する文の外は，❶ は必ず入用で，これがなくては文は成立しないのである。

③ ただし，❷, ❸, ❹ は場合に依つてはなくともよいのである。❶ や ❺ のやうに，なくては文は成立しないと云ふほどに入用なものではないのである。

以上の説明に依り（文に入用な部分）は，これを二つに分けることが出來，❶ の（何は）に相當する部分を〔主部〕**Subject**(サブヂクト) と云ひ，❸ 以下 ❺ までの全部を總稱して，〔敍述部〕**Predicate**(プれディキット) と云ふのである。〔文〕**Sentence**(センタンス) は〔A〕のやうな命令文（何何せよ）の外は，必ず〔主部〕と〔敍述部〕との兩部から成立つのである。

(3) 述動詞又は動詞

〔敍述部〕と云ふ中には，必ず主部の「動作」や「有樣」を述べる語，即ち上表中の ❺ の語がある。前にも述べた通り、文の種類により，❷, ❸, ❹ のない場合はあつても，この ❺ のない文は決してないのである。

---

found [faund] は **find** [faind ふァインド] 氣が附くの過去。**easy** [i:zi] 容易な。

文法では，この「何する」と「動作」や「有様」を言ひ表はす語のことを**述動詞**(**Predicate Verb**) 又は略して**動詞**(**Verb**) といつてゐるのである。

(4) 目的語と補語

今述べた通り，叙述部の中には必ず少くとも一つの動詞がなくてはならぬが，これでは叙述部は動詞ばかりでよいかと云ふにさうではない，

❶ 上表〔A〕や〔B〕の如く動詞のみで叙述部の出來てるもの。

❷ 上表〔C〕,〔D〕,〔E〕,〔F〕の如く動詞に他の語を加へねば叙述部が完全せぬもの。

と斯う二種あるのである。これは**動詞**其物の表はす意味の如何によるのである。例へば前例の

I go.　〔私は行く〕。

You stand up.（スタンダップ）〔君は立つ〕。

これだけで意味はよく解るのである。上例の **go**〔行く〕, **stand**〔立つ〕は何れも動詞だけで，完全なる叙述部を成立させるものであるが，

I **open.**（オウパン）〔私は開く〕。　He **reads.**（リーヅ）〔彼は讀む〕。

この **open**（開く）や **reads**（讀む）と云ふ動詞は，それだけで完全なる意味は表はれてゐない。(何を) 開くのか，(何を) 讀むのか，其 (開く) の相手，(讀む) の目的を表はさねばならぬ。だから，

Predicate Verb [prédikeit vəːb プれディケイト ぶァ〜ブ] 述動詞。

I open **the door.**　〔私は**戸を**開く〕。

He reads **the book.**　〔彼は**本を**讀む〕。

斯んなに **open** や **reads** の目的になるもの，**the door, the book** の類の語を入れて，始めてその意味が完成するのである。かく動詞の目的になる語のことを**目的**(**語**) **Object**（オブヂクト）と云ふ。

また

I am.〔私はである〕。　He became.（ビケイム）〔彼はになつた〕。

これも完全な文ではない，(何であるか)，(何になつたか) を言はねば，纒つた意味にならない。

I am **a student.**（ステゆーダント）　〔私は**學生**である〕。

He became **rich.**（ビケイム　リッチ）　〔彼は**金持**になつた〕。

斯んなに **am** や **became** の意味を説明する語がなくてはならぬ。かく動詞について説明する語を**補語** (**Complement**（コムプリマント）) と云ふ。補語は動詞の目的ではなく，唯其動詞だけでは「である」「になつた」と云つた風に意味が纒らない，説明が缺けて居ると云ふので，其の缺けて居るのを補ふために用ひられるものである。

(5) 目的語と補語を必要とする動詞

また

They **think** (すイんク) **him.**　〔彼等は彼をと思ふ〕。

I **found** (ふアウンド) the book.　〔私はその本がに氣が附いた〕。

この **think**（と思ふ），**found**（に氣が附いた）と云ふ動詞には，(誰を思ふ)，(何を〜に氣が附いた) といふ其動作の目的は him 又は the book とあらはれてゐるが，併しまだこれだけでは纒つた意味は解つてゐない，(何と思つた) のか，(何に氣が附いた) のかを言はねばならぬ。で，

They think (すインク) him **honest.** (オニスト)

〔彼等は彼を**正直**と思つてゐる〕。

I found (ふアウンド) the book **easy.** (イーズイ)

〔私はその本が**やさしい**のに氣が附いた〕。

斯んな風に説明の語，即ち補語を入れてこそ，始めて一つの完全な文と云はれるのである。

(6) 二重目的

動詞の中にはまた二重目的と云つて，一つの動詞に二つの目的語を取らねばよく纏つた叙述部にならぬものがある。例へば

I **gave** him a book. 〔私は彼に本をやつた〕。

此文に於ける **gave** (やつた) と云ふ動詞には二重の目的語がある。(**誰れに**) と云ふ (**人**) の目的を表はす **him** と，(**何を**) と云ふ (**物**) の目的を表はす **a book** と二つながら，動詞の **gave** の目的語である。其一方を缺いても，意味は必ずしも解らぬと云ふわけではないが，兩方あつて明瞭にその意味の解る叙述部をかたちづくつて居るのである。

文法では此二重目的語の中

〔A〕 人を表はす方を**間接目的語** (**Indirect Object**) (インディれクト オブヂクト)

〔B〕 物を表はす方を**直接目的語** (**Direct Object**) (ディれクト)

と名を附けてゐる。

この文はまた書き改めて

I gave a book **to him.**

Indirect Object [indirékt ɔ́bdʒikt インディれクト オブヂクト] 間接目的。 **Direct Object** [dirékt ɔ́bdʒikt ディれクト オブヂクト] 直接目的。 **bought** [bɔ:t] は **buy** [bai バイ—買ふ] の過去。 **fountain-pen** [fáuntinpen] 萬年筆。

としても差支へない。a book も him も何れも gave の目的語だから，何れを先に置いても更に差支はないのである。但し a book の方は him の後にある時も，また書き直した例のやうに前にある時も，常に a book のまゝで，別に其位置は變るが爲に別の語の助けを借りる必要はないが，him の方は，前にある時は單に him であつたが，後に置かれると **to him** と，別の語 **to** の助勢が必要になつて來るのである。

Father (ふアーザア) bought **me** a fountain-pen. (ふアウンテインペン)

Father bought a fountain-pen **to me.**

(父が私に萬年筆を買つて下さつた)。

斯んな次第で，同じく動詞と云ふ中にも

❶ 目的語も補語もなく使はれる動詞と

❷ 補語があつて．目的語なく使はれる動詞と

❸ 目的語はあるが，補語はなくて使はれる動詞と

❹ 目的語も補語も兩方ながらを備へて使はれる動詞と

合計四種の別があるわけである。

第五章 Intransitive Verb and Transitive Verb

〔自動詞と他動詞〕

(1) 自動詞と他動詞

前に述べた如く，動詞には，それだけで纏つた意味を表はすものと，動詞の次に其動作の目的になる語を加へ始めて纏つた

Intransitive Verb [intrǽnsitiv vɔ:b イントらンスィティイぶ ぶァ〜ブ] 自動詞。 **Transitive Verb** [trǽnsitiv vɔ:b トらンスィティぶ ぶァ〜ブ] 他動詞。

意味を表はすものとある ① 動詞だけでよく纏つた意味を表はすもの，即ち目的語なくて使はれる動詞を**自動詞**(**Intransitive Verb**) と云ふのである。② 目的語が必ずある動詞，即ち目的語がなくては意味の完全しない動詞を**他動詞**(**Transitive Verb**) と云ふのである。

(2) 完全自動詞と不完全自動詞

以上は自動詞，他動詞の大體の區別であるが，尙ほ詳しく云ふと，自動詞を更に分ちて**完全自動詞**(**Complete Intransitive Verb**) と**不完全自動詞**(**Incomplete Intransitive Verb**) の二つに區別するのである。

完全自動詞 これは自動詞自身で意味の完全なものである。

❶ I **go.** (私は行く)。

❷ You **stand up.** (君は立つ)。

go, stand いづれもそれ自身で意味の完全な動詞だから完全自動詞である。

不完全自動詞 これは自動詞ではあるが，それだけでは意味が十分でない，それで何かその意味を補ふ語 (即ち**補語**) を後に入れなければならぬ，但しそれは目的ではない (補語であるから混用しないやう注意が肝要である)。かゝる種類の動詞は **is, are, become** などがその最も普通な語である。

❶ I **am** a student. (私は學生である)。

❷ He **became** rich. (彼は金持になつた)。

上例を見るに，只 I **am** だけでは (私はある) と云ふことで

Complete [kəmplí:t カムプリート] **Intransitive Verb** [完全自動詞]。**Incomplete** [inkəmplí:t インカムプリート] **Intransitive Verb** [不完全自動詞]。

(何んであるのか)分らない，

(學生なのか)，(軍人なのか)，(商人なのか) その意味は不十分である，それで a **student** と云ふ語があつて始めて (私は學生である) ことが明かになるのである。又 **He became** (彼はなつた) だけでは意味が不十分である，**rich** と云ふ語を補つて意味が完全するのである。かく自動詞の意味の不十分なのを補ふ語を**補語**と云ふのである。而して通常補語に用ひられる語は student の如き名詞又は rich (金持の) の如き形容詞である。

(3) 完全他動詞と不完全他動詞

他動詞にも**全完他動詞** (**Complete Transitive Verb**) と**不完全他動詞** (**Incomplete Transitive Verb**) の區別がある。

完全他動詞 これには目的を ❶ **一つ取るもの**と，❷ **二つとるもの**との二種類ある。

❶ I **open** the door. (私は戸を開く)。

❷ He **reads** the book. (彼は本を讀む)。

以上 **open, reads** なる動詞は目的を一つ取る他動詞である。次に目的を二つ取る動詞に就て述べやう。

此は **give** (與へる)，**show** (示す，敎へる)，**tell** (告げる)，**send** (送る)，**bring** (持つて來る)，**teach** (敎へる)，**buy** (買ふ) などの動詞である。

❶ I **gave** him a **book.** (私は彼に本をやつた)。

❷ Father **bought** me a **fountain-pen.**

Complete Transitive Verb [完全他動詞]。**Incomplete Trnsitive Verb** [不完全他動詞]。

（父は私に萬年筆を買つて下さつた）。

❸ He kindly **showed** me the **way** to the station.
（彼は親切にも停車場へ行く道を案内して呉れた）

❹ Uncle **sent** me a beautiful **camera.**
（叔父は美しい寫眞機を僕に送つてくれた）。

❶ は **him, book** を，❷ は **me, fountain-pen** を，❸ は **me, way** を ❹ は **me, camera** を目的とせる場合である。而してこの二つの目的の中 **him, me** の如く人を表す目的を間接目的と云ひ，物を表はすものを直接目的と云ふ。

不完全他動詞 これは目的以外に補語を必要とする他動詞である。これを不完全他動詞と云つて、**think**（思ふ），**find**（氣が附く），**believe** (bilí:v ビリーぶ・信ずる），**make**（～を～せしめる）の如きがこれである。

❶ They **think him honest.**
（彼等は彼を正直と思つてゐる）。

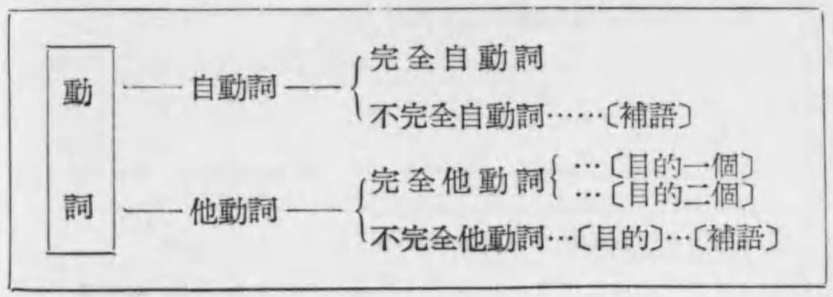
❷ I **found** the **book easy.**
（私はその本がやさしいのに氣が附いた）。

❶ に於ては **him** は目的，**honest** は補語である。これは They think him だけでは（彼等は彼を思ふ）と云ふことで，どう思ふのかさつぱり分らない，そこで **honest** なる語を補ふて始めて意味が完全するのである。❷ も同樣である。

以上述べた所を簡單に表示して置く。

---

kindly [káindlí] 親切にも。**way** [wei] 道。**beautiful** [bjú:təful] 美しい。**camera** [kǽmərə] 寫眞機。**show** [ʃou] 示す，敎へる。**station** [stéiʃən] 停車場。**uncle** [ʌ́ŋkl] 叔父。



第六章 Modifier〔修飾部〕

〔入用な部分と修飾部、及び其名稱〕

❶ **Many** birds fly **merrily.**
（多くの鳥は樂しさうに飛ぶ）。

❷ We are **good** students.
（吾々は善良なる學生である）。

❸ He became **a rich** man.
（彼は金持になつた）。

❹ I saw **a small boat.**
（私は小さいボートを見た）。

❺ I gave him **many** books.
（私は彼に澤山本を與へた）。

❻ I think **the** man **very** clever.
（私はその男は大變利巧だと思ふ）。

Modifier [mɔ́difaiə モディふァイア] 修飾語。**merrily** [mérili] 樂しさうに。**clever** [klévə] 利巧な。**fly** [flai] 飛ぶ。

以上の文を各部に分類して見やう。

主部		叙述部		
		動詞	目的部	補足部
❶	Many **birds**	**fly** merrily		
❷	**We**	**are**		good **students**
❸	**He**	**became**		a rich **man**
❹	**I**	**saw**	a small **boat**	
❺	**I**	**gave**	**him** many **books**	
❻	**I**	**think**	the **man**	very **clever**

以上の各文には，二語，またはそれ以上から一部になつてゐるものが澤山あることに注意せねばならぬ。即ち ❶ の主部は **Many birds** と二語から成つてゐる。

❶ の動詞 **fly** には **merrily** と云ふ語が附いてゐる。❹, ❺, ❻ の目的部は **a small boat, many books, the man** と二語または三語より成立つてゐる。

❷, ❸, ❻ の補足部は **good students, a rich man, ver clever** と二語または三語より成立つてゐる。

斯んな風に，どの部分も，二語，またはそれ以上より成立つことが往々あるが，こんな場合には，其中に殊に大切で，これを省くことの出來ない語と，單にその大切な語を説明する爲に附いてゐるだけで，これを省いても，文は成立つものと，二種あるわけである。

上表中の太字體(黑字)の語は，大切な語で，これがなくては

文は成立たぬものである。併し並字(細字)の語は，説明のために附いてゐるもので，略しても差支ないと言はば言はれるものである。

文法では

① 主部中の大切な語を**主語**(サブヂクト ワード **Subject Word**)

② 目的部中の大切な語を**目的語**(オブジクト ワード **Object Word**) 略して**目的**

③ 補足部中の大切な語を**補足語**(コンプリメント ワード **Complement word**) 又は**補語**と名づけ，これに對して

❶ 主部中の，主語以外を**主語の修飾語**(サブジクト モデイふアイア **Subject Mondifeir**)

❷ 目的部中の，目的語以外を**目的語の修飾語**(オブヂクト モデイふアイア **Modifeir**)

❸ 補足部中の，補足語以外を**補足語の修飾語**(コムプリマント モデイふアイア **Complement Modifeir**) と云ひ，

❹ また動詞に附いてゐる語を**動詞の修飾語**(プれデイケイト モデイふアイア **Predicate Modifeir**)

と名を附けてゐる。(**修飾**) とは (**説明**) と云ふも同意であるから，(修飾語) とは，つまり「説明の役目をする語」と云ふことなのである。

Subject Word [主語]。 **Object Word** [目的語]。 **Complement Word** [補足語，補語]。 **Subject Modifier** [主語の修飾語]。 **Object Modifier** [目的語の修飾語]。 **Complement Modifier** [補足語の修飾語] **Predicate Modifier** [動詞の修飾語]。

第七章 Classes of Sentences (I)

〔文の種類 (1)〕

形式上から見た文の種類と其名稱

文 (Sentence) を，その形の上から分類すると

❶ 單 文 (Simple Sentence)

❷ 混 文 (Complex Sentence)

❸ 複 文 (Compound Sentence)

の三種になる。

(1) 單 文

單文とは，節一つより成る文である。即ち單に一個の主部と叙述部から成る文である。句は幾つあつても差支へないが，節は必ず一つだけで，二つ以上ない文を云ふのである。

(2) 混 文

混文とは，主節と從節とから成る文である。從つて主語も動詞も各部に一つづゝあるから，合計二つづゝあるわけである。

(3) 複 文

二つ又は二つ以上の節が and, but, or 等の語でつながれた長い文である。二つの節から成り立つ文であることは，混文と同じであるが，二つながら**主節**で，**從節**はないのである。言ひ

Simple Sentence [símpl séntəns] 單文。**Complex** [kəmpléks] **Sentence** [混文]。 **Compound** [kɔ́mpound コムパウンド] **Sentence** [複文]。

かへれば「混文」は（主節＋從節）又は（從節＋主節）であるが，**複文**は（**主節＋主節**）即ち（單文＋單文）の形式である。

さて以上の説明で「形の上から分類した文の三種類」が大體お解りになつたことゝ思ふので，次に例を擧げて説明しませう。

❶ Birds fly from flower to flower.

(鳥が花から花へ飛ぶ)。

この文には「つなぎことば」はない。**主語**は **birds** で，**動詞**は **fly** これだけで，外にはない。from fllower to flower は動詞の fly を説明する句である。即ち主語も動詞も一つづゝしかないから，單文である。

❷ The whale is not really a fish.

(鯨は實際は魚ではない)。

この文は單文である。**主語**は **whale** で，**動詞**は **is** で，各一つづゝしかない。not と really は is を修飾する副詞，fish は主語 whale と同一物を指す補語で，名詞である。

❸ Stephenson invented the steam-engine.

(ステイーブンソンは蒸氣機關を發明した)。

これは單文である。**主語**は **Stephenson** で，**動詞**は **invented** で，外にない。steam-engine は，動詞 invented の目的語である。

❹ I don't know **that** Ota will come.

(私は太田が來るつもりであることを知らない)。

この文には **that** と云ふ**つなぎことば**がある。而して，それ

---

flower [flauə]。 **birds** [bə:dz]。 **whale** [weil]。 **really** [ríəli] 實際は，本當は。 **fish** [fiʃ]。 **Stephenson** [stí:vnsn]。 **invent** [invént] 發明する。 **steam-engine** [stí:mendʒin]。

の附いてゐる **that** Ota will come（太田は來でるあらう事）の方が，從節で，つなぎことばの附いてゐない I don't know（私は知らない）の方が，主節である。「**主節＋從節**」の形式の文であるから，**混文**である。節は主節の動詞 know の目的部の役目をしてゐる。

❺ Let us go to the park, **as** it is fine weather to-day.

（公園に行かうではないか，今日は好天氣だ**から**）。

この文は混文である。Let us go to the park.（公園に行かうではないか）が主節で，**as** と云ふ**つなぎことば**の附いてゐる **as** it is fine weather to-day（今日は好天氣だ**から**）の方が從節である。

❻ The sun has risen **and** the birds are singing merrily.

（太陽が昇つた，**それで**鳥が樂しさうに囀つてゐる）。

この文はつなぎことば **and** でつながれてゐる。and, but, on 等でつながれた時は，どちらの節が〔**主**〕で，どちらが〔**從**〕と云ふ區別なく，兩方對等の地位にあるので，こんな文を複文と云ふのである。「**主節＋主節**」は複文ですよ。

❼ **As** the sun has risen, the birds are singing merrily.

（太陽が昇つた**から**鳥が樂しさうに囀つてゐる）。

---

let［～をして～せしめよ、～しやうぢやないか］。**park**［pɑːk］公園。**fine weather**［fain wéðə］好天氣。**sun**［sʌn］。**risen**［rízn］は **rise**［raiz らイズ―昇る］の過去分詞。**singing**［síŋiŋ］＝歌ひつゝ。**merrily**［mérili］樂しさうに。

此の文の意味は今上に述べた前例題 ❻ と同じであるが，つなぎことばに as を使つてあるから，as the sun has risen（太陽は昇つてしまつたから）と云ふ方が從節で，つなぎことばの附いてゐない the birds are singing merrily（鳥が樂しさうに囀つてゐる方が主節，從つてこれは混文である。

❽ The sun **having risen,** the birds are singing merrily.

（太陽が昇つ**たから**鳥が樂しさうに囀つてゐる）。

これは ❻，❼ と同意であるが，the sun having risen（太陽が昇つてしまつたので）と云ふ中には，主語 sun はあるが，動詞がない。having risen は動詞ではない。後章で述べる分詞である。從つて，the sun having risen と云ふ一團中には主語はあつても動詞はないので，「節」とは云へない。一種の「**句**」である。「〔節〕＋〔文〕＝複文」ではなくて，單文である。

斯んな風に同じ意味の事を云ふのに ❽ 單文を用ひても，❼ 混文を用ゐても，❻ 複文を用ひても表はすことが出來るのである。

第八章 Classes of Sentences (II)

〔文の種類 (2)〕

〔用法から見た文の種類と其名稱〕

文を其用法から見て分類すると，次の五種となる。

❶ 平叙文 (Assertive Sentence)
❷ 疑問文 (Interrogative Sentence)
❸ 感歎文 (Exclamative Sentence)
❹ 命令文 (Imperative Sentence)
❺ 祈願文 (Optative Sentence)

(1) 平叙文

平叙文は，事實其のまゝ述べる文を云ふのである。分つて「肯定形 (Affirmative Form)」と「否定形 (Negative Form)」とにするのである。

(A) He gets up early in the morning.
(彼は朝早く起床します)。

Assertive Sentencs [əsə́:tiv séntəns アサーティぶ センタンス] 平叙文。 **Interrogative Sentence** 疑問文。 **Exclamative** [iksklǽmətiv イクスクラマティぶ] **Sentence** 感歎文。 **Imperative** [impérətiv インペラティぶ] **Sentence** 命令文。 **Optative** [ɔ́ptətiv オプタティぶ] **Sentence** 祈願文。 **Affirmative Form** [əfə́:mətiv fɔ:m アふァマティぶ ふォーム] 肯定形。 **Negative** [négətiv ネガティぶ] **Form** 否定形。

(B) He is a diligent boy.
(彼は勤勉な少年です)。

の二文は肯定形の平叙文である。而して

(C) He is not an idle boy.
(彼は怠惰な少年ではありません)。

(D) He does not play as other boys.
(彼は他の少年のやうに遊びません)。

の二文は否定形である。否定形は (何は何**せぬ**), (何は何**でない**), (何は何々何**せぬ**), (何は何を何**とせぬ**), (何は何**しなかつた**) と云つた風に否定の意を表はす形である。

(2) 疑問文

疑問文は，問ふ時に使ふ文で，これにも肯定形と否定形がある。

(A) Are you fond of reading?
(讀書が好きですか)。

(B) Have you any relations in Tokyo?
(君は東京に親戚がありますか)。

(D) What is the matter with you?
(どうしたんですか)。

の三文は肯定形の疑問文であるが，

(C) Do you not often go on picnics?

---

be fond of=like 好む。 **idle** [áidl] 怠惰な。 **other** [ʌ́ðə] 他の。 **relation** [riléiʃən] 親戚，親類。 **reading** [rí:diŋ] 讀書。 **matter** [mǽtə] 故障，重大な。 **go on picnics** [píkniks] 野遊びに行く。 **often** [ɔ́:fn] 屢々。

（君は度々野遊びに行きませんか）。

は否定形の疑問文である。

（3） 否定文と疑問文

平叙文中，（何は何**する**），（何は何**である**）と云ふ意味を**肯定の平叙文**と云ひ，（何は何**しない**），（何は何**でない**）と云ふ意味を述べる文を**否定の平叙文**と云ふ。

同じわけで，（何は何**するか**），（何れは何**であるか**）と問ふ文を**肯定の疑問文**と云ひ，（何は何**しないか**），（何は何**でないか**）と問ふ文を，**否定の疑問文**と云ふ。この事は今更申述べるまでもなく，前項で述べたから十分お解りになつてゐることゝ思ふ。

〔第四章 主部，叙述部，動詞，目的語，補語〕で擧げた六種の文中，（A）の（何**せよ**）（これは命令文）の外の五種は全部，平叙文の肯定形である。

然るに**否定の平叙文**は，動詞が is, am, are 等即ち **Be 動詞**の時や，have, has 即ち **have 動詞**の場合，また can, must 等がついてゐる時は

❶ I **am not** a girl（ガール）.　（私は少女ではありません）。

❷ I **have not** a pen.（私はペンを持つてゐません）。

❸ I **can not** speak（スピーク） English well.

（私は英語がよく話せません）。

❹ You **must not** go to the Cinema（スイニマ）.

（お前は映畫へ行つてはなりません）。

と云つた風に **not** を **is, am, are,** や, **have, has, can, must** の次に置くのであるが，其他の動詞の場合には，not を

---

speak [spiːk]。　**cinema** [sínimə]。

次に置かないで，反對に動詞の前に not を置き，且つ **do** と云ふ別の語を，その **not** の前に添へて云ふのである。

❶ I **do not get**（ゲット） up at six o'clock（アクロツク）.

（私は六時に**起きません**）。

❷ I **do not change**（チエインヂ） my clothes（クロウヂズ）.

（私は私の書物を**着換えません**）。

❸ I **do not wash**（ウオツシユ） my face（ふエイス） and hands（ハンヅ）.

（私は私の顔や手を**洗ひません**）。

こんな風に，否定の平叙文は

主語＋do not＋動詞＋其他

と云ふ順になるのである。**do not** 二語をつめて **don't** [dount ドウント] と云つてもよい。**donot** とあるべきを後の **o** を省いて，其代りに（其處に字を省いた）と云ふことを知らしめるための符號，即ち**省字符**（'）を附けたのが **don't** である。だから意味は同じである。

次に**疑問文**のお話にうつります。肯定の疑問文は，動詞が **is, am, are**（即ち **Be** 動詞）か，**have, has**（即ち **have 動詞**）の場合，また **can** や **must** が附いてゐる時には，それを主語の前に出して

❶ **Are you** a boy?　（君は少年ですか）。

❷ **Have you** a racket（らキツト）?

（君はラケツトを持つてゐますか）。

❸ **Can you** speak（スピーク） English well（ウエル）?

---

get up [起床する]。　**o'clock** [əklɔ́k] ～時。　**change** [tʃeindʒ] 變へる。　**clothes** [klouðz] 着物。　**cloth** [klɔːθ クローす] 反物。　**wash** [wɔʃ] 洗ふ。　**face** [feis]。　**hands** [hændz]

（君は英語を上手に話しますか）。

❹ **Must I** go at once?

（私は直ぐ行かねばなりませんか）。

と云つた風にするのであるが，其他の動詞の場合には，動詞はやはり平叙文の場合と同じに，主語の次に置いたまゝにして，其代りに，例の **do** を一つ餘計に主語の前に置いて

❶ **Do you get** up at six o'clock?

❷ **Do you change** your clothes?

❸ **Do you wash** your face and hands?

こんな風に，肯定の疑問文は

Do＋主語＋動詞＋其他～？

と云ふ順に，ことばを並べるのである。

do はこんな譯で，否定文や疑問文の場合に，動詞に添へるもので，**do** と云ふ語には，別段意味があるのではない。

否定の疑問文は，**do の代りに don't を使ふか，または do ＋主語の次に not を置いて，**

❶ { **Don't you get** up at six o'clock?
　 { **Do you not get** up at six o'clock?

❷ { **Don't you change** your clothes?
　 { **Do you not change** you clothes?

の如くするのである。

以上述べた四つの文の語順をもう一度次に表示して置きます英文の根本とも云ふべきものですから，しつかり覺えて下さい。

❶ **肯定の平叙文**

主語＋動詞＋其他

---

at once [wʌns] 直ぐ，直ちに。

❷ **否定の平叙文**

主語＋{do not / don't}＋動詞＋其他

❸ **肯定の疑問文**

Do＋主語＋動詞＋其他～？

❹ **否定の疑問文**

[Do＋主語＋not＋動詞＋其他？
Don't＋主語＋動詞＋其他？]

但し，動詞が is, am, are, was 等の（**"Be" 動詞**）か，have, has, had 等の（**"have"**）の場合，また，**can** とか **must** の附く場合には，**do** は一切不用で，これ等の語を**主語**の前に出せば疑問文となり，これ等の次に **not** を置けば否定文となるのである。

（4）Does の用法

所で，こゝに一つ，また大に注意を要する點がある。それは **I** と **you** との外の，一人を指す語，一事一物を指す語，例へば the boy だとか，he だとか a desk とか云つた風の語が主語の場合である。其場合には

肯定の平叙文は

He **gets** up at six o'clock.

He **changes** his clothes.

と云つた風に，動詞の語尾に **"s"** か **"es"** を附けたものを使はねばならないのである。

否定の平叙文の場合には

その 's' いや **"es"** の方を，動詞に附けないで，**do** に附けて **does** [dʌz ダズ] を使つて

❶ The **boy does** not get up at six o'clock,

（少年は六時に起きません）。

❷ **He does** not change his clothes.

（彼は彼の着物を書換えません）。

❸ He **does not** wash his face and hands.

（彼は彼の顏や手を洗ひません）。

同じわけで，疑問文にも **do** の代りに **does** を使つて（動詞には **s** も **es** も附けないで）

❶ **Does** the boy get up at six o'clock?

（少年は六時に起きますか）。

❷ **Does** he change his clothes ?

（彼は彼の書物を着換へますか）。

と云つた風に云ふのである。つまり肯定の平叙文の時だけは，動詞に "**s**" か "**es**" を附けた形を使ふが，否定文や疑問文には，**do** に **es** を附けた **does** を使ふから，動詞は元形のまま（**s** や **es** を附けては二重になる）を使ふのである。また **do not** が **don't** とつまるやうに，**does not** も **doesn't** とつまり，語の位置は **don't** の場合と同じである。お解りになりましたか，説明が長くなりましたが，よく讀んで下さい，繰返して讀んでゐると自然と解ります。では次に**感歎文**に就いて説明しませう。

（5）感歎文

感歎文は，感動を表すに使ふ文で，**what** か **how** かを普通其文頭に置くのである。

（A） How（ハウ） clever（クレヴァ） the boy is!

（その少年は**なんとまあ**利巧なこと）。

（B） What（ウオット） a clevar boy he is?

（同　　上）。

を平叙文に直して見ませう。

主　部	動　詞	其　他
❶ The boy	is	very clever
❷ He	is	a very clever boy

と順序となるのである。而して，感歎文は，「**其他**」を主部と動詞との前に出して

其　他	主　部	動　詞
❶ How clever	the boy	is!
❷ What a clever boy	he	is!

と云つた順序に並べるのである。

What と **how** と，どちらをどこに使つてもよいと云ふのではない。「**其他**」と云ふ中に**名詞のある時は what** を，**名詞がない時は how** a を使ふのがきまりである。即ち **how** を以て書く時は，その後に形容詞又は副詞を伴ひ，**what** で書く時は，後に名詞を伴ふのである。

感歎文の最後には**感歎符**（イクスクラメイシヤン　マーク）（**Exclamation Mark**）（**!**）を附けるのがきまりである。わかりましたか，

❶ 平叙文の最後には**終止符**（ピアリアド）（**Period**）

❷ 疑問文の最後には**疑問符**（クウエスチヤン　マーク）（**Question Mark**）

Exclamation Mark [ikskləméi:ʃən mɑ:k イクスクラメイシヤンマーク] 感歎符。**Period** [píəried ピアリアド] 終止符。**Question** kwéstʃən クウェスチャン] **Mark** 疑問符。

❸ 感歎文の最後には**感歎符**を附けるのですよ。

❶ (A) **What** a high mountion it is!
(ウオツト ハイ マウンテイン)

(B) **How** high the mountain is!
(何んと高い山だこと)。

❷ (A) **How** bright the moon is!
(ハウ ブライト ムーン)

(B) What a bright moon it is!
(何んと月が輝いてゐること)。

上例は **how** の次に形容詞の來た場合で ❶, ❷ の (A), (B) 共に其意味は同じである。

(6) 命令文

命令文は, **命令**, **依頼**, **禁止**などの意を表はす文で, この文に限り, 特に主部を省くのが普通である。命令文の終りには終止符を書く, 但し感歎符を附けることもあるが, これは特に意味を強める場合である。

本章の初めの例題 ❹

(A) **Go** to school at once.
(直ぐ學校へ**行け**)。

(B) **Don't** go there. (其處へ行くな)。

は命令文である。尙一二例を擧げると

❶ **Stop** that noise. (その音を**やめなさい**)。
(ストップ ノイズ)

❷ **Be** silent. (靜かに**なさい**)。
(サイレント)

---

mountain [máuntin] 山。 **high** [hai] 高い。 **bright** [brait] 輝ける。 **moon** [mu:n] 月。 **stop** [stɔp] 止める。 **noise** [nɔiz] 音響。 **silent** [sáilənt] 靜かな。

命令文でも, **强勢** (意味を强めること) **其他のため**に, 主語に **you** を附けることがある。

❶ **You stop** that noise!
(君, 音を止めと云へば)。

❷ You are silent! (君, 靜かにしろと云へば)。

命令文の最初又は最後に **please** 又は **if you please** 等の語句を附けると, **依頼**の意を表すことになる。

❶ **Please** stop that noise.
(プリーズ)
(その音を**止めて下さいね**)。

❷ Be silent, **if you please.**
(**どうぞ**靜かにして**下さいまし**)。

依頼の意を表はすには, 次のやうな疑問文の形を使つても差支ない。

❶ Will you kindly stop that noise?
(カインドリ)
(どうかその音をやめて下さいませんか)。

❷ Will you please be so kind as to be silent?
(カインド)
(**失禮ですが** どうか靜かにして下さらないでせうか)。

禁止の意を表すには, 命令文の最初に **do not, don't** または **never** と云ふ語句を添へるのである。
(ネバア)

❶ **Do not** go there at once.
(あそこへ直ぐ行くな)

❷ **Don't** be idle. (なまける**な**)。

---

please [pli:z] どーぞ。 **kindly** [káindli] 親切にも。 **so～as to** 〔～ほどに～〕。

❸ **Never** do such a thing.
(**決して**そんなことを**するな**)。

(7) 祈願文

祈願文は**神に祈願する場合**，其他**強い願望**を述べる場合に使ふ文で，形は命令文によく似てゐるのである。即ち，此の場合・主語は動詞の後へ來るのである。

本章 ❺ の例

Long live the Emperor!
(天皇萬歲)。

の意で May the Emperor live long! と同意である。

❶ Were I young again! (=I wish I were young again.) (もう一度若かれかし)。

❷ (May) God bless me! (=I pray that God may bless me!) (神よ，守らせ給へ)。

祈願文の最初には may を置くことが多いのである。また文尾に感歎符 (!) を附けるのが普通である。

---

never [névə] 決して〜ぬ。 **such** [sʌtʃ サッチ] そのやうな。 **long live** [長く生きる]。 **young** [jʌŋ] 若く。 **again** [əgéin] 再び。 **God** [gɔd] 神。 **bless** [bles] 祝福す，守る。 **pray** [prei] 祈る。

第九章 Position of the Words

〔語の位置〕

(1) 主語と動詞の位置

〔A〕 **平叙文** 平叙文に於ては**主語＋動詞**の順序に配列するのが普通であることは既に述べた。

❶ At last **he made up** his mind to return.
(遂に彼は歸る決心をしました)。

❷ A poor **farmer** by the banks of the River Nile **had** a very wise dog.
(ナイル河の邊の貧しき一農夫が大變賢い犬を持つてゐました)。

上例に示せる如く，① にありては **he** が主語で，**made up** が動詞，② にありては **farmer** が主語で，**had** がその動詞である。

併しこの順序に從はない場合がある。

There is の如く **there** で文を導く時には，主語は動詞の後に來るのである。從つて主語が單數であるか，復數であるかによつて，**there is, there are** の區別があるのであるから特にこの點に注意して貰ひたいものである。而して此の形式は「**〜がある**」又は「**〜がない**」と**物の有無を表はす**場合に用ひるのである。

---

at last 遂に。 **make up his mind** [maind] 決心する。 **return** [ritə́:n] 歸る。 **poor** [puə] 貧しき。 **farmer** [fá:mə] 農夫，百姓。 **bank** [bʌŋk] 岸。 **River** [rívə] **Nile** [nail] ナイル河。 **wise** [waiz] 賢き。 **Position** [pəziʃən] 位置。 **of the words** [wə:dz] 語の位置。

❶ **There are** about one thousand **students** in our school.

（我校には約千人の生徒**がゐる**）。

❷ Once upon a time **there was** a very great and wise **king.**

（昔大變偉い賢い王様**がゐました**）。

〔B〕 **疑問文** 疑問文に於ては主語の前に動詞を置くのである。助動詞（do や can や must は動詞の助けをする語だから助動詞と云ひます）のある時は，助動詞のみを主語の前に出して動詞（助動詞に對し**本動詞**と云ふ）は矢張り主語の後に置く。

❶ **Is** your **mother** better to-day?

（今日はお母さんはよい方ですか）。

❷ **Do you get** up at six o'clock?

（あなたは六時に起きますか）。

但し**疑問文の前に tell me, do you know** などの節がある時には，後に來る疑問文の主語と動詞の位置は平叙文（普通文）と同様**主語＋動詞**の順序となる。

❶ **Can you tell me** what **I am?**

（私は何だか御存知ですか）。

❷ **Do you know** how many middle schools **there are** in Tokyo?

---

about [əbáut] 約。 **thousand** [θáuzənd] 千。 **once upon a tim** 昔。 **great** [greit] 偉大な。 **king** [kiŋ] 王。 **mother** [mʌ́ðə] 母。 **better** [bétə] 一層快く。 **to-day** [tədéi] 今日。 **tell** [tel] 告げる。 **know** [nou] 知つてゐる。 **how many** [いくつ]

（東京にはいくつ中學校があるか御承知ですか）。

上例について疑問文の形を書いて見ませう。

❶ What **am I?** （私は何であるか）。

❷ How many middle schools **are there** in Tokyo?

（東京にはいくつ中學校があるか）。

以上の疑問文に ① **can you tell me,** ② **do you know** などの文が共に用ひられたので，上例の如く主語と動詞の位置に變化を及ぼし，普通文流になつたのである。

〔C〕 **希望**，又は**祈願**を表はす **may** のある時は主語が動詞の後に來る（前章祈願文の項で述べました）。

❶ **May you** succeed! （御成功を祈る）。

❷ **May this** be a warning to you.

（これが君に對して警めとならんことを祈る）。

〔D〕 **意味を强める場合** 意味を强めるため動詞を主語の前に置くことがある。

❶ **Down came** the **showers** in torrants.

（どしや降りの夕立がやつて來ました）。

❷ **Die you** shall! （殺してしまうぞ）。

① は **showers,** ② は **you** が主語で，その動詞は **came down, die** である。かくの如く動詞が文首にありながら，文の終りには [?] ではなく，[.] 又は [!] で終つてゐる點に注

Succeed [səksíːd 成功する。 **warning** [wɔ́ːniŋ ウォーニん] 警め。 **showers** [ʃáuəz] 夕立。 **torrent** [tɔ́rənt] どしやぶり。 **die** [dai] 死ぬる。

意して下さい。これは意味を強めるためにかくしたので，これを普通の文に書けば

❶ The **showers came down** in torrents.

❷ You **shall die.**

となるのである。かく文意を強めることを文法では強勢(エムふアスイズ)(**Emphasis**)と云ふのである。

(2) 目的語の位置

他動詞の後にある**名詞**又は**代名詞**が通常**目的語**である。

❶ The cat **catches rats.** (猫は鼠を捕へる)。

❷ They always **throw stones** at frogs.

(彼は常に蛙に石を投げる)。

① **catches** は他動詞で，**frogs** はその目的，② **throw** は他動詞で **stones** はその目的で，いづれも動詞の後に置かれてある。即ち一般形式は

主語 + 動詞 + 目的

の順序である。

併し**目的の意味を強めるために**，この形に從はないで，特に主語の前に出すことがある。

❶ **This** he **gave** to the elephant.

(**これを**彼は象に與へた)。

❷ I know nothing about getting money by

Emphasis [émfəsis エムふアスィス] 强勢。 **catches** [kǽtʃiz] 捕へる。 **always** [ɔ́:lwiz] 常に。 **stone** [stoun] 石。 **throw** [θrou] 投げる。 **frog** [frɔg] 蛙。 **elephant** [élifənt] 象。 **nothing** [nʌ́θiŋ] 何も〜ない。

honest work, but **money** I must **have.**

(私は正直に働いて金を儲けることを何も知らない，併し**金は持たねばならぬ**)。

①，② は何れも目的の意味を强めるために，**this, money** を主語の前に出したもので，之を普通の形で書けば

❶ He gave **this** to the elephant.

❷ But I must have **money.**

となるのである。

(3) 補語の位置

一般の形式は

〔A〕 **主語 + 動詞 + 補語**

〔B〕 **主語+動詞+目的+補語**

である。即ち動詞が不完全自動詞の場合には，〔A〕の形式を取り，不完全他動詞の場合には〔B〕の形式を用ひるのが常である。

❶ He **grew sad** and **lonely** without his master.

(彼は主人がゐなくて悲しく且淋しくなつた)。

【注意】 **grew** は不完全自動詞，**sad** と **lonely** は補語。

❷ His sadness **made him** more **miserable** than before.

(彼は悲しみのため以前よりも一層みじめになつた)。

【注意】 **made** は不完全他動詞，**him** は目的，**miserable** は補語。

---

grew [gru:] は **grow** [grou グろウ なる] の過去。 **sad** [sæd] 悲しい。 **lonely** [lóunli] 淋しい。 **sadness** [sǽdnis] 悲しみ。 **miserable** [mízərəbl] みじめな。

併し**補語の意味を強める場合**には，これを文首に出すのである。

❶ **Great** is the power of habit.
（偉大なるかな習慣の力）。

❷ At last they came to a beautiful island. How **glad** they were then!
（遂に彼等は美しい島に來た，その時には大變に喜びましたよ）。

以上の文を普通の文體で書けば

❶ The power of habit is **great.**

❷ They were very **glad** then.

となるのである。かく補語の意味を強める場合には，補語を主語の前に出すのである。又 ① の例の如く **great** なる補語を文前に出せるため，その影響を受けて動詞が主語の前に出ることもある。

以上は大體に於て主語，動詞，目的，補語の一般的の位置並に特殊な場合に就て述べたのである。

---

power [pauə] 力。 **habit** [hǽbit] 習慣。 **island** [áilənd] 島。 **glad** [glæd] 喜んで。

第二編

語の種類

第一章 Noun〔名詞〕

〔1〕名詞の種類

人の名，土地の名，物の名，何でも（名）を表はすに使ふ語，云ひかへれば，有形，無形，一切の名を表はす語を名詞と云ふ，と前に述べたのであるが，之を分類すると，次の五種となる。

❶ **固有名詞**　(**Proper Noun**)
❷ **普通名詞**　(**Common Noun**)
❸ **集合名詞**　(**Collective Noun**)
❹ **物質名詞**　(**Material Noun**)
❺ **抽象名詞**　(**Abstract Noun**)

(1) 固有名詞

固有名詞とは其人，其物に特に附けた名，即ち一個一々の事物に附けた名で，人名，地名，國名，山の名，川の名，書物の名，新聞雜誌の名など，その一つ一つに附ける名は皆固有名詞である。

Proper Noun [própə naun プろパナウン]。 **Common** [kómən コマン]。 **Collective** [kəléktiv カレクティぶ]。 **Material** [mətiəriəl マティアリアル]。 **Abstract** [æbstrəkt アブストらクト]。

Tokyo is the capital of Japan.
固有名詞 固有名詞

(東京は日本の首府である)。

(2) 普通名詞

普通名詞とは，同じ種類のものなれば，其何れにも通ずる名を云ふ。むしろ通稱名詞とでも云つた方が穩當だらう。犬，猫，机，木，家，人，山，川など云ふ語は皆普通名詞である。

This is the picture of a baby and a lily.
普通名詞 普通名詞 普通名詞

(これは小兒と百合の繪です)。

(3) 集合名詞

集合名詞は，團體に附けた名である。家族，國民，陸軍，海軍，級等は皆その團體の名であるから，集合名詞である。

My family is a large one.
集合名詞

(私の家族は大家族です)。

所が此所に群集名詞 (**Noun of Maltitude**) と云ふのがある。これは集合名詞に屬する語を，その集合 (又は團體) 中の**個々のものに就て**述べる場合で，例へば

My family are all well.

(私の家族の者は總て健全です)。

---

capital [kǽpitəl] 首府。 **Japan** [dʒəpǽn] 日本。 **picture** [píktʃə] 繪。 **baby** [béibi] 小兒，赤坊。 **lily** [líli] 百合。 **Noun of Maltitude** 〔群集名詞〕。 **family** [fǽmili] 家族。 **well** [wel] 健康な。

と云へば，私の家族を組織する人々が何れも皆健全だと云ふことで，この場合は集合體 (即ち團體) を指すのではなく，個々の人々を指すのである。從つて動詞は復數 (此の場合 **is** でなく **are**) を用ひねばならぬ。かゝる集合名詞を特に群集名詞と云ふ。

(4) 物質名詞

物を造る材料の名である。例へば「水」の樣に，定つた數を數へる標準がなく，從つて別の語を用ひねば一つ二つと數へる事の出來ぬ名を云ふ。金屬，食料品，酒類などの名は物質名詞である。

This bottle is made of glass, and is used for holding ink.
物質名詞 物質名詞

(瓶は硝子で造られインキを入れるのに用ひられる。

(5) 抽象名詞

眼に其形を見る事の出來ぬものゝ名，例へば，動作の名，性質の名などがそれである。歩く事，讀む事，美しい事，おかしい事，正直，健康，誠實，忍耐，忠義，孝行，書く事などゝ云ふ語は皆抽象名詞である。

He learned reading and writing with great diligence.
抽象名詞 抽象名詞 抽象名詞

(彼は非常に勤勉に讀み書きを勉强しました)。

---

bottle [bɔ́tl] 瓶。 **is made of** 〔～で造られてある〕。 **glass** [glɑːs] 硝子。 **is used for** 〔～に用ひられる〕。 **holding** [hóuldiŋ] ～を入れる(のに)。 **learn** [ləːn] 學ぶ。 **writing** [ráitiŋ] 書き方。 **with diligence** [dílidʒəns] 勤勉に。

〔2〕 數の變化

名詞の中，數を一つ二つと數へることの出來ぬ物質名詞や，無形の事物，動作，性質の名である抽象名詞には「數」の變化がないのである。固有名詞も，山脈とか群島，一家の人々，一族の人々，國民全體等を云ひ表はす場合には複數形を用ひるが，其他の場合には「數」の變化はないのである。常に單數形で，複數形はないのである。

併し，「一つ，二つ」，「一團體，二團體」の如く數へる事の出來るものゝ名，即ち**普通名詞**と**集合名詞**とは

❶ それが一つ，一團體である時に使ふ形，即ち單數形（Singular Number）と

❷ 二つ，または二つ以上（二團體以上）であるものを云ふ時に使ふ形，即ち，複數形（Plural Number）の形

と云ふのと，二つの形が各語にあるのである。

而してそれを**數（Number）の變化**と云つてゐるのである。

日本語では，一羽でも（鳥），二羽，または二羽以上でも，同じく（鳥），または一人でも（**紳士**），二人，または二人以上でも（**紳士**）と，同じく（鳥），（紳士）と云つて，（數）に依り語の形は變化しないが（日本語でも**人々**とか，**人達**とか，**子供等**など使ふ場合もあるが，必ずしも使はなくても差支ない），英語では之が絶體に許されないのである。必ず一つには單數形，二つまたは二つ以上には複數形を使はねばならぬきまりになつてゐるのである，初學者はよく誤に陷り易いので，注意して貰ひたいものである。

Singular [síŋgjulə **スィ**んギゅラ] **Number** [nʌ́mbə **ナ**ムバ] 單數。 **Plural** plúərəl プ**ル**アらル] **Number** 複數。

（1） 複數名詞の作り方

大多數の普通名詞や集合名詞は

❶ 單數の語尾に s を附けて複數にする。

〔A〕

單數	複數	單數	複數
❶ lake	lakes	❷ top	tops
❸ room	rooms	❹ book	books
❺ steamer	steamers	❻ train	trains

❷ 單數の語尾が s, x, z, sh, ch の語は，それに es を附けた形を複數とする。

〔B〕

單數	複數	單數	複數
❶ class	classes	❷ glass	glasses
❸ box	boxes	❹ fox	foxes
❺ buzz	buzzes		
❻ dish	dishes	❼ brush	brushes
❽ church	churches	❾ bench	benches

〔A〕 ❶ leik(s) [レイク(ス)] 湖。 ❷ tɔp(s) [トップ[ス]] こま。 ❸ ru:m(z) [るーム(ズ)] 室。 ❹ buk(s) [ブック(ス)] 本。 ❺ sti:mə(z) [ス**ティ**ーマ(ズ)] 汽船。 ❻ trein(z) [トれいン(ズ)] 汽車。〔B〕 ❶ klɑ:s; klɑ́:siz [クラース，ク**ラ**ースィズ] 紳。 ❸ glɑ:s; glɑ́:siz [グラース，グ**ラ**ースィズ] コップ。 ❷ bɔks; bɔ́ksiz [ボクス，**ボ**クスィズ] 箱。 ❹ fɔks; fɔ́ksiz [ふォクス，**ふ**オクスィズ] 狐。 ❺ bʌz; bʌ́ziz [バス，**バ**スィズ] ぶんぶん。 ❻ diʃ; diʃiz [ディッシュ，**デ**イシズ] 皿。 ❼ brʌʃ; brʌ́ʃiz [ブらッシュ，ブ**ら**シズ] ブラシ。 ❽ tʃə:tʃ; tʃə́:tʃiz [チャーチ，**チ**ャ〜チズ] 教會。 ❾ bentʃ; bénʃiz [ベンチ，**ベ**ンチズ] ベンチ。

❸ 語尾が o の語は，其前が母音字なら，そのまゝ s を附け，父音字なら，es を附ける。語尾 y の語も，其前が母音字なら，そのまゝ s を附け，父音字なら，y を i に改め es 附をける。

〔C〕

單數	複數	單數	複數
❶ bamboo	bamboos		
❷ hero	heroes	❸ negro	negroes
❹ boy	boys	❺ toy	toys
❻ city	cities	❼ army	armies
❽ lady	ladies	❾ fly	flies
〔例外〕 語尾が o で，その前が父音でも，es を附けないで，そのまゝ 's' を附ける語がある。			
❿ piano	pianos	⓫ photo	photos

❹ 語尾 f, fe の語は，それを v に改めて es を附ける。

〔D〕

單數	複數	單數	複數
❶ knife	knives	❷ life	lives
❸ shelf	shelves	❹ leaf	leaves

〔C〕❶ bəmbú: [バムブー] 竹。❷ híərou(z) [ヒアろウ(ズ)] 英雄。❸ ní:grou(z) [ニーグろウ(ズ)] 黑奴。❺ tɔi(z) [トイ(ズ)] 玩具。❻ síti(z) [スイティ(ズ)] 都會。❼ ɑ́:mi(z) [アーミ(ズ)] 軍隊。❽ léidi(z) [レイディ(ズ)] 貴婦人。❾ flai(z) [ふライ(ズ)] 蠅。❿ pjǽnou(z) [ピアノウ(ズ)] ピアノ。⓫ fóutou(z) [ふォトウ(ズ)] 寫眞。〔D〕❶ naif(vz) [ナイふ(ぶズ)] 小刀。❷ laif(vz) [ライふ(ぶズ)] 生命。❸ ʃelf(vz) [シェルふ(ぶズ) 棚。❹ li:f(vz) [リーふ(ぶズ)] 葉。

〔例外〕 ただし，直ぐ 's' を附ける語もある。

❺ roof(s) ❻ safe(s) ❼ chief(s)
❽ handkerchief(s)

❺ 單數も複數も同形の語が少しばかりある。

〔E〕

❶ deer	❷ sheep	❸ fiish
❹ carp	❺ salmon	❻ corps

【注意】 fish の複數には，fishes も用ひる。

❻ [1]中央にある母音字をかへるか，[2]語尾に n か en を附けて複數形とする語。

〔F〕

單數	複數	單數	複數
❶ man	men	❷ penny	pence
❸ mouse	mice	❹ tooth	teeth
❺ goose	geese	❻ foot	feet
❼ child	children	❽ ox	oxen

❺ ru:f(s) [るーふ(ス)] 屋根。❻ seif(s) [セイふ(ス)] 金庫。❼ tʃi:f(s) [チーふ(ス)] 酋長。❽ hǽŋkətʃif(s) [ハんカチふ(ス)] ハンカチフ。〔E〕❶ diə [ディア] 鹿。❷ ʃi:p [シープ] 羊。❸ fiʃ [ふィッシュ] 魚。❹ kɑ:p [カープ] 鯉。❺ sǽmən [サマン] 鮭。❻ kɔ:(z) [コー(ズ)] 團體，軍團（二個以上の師團より成る）。〔F〕❷ peni, pens [ペニ，ペンス] 英國貨幣の名。❸ maus, mais [マウス，マイス] はつか鼠。❹ tu:θ, ti:θ [トゥーす，ティーす] 齒。❺ gu:s, ɡi:s [グース，ギース] 鵞鳥。❻ fut, fi:t [ふット，ふィート] 足。❼ tʃáild, tʃíldrən [チャイルド，チルドらン] 子供。❽ ɔks, ɔ́ksn [オックス，オクスン] 牡牛。

❼ **語尾が man の語は, men にすると複數形となる。**

〔G〕

❶ English**man** (English**men**)	❷ post**man** (post**men**)
❸ wo**man** (wo**men**)	❹ police**man** (police**men**)
❺ gentle**man** (gentle**men**)	❻ motor-**man** (motor-**men**)

❽ **二語以上から出來てゐる名詞は, 意味から考へて, 一番主要な語を複數形とする。**

〔H〕

❶ father-in-low	**fathers**-in-low
❷ step-father	step-**fathers**
❸ passer-by	**passers**-by
❹ foot-man	foot-**men**
❺ maid-servant	maid-**servants**
〔例外〕 ❻ man-servant	**man-servants**

〔G〕❶ íŋg'iʃmən [イんグリッシュマン] 英國人。 ❷ póustmən [ポウストマン] 配便配達。 ❸ wúmən, wìmin [ウマン, ウィミン] 女。 ❹ pəlí:smən [パリースマン] 巡査。 ❺ dʒéntlmən [ヂェントルマン] 紳士。 ❻ móutəmən [モウタマン] (電車の)運轉手。 〔H〕❶ fɑ́:ðərinlɔ: [ふァーずァリンロー] 養父, 舅。 ❷ stépfɑ:ðə [ステップふァーずァ] 繼父。 ❸ pɑ́:səbái [パーサバイ] 通行人。 ❹ fútmən [ふットムン] 從者。 ❺ máid-sə́:vənt [メイドサァ〜ぶアント] 下女。 ❻ mǽnsə:vənt [マンサァ〜ぶアント] 下男。

〔3〕 性 (Gender)

(1) 性の變化

日本語の中にもこの性の變化と云ふ事をする語が澤山ある。例へば,

男, 兄, 息子, 叔父, 下男, 王, 主人, 天皇

など云ふ總て男の性に屬する語, 所が,

女, 妹, 姉, 叔母, 息女, 下女, 主婦, 王妃, 皇后

などは總て女の性に屬する語である。斯んな風に, 語に依つて男又は女に限り用ひられてると云ふ規則になつてゐる。英語では一層この定めが嚴重で

❶ 男の人を云ふ時に用ひる語
❷ 女の人を云ふ時に用ひる語
❸ 男女何れを云ふ時にも用ひる語
❹ 男でも女でもないもの, 即ち人以外のものを云ふ時に用ひる語

の四種ある。總ての名詞は必ずこの四種の中の何れかに屬するのである。代名詞は全部さうではないが, その一部はやはり性の區別が定めてあるのである。この性の區別, 即ち性の變化は**名詞**と**代名詞**とに限つた事で, 他の品詞にはないのである。

(2) 性の種類

今上に申述べた如く, 性には四種あつて,

❶ を **男性** (**Masculine Gender**) (マスキゅリン ヂェンダ)

Gender [dʒéndə ヂェンダ]。 **Masculine Gender** [mǽskjulin dʒéndə マスキゅリン ヂェンダ] 男性。

❷ を 女性 (Feminine Gender)

❸ を 通性 (Common Gender)

❹ を 無性 (Neuter Gender)

と云ふのである。

男性と女性の名詞を區別する方法が三種ある。

❶ 男性の語の語尾に "ess" を附けた語を女性とするもの。

男性		女性	
❶ baron	男爵	❶ baroness	男爵夫人
❷ count	伯爵	❷ countess	伯爵夫人
❸ viscount	子爵	❸ viscountess	子爵夫人
❹ prince	皇族	❹ princess	妃
❺ peer	貴族	❺ peeress	貴族の婦人
❻ emperor	天皇	❻ empress	皇后
❼ God	神	❼ Goddess	女神
❽ host	亭主	❽ hostess	女將
❾ heir	嗣子	❾ heiress	嗣女
❿ poet	詩人	❿ poetess	女詩人

Feminine [féminin] Gender 女性。 Neuter [njú:tə ニゅータ] Gender 無性。 Common [kómən コマン] Gender 通性。

❶ bǽərən [バらン], bǽərənís [バらニス]。 ❷ kaunt [カウント], káuntis [カウンティス]。 ❸ váikaunt [ぶァイカウント], váikauntis [ぶァイカウンティス]。 ❹ prins [プリンス], prinsés [プリンセス]。 ❺ piə [ピア], piəris [ピアリス]。 ❻ émpərə [エムパら], émpris [エムプリス]。 ❼ gɔd [ゴッド], gɔ́dis [ゴディス]。 ❽ hɔust [ホウスト], hóustis [ホウスティス]。 ❾ εə [エム], éəris [エアリス]。 ❿ póuit [ポウイット], póuitis [ポウイティス]。

⓫ author	作者	⓫ authoress	女流作者
⓬ priest	僧	⓬ priestess	尼
⓭ actor	男優	⓭ actress	女優
⓮ tiger	牡虎	⓮ tigress	牝虎
⓯ lion	牡獅子	⓯ lioness	牝獅子

【註】 語尾 'e' の語は 'ss' だけを, 'er, or' などに終る語は, 母音字の 'e, o' を除いて 'ess' を附ける。また 'er, or' は單に 'r' 一字にして 'ess' を附ける。god は語尾の 'd' を今一字重ねて ess を附ける。

【注意】 尙, 男性の形を種々に變化さした上で "ess" を附けて女性とするもの, 其他雜種の變化をする語がある。次にその重なるものを擧げて置きます。

男性		女性	
❶ hero	英雄	❶ heroine	勇婦
❷ widower	男やもめ	❷ Widow	寡婦
❸ Marquis	侯爵	❸ marchioness	同夫人
❹ master	主人	❹ mistress	主婦
❺ lad	少年	❺ lass	少女
❻ governer	知事	❻ governess	同夫人

⓫ ɔ́:θə [オーすァ]. ɔ́:θəris [オーすァリス]。 ⓬ pri:st [プリースト], prí:stes [プリーステェス]。 ⓭ ǽktə [アクタ], ǽktris [アクトリス]。 ⓮ táigə [タイガ], táigris [タイグリス]。 ⓯ láiən [ライアン], láiənis [ライアニス]。

❶ híərou [ヒアろウ], hérouin [へろウィン]。 ❷ wídouə [ウィドウア], wídou [ウィドウ]。 ❸ mɑ́:kwis [マークウイス], mɑ́:ʃənis [マーシャニス]。 ❹ mɑ́:stə [マースタ], místris [ミストリス]。 ❺ læd [ラッド], læs [ラス]。 ❻ gǽvənə [ガぶアナ], gǽvənis [ガぶァニス]。

❼ **duke**	公爵	❼ duchess	公爵夫人
❽ **master**	少年の尊稱	❽ **miss**	少女の尊稱
❾ **Mr.**	男の尊稱	❾ Mrs.	女の尊稱

❷ 男女を區別する語を附けるもの。

男性		女性	
❶ **man**-servant	下男	❶ **maid**-servant	下女
❷ school-**boy**	男の小學生	❷ school-girl	女の小學生
❸ pea-**cock**	雄の孔雀	❸ pea-**hen**	雌の孔雀
❹ **he**-goat	牡の山羊	❹ **she**-goat	牝の山羊
❺ land-**lord**	宿屋の享主	❺ land-**lady**	宿屋の女主

❸ 全く別の語も用ひるもの，これが大部分を占めてゐる。

男性		女性	
❶ **ox**	牡牛	❶ **cow**	牝牛
❷ **cock**	雄鷄	❷ **hen**	牝鷄
❸ **father**	父	❸ **mother**	母
❹ **uncle**	叔父	❹ **aunt**	叔母

❷ dju:k [デゅーク], dʌ́tʃis [**ダ**チス]。 ❸ mə́:stə [**マ**ースタ], mis [ミス], místə [**ミ**スタ], mísiz [ミスィズ]。

❶ mǽnsə:vənt [**マ**ンサ〜ぶァント], méidsə:vənt [**メ**イドサ〜ぶァント]。 ❷ skú:lbɔi [ス**ク**ールボイ], skú:lgə:l [ス**ク**ールガ〜ル]。 ❸ pí:kɔk [**ピ**ーコック], pí:hen [**ピ**ーヘン]。 ❹ hí:gout [**ヒ**ーゴウト], ʃí:gout [**シ**ーゴウト]。 ❺ lǽndlɔ:d [**ラ**ンドロード], lǽndleidi [**ラ**ンドレイディ]。

❶ ɔks [オクス], kau (カウ)。 ❹ ǽŋkl [**ア**んクル], ɑ:nt [アーント]。

❺ **son**	息子	❺ **daughter**	娘
❻ **boy**	少年	❻ **girl**	少女

通性 通性の語とは，男にも女にも，また牡，牝何れにも通用する語を云ふ。即ち次のやうな男女何れにも使はれる語を云ふ。

❶ **parent** (親) ❷ **child** (子供) ❸ **cousin** (從兄)
❹ **person** (人) ❺ **friend** (友人) ❻ **teacher** (教師)
❼ **pupil** (生徒) ❽ **relation**(親戚) ❾ **animal** (動物)
❿ **bird** (鳥) ⓫ **pig** (豚) ⓬ **servant** (召使)

普通の鳥獸の名は大抵さうである。尤も今述べた如く，中には **ox** (牡牛), **cow** (牝牛) の如く鳥獸の名でも區別ある語もある。

無性 性の區別のなきもの，即ち人間以外のものは，動物でも，植物でも，礦物でも，製造品でも，總て無性である。例へば **book** (本) は男女の區別などはない事は分りきつた事で，男が用ひる本は男性で，女の用ひる本は女性だなど，そんな馬鹿な區別はないのである。ただし，動物は場合により强いもの，大きいもの，怖しいものは**男性**に，弱いもの，小さいもの，やさしいものは**女性**と云つた風に區別することもある。

desk (机), **tree** (本), **grass** (草), **ink** (インキ), **bag** (カバン), **pen** (ペン) 等は總て無性である。

❺ sʌn [サン], dɔ́:tə [**ド**ータ]。

❶ ɹéərənt [**ペ**アらント]。 ❷ tʃaild [チャイルド]。 ❸ kʌ́zn [カズン]。 ❹ pə́:sn [**パ**〜スン]。 ❺ frend [ふれンド]。 ❻ tí:tʃə [**ティ**ーチャ]。 ❼ pjú:pil [**ピ**ゅーピル]。 ❽ riléiʃən [リ**レ**イシャン]。 ❾ ǽniməl [**ア**ニマル]。 ❿ bə:d [バ〜ド]。 ⓫ pig [ピッグ]。 ⓬ sə́:vənt [**サ**〜ぶァント]。

〔4〕 Case (格)

(1) 格の種類

名詞には〔**格の變化**〕と云ふことをするものがある。

〔**格**〕には

❶ **主 格** (**Nominative Case**)

❷ **目的洛** (**Objective Case**)

❸ **所有格** (**Possessive Case**)

と三種あるのである。

❶ 文の主語に使はれる語は，主格である。

❷ 目的語に使はれてゐる語は，目的格である。

❸ 他の名詞に對して，其所有主たることを示す語は，所有格である。

(2) 主格の意味

主格とは，文の主部，言ひかへると．動作を表はす人，物，また狀態をしてゐる人，物を表はす語，即ち動作又は狀態を表はす語は動詞であるから，その動詞の主語となる語を云ふのである。日本語の（～は，～が）にあたる。

The **brooks are** now full of water and **flow** rushing towards big rivers and lakes.

（小川は今や水で一杯です，そして大きな河や湖へゑらい勢で流れてゐます）。

Nominative Case [nɔ́minətiv keis ノミナティぶ ケイス] 主格。 **Objective** [əbdʒéktiv アブゼクティぶ] **Case** 目的格。 **Possessive** [pəzésiv パヂェスィぶ] **Case** 所有格。 **brook** [小川]。 **are full of** [～で一杯である]。 **water** [wɔ́:tə] 水。 **flow rushing** [勢よく流れる]。 **towards** [tɔ:dz] ～の方へ。 **lake** [leik] 湖。

【註】 動詞は **are, flow** で，その主語卽ち主格は **brooks** である。

(3) 目的格

目的格とは，文の叙述部中，他動詞の目的語並に前置詞の目的語を云ふ。❶ 動詞の目的語たる時と，❷ 前置詞の目的語（前置詞の次に置かれるもの）の時と，二つあるわけであるが，日本語に譯すと（～に，～を，～と）など云ふのが目的語である。

An old Indian once **bought** some **things** from a white man who **kept** a **store.**

（昔し或る印度の老人が店を持つてゐた白人から物を買ひました）。

【註】 他動詞 **bought, kept** の目的語，卽ち目的格は **things** と **store** である。

尙前置詞の目的格の場合を一例擧げると

The angry ruler thought **of** a cruel **plan.**

He made Tell's son stand **with** an **apple on** his **head.**

（怒れる支配者は殘酷な案を考へました。彼はテルの息子の頭の上に林檎をのせて立たせました）。

【註】 **plan** は 前置詞 **of** の，**apple** は前置詞 **with** の，**head** は前置詞 **on** の目的格を示すものである。

Indian [índjən] 印度人。 **thing** [θiŋ] 物。 **white man** [白人]。 **kept** は **keep** [ki:p] 經營するの過去。 **store** [stɔ:] 店。 **angry** [ǽŋgri] 怒れる。 **ruler** [rú:lə] 支配者。 **cruel** [krúəl] 殘酷な。 **plan** [plæn] 案。 **made ～ stand** [～をたたせた]。

(4) 所有格

所有格とは（山田**の**），（父**の**），（太田**の**）等の如き（～**の**）と云ふ形の語を云ふのである。何故所有格かと云ふに，例へば（山田**の**時計）と云へば（山田**の所有する**時計），（父**の**自動車）と云へば（父の**所有する**自動車）と云つた風に，（～**の**）は普通（～**所有する**）の意味を表はして居るものであるからなのである。

He drew（ドゥー） many pictures（ピクチャズ） on the white walls（ウォールズ） of his **nurse's**（ナースィズ） cottage（コティヂ）.

（彼は彼の乳母つ家の白壁に澤山の繪を書きました）。

【註】 **nurse's**（乳母の，乳母の所有する）は所有格である。

(5) 名詞の格の變化

❶ **Kyokutei-Bakin** lived（リヴド） in Edo.

（**曲亭馬琴は**江戸に住んでゐた）。

❷ I like（ライク） **Kyokutei-Bakin.**

（私は**曲亭馬琴**が好きです）。

上例 ❶ の曲馬琴は主格で，❷ の曲馬琴は目的語である。語の役目は違つても，語の變化がない，即ち

主格と目的格とは少しの變化なく，其儘を用ひるのである。だから（**高田は**）と云ふ場合も，（**高田を，高田に**）と云ふ場合も

---

drew [druː] は **draw** [drɔː ドろー] 畫くの過去。 **white** [wait] 白い。 **wall** [wɔːl] 壁。 **nurse's** [nə́ːsiz] 乳母の。 **cottage** [kɔ́tidʒ] 田舍家，小屋。

同じく單に "**Takata**" でよいのである，（**は**），（**を，に**）に當たる語を附ける必要はないのである，所が

This is **Okyo's** tomb（トゥーム）.

（これは**應擧の**墓です）。

の如く獨り**所有格**の場合に限り，普通の形の語尾に（'）と '**s**' の字を附け，（**應擧の，高田の**）は **Okyo's, Takata's** といつた風にするのである。（'）は **Apostrophe** と云ふ符號で，**'s** で **Apostrophe s**（アポストフィー エス）と云ふ。讀み方は（オーキヨ**ズ**，タカタ**ズ**）と '**s**' は丁度復數名詞の語尾の '**s**' と全く同じに（**ズ**）と讀むのであるが，"**s, z, j, ch, x, sh**" の音の次の **'s** に限り（iz イズ）と讀むのである。

the fox's（**ふ**オクスィズ） tail （狐の尻尾）。
the horse's（**ホ**ースィズ） tail （馬の尻尾）。
Thomas's（ト**マ**スィズ） father（トマスの父）。

等の如く，s の音に直ちに s を續けては言ひ悪いから，言ひ易くする爲に（iz イズ）と讀む事になつてゐるのである。

(6) 複數名詞の所有格

以上述べたのは總て單數の名詞に就いてであるが，**複數の名詞**は其の大多數は語尾が **s** になつてゐるから，それに **'s** を附けないで，單に（'）の符號だけを附けて

❶ **Horses'**（ホースィズ） tails（テイルズ） （馬**の**尻尾）。

---

tomb [tuːm] 墓。 **fox** [fɔks] 狐。 **tail** [teil] 尻尾。 **Thomas** [tɔ́məs トマス] 人名。 **Apostrophe** [əpɔ́strəfi アポストらふィ] 略字記號（'）。

❷ the **boys'** books (**子供等の本**)。

❸ **foxes'** tails (狐の尻尾)。

と言つた風にするのである。此處で注意申上げたいのは **horse's**〔馬の(單數)〕, **horses**〔馬(復數・二匹以上〕, **horses'**〔馬の(復數)〕の三語はそれぞれ意味は違つてゐるのであるが, 讀方は [hɔ́:s:z ホースィズ] と全く同じなのである。

尤も復數の名詞でも, **語尾が s でない語**は, 總てあたりまへに ('s) を附けて

❶ The **children's** toys. (**子供等の玩具**)。
(チルドらンズ トイズ)

❷ **Oxen's** tails. (牛尻尾)。
(オクスンズ)

の如くすればよいのである。

〔**例外**〕 上に述べた規則に從はない語が二三ある。それはたとへ名詞でも

(1) 其語の最後の綴りが (s～s) の時は, 單に (') を附け, 's' は不用である。

例:——

❶ **Moses'** Law (モーゼスと云ふ人の作つた法律)。
(モウズイズ ロー)

❷ **Jesus'** sake (耶蘇の爲めに. 後生だから)。
(ヂーザス セイク)

尤も幾ら語尾が 's' でも **James's** book (ヂエームスの本と云つた風に, (s～s) でないものは, 今述べた規則通りに ('s) を附けねばならぬ。

(2) 抽象名詞の語尾 **'s'** 又は **'ce'** のものは, 單に ['] を附け, 's' は不要である。

---

children [tʃíldrən] は **child** [tʃaild チャイルド] 子供の複數形。 **oxen** [ɔ́ksn] は **ox** [ɔks オックス] 牡牛の複數形。 **toy** [tɔi] 玩具。 **law** [lɔ:] 法律。 **sake** [seik] 爲。

例:——

❶ for **goodness'** Sake (慈善の爲, 後生だから)。
(グッドニス)

❷ for **converience'** sake (便宜上)。
(カンヴイーニヤンス)

【**注意**】斯う云つた風に抽象名詞にも例外として (') 又は ('s) を附して所有格にする場合がある。

(7) 無生物の所有格

以上述べた如く, 語尾に「's (又は ')」を附けて所有格となし得る規則は, 總ての名詞に適用するのではない。これは唯, 人間, 動物を表はす語に用ひられる規則で, **無生物**には. この規則は適用しないのである。

即ち, 人や動物以外のもの, 植物や鑛物や製作物等の名詞に ('s) を附けた語を使ふ事は許されないのである。だから

❶ That **mountain's** top (**あの山の頂**)。
(マウンテインズ トップ)

❷ our **school's** gate (吾々の**學校の門**)。
(ゲイト)

など云ふ事は出來ないので, この場合には, 前置詞 **of** を使つて

❶ The top **of** that mountain.

❷ The gate **of** our school.

と云つた風に言はねばならぬのである。 この場合 **mountain** や **school** と云ふ名詞は勿論所有格ではありません。前置詞 **of** の目的語, 即ち**目的格**なのである。

❶ (**あの山の頂**には雪が積つてゐます)。

---

goodness [gúdnis] 善行。 **convenience** [kənvíːnjəns] 便利。 **mountain** [máuntin] 山。 **top** [tɔp] 頂。 **gate** [geit] 門。

誤〔A〕 **That mountain's top** is covered with snow.
正〔B〕 **The top of that mountain** is covered with snow.

mountain は無生物だから，(A) の如く ('s) を附けて書く事は誤りで，必ず (B) の如く書かなければならぬ。

❷ (**吾が校の校門**は煉瓦造りです)。

誤〔A〕 **Our school's gate** is made of brick.
正 **The gate of our school** is made of brick.

(8) 無生物に 's を附する場合

人及び動物以外の話でも，次の名詞に限り，特に所有格を使つて差支へない事になつてゐるのである。

[1]時，[2]重さ，[2]距離，[4]金額，[5]船を表はす名詞

❶ **to-day's** paper (**今日の**新聞)
❷ a **pound's** weight (**一封度の**重さ)
❸ one **mile's** distance (**一哩の**距離)
❹ two **yen's** worth (**二圓の**價)
❺ the **ship's** crew (**船の**乘組員)。
❶ It is **ten minutes'** walk from here to the museum.
(此所から博物館までは歩いて十分です)。

---

is covered [kʌ́vəd] **with** 〔～で被はれてゐる〕。 **brick** [brik] 煉瓦。 **is made of** [～で造つてある]。 **pound** [paund] 封度。 **weight** [weit] 重さ。 **distance** [dístəns] 距離。 **worth** [wə:θ] 價値。 **crew** [kru: クルー] 乘組員。 **walk** [wɔ:k] 歩み。 **museum** [mjuzíəm] 博物館。

❷ The Red won the race by **a boat's** length.
(赤が一艇身の差で競漕に勝ちました)。

(10) 所有格に關する注意と 's の後に名詞の省略

〔A〕 ❶ I went to my **uncle's.**
❷ I bought this book at the **Maruzen's.**

この二文に注意して下さい。所有格即ち **uncle's, Maruzen's** の如く次に何等の語もない事がある。これは次に **house** (家), **store, shop** (店) など云ふ語が略してあるので，❶ の例には **house** を入れ，❷ の例には **shop,** 又は **store** を入れて

❶ 僕は**叔父の家**へ行つた。
❷ 僕はこの本を**丸善の店**で買つた。

と云ふ風に解すればよいのである。即ち **store, shop, house** などの語が (～**'s**) の後に來る時は，これを省略する事が多い。

〔B〕 次に She is a friend of my **sister's.**

斯んな風に所有格の語の次に所有せられる語がなく共，前に ～ **of** とある時は，それは今上に述べた **house** や **store** や **shop** が略されてあるのではなく全く別の意味である。即ち上例は

She is a friend of my **sister's friends.**
(彼女は姉の (幾人もある友人中の一人の) 友達です。

と云ふ意味で，of の前にある語と同じ語の復數が (～ **s'**) の

---

won [wʌn] は **win** (勝つ) の過去。 **length** [leŋθ] 長さ。 **store** [tɔ:] 店。 **shop** [ʃɔp] 店。

次には省略してあるのである。

This is a pencil of **Okada's.**

（これは岡田の（幾本も持つてゐる中の一本の）鉛筆です）。

Okada's pencils の **pencils** が略されてゐるのである。

〔C〕 Look at this picture of my father's.

（私の父のこの繪を御覽なさい）

の如く「（～の）この，あの，その」と明かにこれを指す語が of の前に附いてある場合には，やはり（～'s）の次に來る複數の名詞（この場合 **father's pictures**）を略してもよい。

〔D〕 ❶ **George's and Henry's** father.

❷ George and **Henry's** father.

この二つの句の相違が分りますか。❶ の如く George's, **Henry's** と双方に（'s）が附いてゐる時には「チョーヂの父とヘンリーの父）即ち George's father and Henry's father の意味で，其父は二人別なのであるが，❷ の如く後の名詞（**Henry's**）にばかり（'s）が附いて居れば，（ヂョーヂやヘンリの父）と云ふ事で，ヂョーヂとヘンリは兄弟で，二人の父は同じ人なのである。

第二章 Pronoun 〔代名詞〕

〔1〕 代名詞の種類

代名詞とは名詞を繰返す代りに用ひる語，即ち名詞の身替りをする語である。之を分類すると次の五種となる。

❶ 人稱代名詞 (**Personal Pronoun**)

❷ 所有代名詞 (**Possessive Pronoun**)

❸ 疑問代名詞 (**Interrogative Pronoun**)

❹ 關係代名詞 (**Relative Pronoun**)

❺ 形容代名詞 (**Adjective Pronoun**)

(1) 人稱代名詞

〔A〕 **人稱，格，性，數**

代名詞にも，名詞と同樣に，性の變化，格の變化，數の變化の三種の變化と，人稱の變化がある。

性 人稱代名詞の中，I my, me, we, our, us, you, your 及び they, their, them は男女，どちらを指すにも使はれるから，**通性**である。he, his, him は**男性**で，she, her は**女性**で，it, its は**無性**である。

人稱代名詞以外の代名詞は，總て**通性**又は**無性**で，特に男性，女性の語はないのである。

Personal [pɔ́:snəl]。 **Pronoun** [próunaun]。 **Possessive** [pəzésiv]。 **Interrogative** [intərɔ́gətiv]。 **Relative** [rélətiv]。 **Adjective** [ǽdʒiktiv]。

格 代名詞の中，人稱代名詞は，格毎に別の語を使ふことが多いのである。

主 格	所 有 格	目 的 格
I (私は，が)	my (私 の)	me (私に，を)
we (吾々は，が)	our (吾々の)	us (吾々に，を)
you (あなたは，が / あなた方は，が)	your (あなたの / あなた方の)	**you** (あなたに，を / あなた方に，を)
he (彼は，が)	his (彼 の)	him (彼に，を)
she (彼女は，が)	**her** (彼女の)	**her** (彼女に，を)
it (それは，が)	its (そ の)	**it** (それに，を)
they (彼等は，が)	their (彼等の)	them (彼等に，を)

御覽の通り，黑字體（太字體）の活字で示す語の外は，皆格毎に語形が違つて，名詞の如く，主格と目的格とは常に同形といふやうな事は **you** と **it** の他はないのである。

數 次に數に於ては，矢張り名詞同樣**單數複數**の區別があつて，兩者の形の變化がある。但し you は單數の場合も，複數の場合も，**you** を用ひて兩者の區別がない，これは文の前後の關係から兩者を區別するのである。又第三人稱には單數の場合ならば，he, she, it を用ひるが，複數には三者何れも共通に **they** を用ひるのである。

人稱 Person（パースン） 名詞及び代名詞には，また人稱（**Person**）の變化をする。

❶ 話をする人を指す語を**第一人稱**（**the First（ふアースト） Person（パースン）**）の語。

Person [pə́:sn] 人稱。 **the First** [fə:st] **Person** [第一人稱]。

❷ 話を聞く相手を指す語を**第二人稱**（**the Second（セカンド） Person**）の語。

❸ 話の中に出る**人や事物**を示す語を**第三人稱**（**the Third（すアード） Person**）の語。

と云ふのである。

人稱代名詞は，その人稱による變化を最も明かにしてゐる。**人稱**代名詞と名づけたのは，全くこの（人稱に依る變化を明かにする代名詞）と云ふ意味からなのである。

人 稱		主 格	所 有 格	目 的 格
第一人稱	單 複	I we	my our	me us
第二人稱	單 複	you	your	you
第三人稱	單數 複數	he she it they	his her its their	him her it them

人稱代名詞以外の代名詞は，人稱によつて變化はないのである。

名詞は，普通の場合第三人稱である。 但し，同格の語や，呼びかけの語に使はれる名詞には，第一人稱や，第二人稱の事もまゝあるが，これは上級に進んでから研究してもらう事とし，こゝでは**名詞は第三人稱である**と覺えて置いて下さい。

the Second [sékənd] **Person** 〔第二人稱〕。 **the Third** [θə:d] **Person** 〔第三人稱〕。

では以上述べた關係を一層明かにする爲に次に表示してみませう。

人稱代名詞

人稱	性	數	主格	目的格	所有格
一人稱	通	單	I	me	my
		復	we	us	our
二人稱	通	單	you	you	your
		復	you	you	your
三人稱	男	單數	he	him	his
	女		she	her	her
	無		it	it	its
		復	they	them	their

〔2〕人稱代名詞の特別用法

(1) 不定用法

(誰れ, 誰れ) と定つた人を指すのではなくて, 廣く漠然と(我々人間)とか(我々學生),(君等少年),(あなた方英國人),(當局者),(世人) など云ふ場合には, **we, you, they** を主語に用ひる場合がある。

例へば,

We should obey our parents.
(シユド オベイ ペアらンツ)

obey [obéi] 從ふ。

(吾々は兩親に從はねばなりません)。

は **You** should obey your parents. と云つてもよいのであるが, この **we** も **you** も漠然と一般の世人を指してゐるのである。また

What language (らんグウイッヂ) do **you** speak (スピーク) in India?
(印度では何語を話しますか)。

They speak English and Hindustani (ヒンドスタニ).
(英語と印度語を話します)。

なる文中の**you**や**They**は印度人を漠然と指してゐるのである。

He who is faithful (ふエイスふル), will surely (シユアリ) succeed (サクスイード).
(忠實な者は必ず成功します)。

の **he** の如く, **he** と云ふ語も, 同じく漠然と誰を指すのでなくて唯(人)と云ふ意に用ひられる事がある。

(2) It の用法

〔A〕 Have you the watch (ウオッチ)? Yes, I have **it**.
(君は「例の」懷中時計があるか, はい, あります)。

It には種々なる用法がある。一見頗る簡易であるやうだが, これがなかなか厄介で, 英文解釋には是非共これが用法を十分呑み込んで置く必要がある。

先づ **It** は**或る定まれる單數普通名詞の代りに用ひるのである。** 上例

parents [pɛ́ərənts] 兩親。 **language** [lǽŋgwidʒ] 言葉。 **faithful** [féiθful] 忠實な。 **surely** [ʃúəli] 確に, きつと, 必ず。 **succeed** [səksíːd] 成功する。 **watch** [wɔtʃ] 懷中時計。

Have you the watch? Yes, I have **it.**

中の **the watch**（例の時計）は漠然と（時計）と云ふのではなくして「(例の)時計」と定つてゐる單數普通名詞を示すのであるから，その代りに用ひる代名詞には Yes, I have **it.** と **it** を用ひたのである。それでどれと定まらぬ名詞，即ち不定冠詞の **'a'** や **'an'** が附いてゐる名詞を受けるには，この **it** を用ひないで **'one'** を用ひるのである。

Have you **a watch?**

（君は「どんなでもよい」時計がありますか）。

Yes, I have **one.** （はい，あります）。

No, I have **none.** （いや，ありません）。

〔B〕 **It** was I **that** went to Atami yesterday.

（昨日熱海へ行つたのは私でした「他の人ではない」）。

it は**强勢的の it** と云つて，特別に文章の意味を强めたいと思ふ場合に用ひる事がある。例へば

I went to Atami yesterday.

（私は昨日熱海へ行つた）。

と云ふ文を，今少しく强くして（熱海へ行つたのは**私でした**）（**他の人ではありません**）との如く言はんとせば **It** was I **that** went to Atami yesterday. とすればよいのである。斯んな風に **It ～ that**

と，**It** を主語にし，其次に **be 動詞**（is, am, was, were, are 等の原形）を置き，其次に**特に强く言ひたいと思ふ語句**を入れ，其次に **that** と云ふ語，其次に殘りの原文の語句一切を入れゝばよいのである。

（私が熱海へ行つたのは「他の日ではない」**昨日**でした）。

It was **yesterday** that I went to Atami.

（私が昨日行つたのは「他の場所ではない」熱海でした）。

It was **Atami** that I went yesterday.

の如く，それぞれ **that** の前に出てゐる語句を强く言ふことになるのである。今述べた事は過去だから **was** を使つたのであるが，現在の場合には It **is ～** that の形となるは勿論の事である。

〔C〕 ❶ **It** is the duty of every man **to work.**

（働くことは各人の義務である）。

❷ I think **it** impossible **to** master any language in a year or two.

（如何なる國語でも一二年で熟達することは不可能なことゝ思ふ）。

❸ **It** is wrong **that** you have it.

（君がこれを持つのはよくない）。

假設主語と假設目的 上例

❶ **It** is the duty of every man **to work.**

❷ **It** is wrong **that** you have it.

の文中 **it**（黑字體）を假設主語と云ふのである。これは

---

duty [djú:ti] 義務。 **work** [wə:k] 働く。 **think** [θiŋk] 思ふ。 **impossible** [impɔ́səbl] 不可能な。 **master** [mɑ́:stə] 熟達す。 **wrong** [rɔg] 間違つた。

❶ **To work** is the duty of every man.

❷ **That you have it** is wrong.

とすべきを，其の主語にあたる **to work**（働くことは）や **that you have it**（君がそれを持つことは）を後に廻して其代りに假りに **it** と云ふ語を主語として置いたので，日本語で現す時は（**それは**）などと云はず，**to work** や **that you have it** が主語であるものとして現したらよいのである。同じわけで，❷ の

I think **it** impossible **to master** any language in a year or two.

（如何なる言語でも一年や二年で熟達する事は不可能である）。

なる文中の **it** は **think** の目的語であるが，實は **think** の目的たるべきものは **to master** ～以下で，假りに **it** を目的語として其位置に置き本當の目的語は後に廻したものなのである。もう一例擧げると

I think **it** wrong **that** you have it.

（僕は君がそれを持つのを惡いと思ふ）。

なる文中の **it** は矢張り **think** の目的であるが，實は think の目的たるべきものは **that** ～以下で

I think that you have it wrong.

とあるべき所を，假りに **it** を目的語として，其位置に置き本當の目的語は後に廻したのである。

天候，時間，距離，明暗 等を表はす文の主語に "**it**" を用ゐる。この場合の **it** はその文中の何を指すと云ふことなく，ただ漠然と用ひられるのである。從つてかゝる場合の **it** は

「それは」と譯してはならないのである。

天候の例

❶ **It is raining** very hard.（れイニん ハード）

（雨がきつく降つてゐます）。

❷ **It thunders.**（すアンダ）（雷が鳴る）。

❸ It has **cleared** up.（クリアド）（晴れた）。

❹ **It blew** very hard last night.（ブルー ラースト ナイト）

（昨夜は風がひどく吹きました）。

❺ It is cloudy.（クラウディ）（曇天だ）。

❻ **It** began to **snow.**（ビギャン スノウ）（雪が降り出してゐた）

❼ **It** is **cold.**（コウルド）（寒い）。

❽ **It** is getting **warm.**（ゲティん ウオーム）（日增に暖くなる）。

距離の例

❶ How far is **it** from here to the station?（ハウ ふアー ステイシャン）

（此處から停車場迄どの位ありますか）。

❷ It is five minetes' walk.（ミニツツ ウオーク）

（歩いて五分です）。

❸ **It** is about two miles.（アバウト マイルズ）

（二哩ばかりです）。

---

rain [rein れイン] 雨が降る。 **thunder** [θʌ́ndə] 雷が鳴る。 **clear** [kliə クリア] **up** 晴れる。 **blew** [bluː] は **blow** [blou ブロウ] 風が吹くの過去。 **cloudy** [kláudi] 曇天の。 **snow** [snou] 雪が降る。 **began** [bigǽn] は **begin** [bigín ビギン] 始めるの過去。 **get warm** [wɔːm] 暖くなる。

時間の例

❶ What time is **it** by your watch?
（あなたの時計では何時ですか）。

❷ **It** is one (o'clock). （一時です）。

❸ **It** is half past eight. （八時半です）。

❹ **It** is ten (minutes) to seven.
（七時十分前です）。

❺ **It** is time to go to bed now.
（もう寢る時間です）。

日や月，年も矢張り時間の中であるから **it** を使ふのである。

❻ **It** is Thursday to-day. （今日は木曜日です）。

❼ **It** was the 21st of August yesterday.
（昨日は八月二十一日だつた）。

❽ **It** is three years since my mother died.
（私の母が死んでから三年です。

❾ What day of the week is **it** to-day?
（今日は何曜日ですか）。

❿ What day of the month is **it** to-day?
（今日は何日ですか）。

明暗の例

❶ **It** is lighter in the drawing room than in my study.

---

go to bed [床に就く]。 **Thursday** [θə́:zdi] 木曜日。 **August** [ɔ́:gəst] 八月。 **die** [dai] 死ぬる。 **month** [mʌnθ] 月。 **lighter** [láitə] より明るい。 **drawing room** [drɔ́:iŋrum] 客間。 **study** [stʌ́di] 書齋。

（僕の書齋より客間の方が明るい）。

〔3〕 再歸代名詞

人稱代名詞の中に，**再歸代名詞** (**Reflexive Pronoun**) 又は **複合代名詞** (**Compound Pronoun**) と云ふ一種の形がある。それは

❶ 第一人稱と第二人稱の人稱代名詞には，その**所有格**の語尾に，單數は **self**，複數は **selves** を附け，

❷ 第三人稱は，其**目的格**の語尾に **self** 又は selves を附けて出來た語である。

人稱	數	主格及目的格	所有格
第一人稱	單	myself	my own
	複	ourselves	our own
第二人稱	單	yourself	your own
	複	yourselves	your own
第三人稱	單	himself	his own
		herself	her own
	數	itself	its own
	複	themselves	their own
一般の形		oneself	one's own

---

myself [maisélf マイセルふ] 私自身。 **ourselves** [auəsélvz アウアセルぶズ] 吾々自身。 **yourself** [jɔ:sélf よーセルふ] 君自身。 **yourselves** [jɔ:sélvz よーセルぶズ] 君等自身。 **himself** [himsélf ヒムセルふ] 彼自身。 **herself** [həsélf ハセルふ] 彼女自身。 **itself** [itsélf イトセルふ] それ自身。 **themselves** [ðəmsélvz ずァムセルぶズ] 彼等自身。 **oneself** [wʌnsélf ウァンセルふ] 自身。 **own** [oun オウン] 自身の，自分の。

【注意】 第一，二人稱は my, your, our の所有格に附け，第三人稱は **him, her**（此語は所有格も同じく her であるが），**it**（此語は主語も同じく it であるが），**them** に附けるのである。それから **your** は單複同形であるが，再歸代名詞になれば單數は **yourself** で，複數は **yourselves** と區別してある。

再歸代名詞の所有格は，人稱代名詞の所有格と **own**（自身の）とを用ひる。

〔4〕 所有代名詞

代名詞の一種に **所有代名詞**（**Possessive Pronoun**）といふのがある。代名詞の所有格は，必ず次に修飾される**名詞**がなくてはならぬのである（**my house** の如く）。若し次に名詞の附かぬ場合，例へば「この家は**私の**です」と云ふ場合には，所有代名詞と云つて別の語を使つて

This house is **mine.**

の如く云はねばならぬ。次例を參照なさい。

代名詞の所有格	所有代名詞	代名詞の所有格	所有代名詞
my	**mine**	our	**ours**
your	**yours**	his	**his**
her	**hers**	its	**its own**
their	**theirs**		

尙代名詞の所有格を，❶ **獨立形**（＝所有代名詞），❷ **普通形**（＝代名詞の所有格）の二形に分つてよい。

Possessive Pronoun [pəzésiv próunaun パゼスィブ プろウナウン] 所有代名詞。**hers** [hə:z ハ〜ズ] 彼女の(もの)。**ours** [auəz アウアズ] 吾々の(もの)。**his** [彼の(もの)]。

即ち **my** の獨立形は **mine** で，**its** の獨立形は，それに **own** を添へたものである外は，總て普通形の語尾に '**s**' を附けたものが，その獨立形，ただ **his** は既に最初から語尾が '**s**' であるから，重ねて '**s**' を附けないで，そのまゝを獨立形にも使ふのである。

（1） 所有代名詞の用法

（これは僕の時計です）。

❶ This is **my watch.**

❷ This watch is **my watch.**

（これは僕の時計です）を英語で表はすと❶，❷の如く現はし This watch is **my** とは云はない。所で❷の文を見るに，これは文法上から云へば，勿論正しい文で誤りはないのであるが，僅か五語よりなる簡單な文に同一の名詞が二度も出ることは，口調の上から云つても具合が惡い，それでこんな重復をさけるために次の如く云ふのが普通である。

❷ This watch is **mine.** （＝my watch）

（私のもの，私の）。

即ち❶ **所有格の代名詞**の次には必ず何か名詞がなくてはならないのであるが，❷ **所有代名詞**は「所有格＋名詞」を一語で云ひ表はしたものである。で **my** も **mine** も同じく（私の），**your** も **yours** も同じく（君の）であるが，唯次に名詞の有無に依つて其用法を區別せねばならぬ。

序に注意せねばならぬ事は，**名詞**の場合には

❶ This is **Yamada's watch.**

（これは山田の時計です）。

❷ This watch is **Yamada's.**

（この時計は山田のです）。

と云つた風に，名詞の所有格は，後に ❶ の如く名詞が附いても，また ❷ の如く後に何もなくても，どちらの場合にでも使つて差支ないのである。

（2） 所有代名詞の數と格

❶ This book is **mine.**　（この本は私のです）。

❷ These books are **mine.**　（これ等の本は私のです）。

❸ **Mine** is smaller than **yours.**
（僕のは君のより小さい）。

❹ Show me **yours,** and I'll show you **mine.**
（君のを見せて下さい，さうすれば僕のを君に見せませう）。

所有代名詞は單に（私の），（君の）と云つても，（私），（君）を指すのではなくて，（私の所有する物），（君の所有する物）と云ふ意味で，「**品物**」を指すのであることは十分お解りのことゝ思ひます。上の This book is mine. の **mine** は my **book** と（本を）指してゐるので私のもの，私のと云う。

所有代名詞が品物を指すとせば，❶ の如く單に一冊の book を指す時は **mine** であるが，❷ の如く **These books** と云つた風に，複數の books を指す時は，mine の語尾に '**s**' を附けて mines とせねばならぬかと云ふと，さうではない。所有代名詞は單數でも，複數でも，同じ形でよい，數に依り變化はないのである。だから These books are **mine.** と矢張り同じく mine のまゝでよい。

次に，人稱代名詞は **I, my, me,** と云つた風に「格の變化」をするが，所有格名詞は（**主格**と**目的格**）にのみ用ひ，所有格には用ひないのである。そして主格に用ひる時も目的に用ひる時

も語の形に變化はない。❸ の **Mine** is smaller than **yours.** の **mine** や **yours** は主格で，❹ の Show me **yours,** and I'll show you **mine** の **yours** や **mine** は目的格である。何れも同じ形のまゝで語の變化はない。

〔5〕 疑問代名詞

疑問代名詞は申すまでもなく，問ひの文に用ひて，人なり物を尋ねる時に用ひる語である。其中 **who** は（**人間**）を問ふ時に用ひる語で，人間以外，例へば動物や植物を問ふ時にはこの who は用ひてはいけない。**what**（ウオツト） と **which**（ウイツチ） とは「**人間にもまた人間以外の事物**」にでも「**何に**」でも通用する，だから

Who is he?　（あれは何人ですか）。

とは言はれるが，

Who is it?
（あれは「人間以外の物を指して」何ですか）。

とは決して言つてはならぬ。斯んな場合には **What** is it? と **what** の方を用ひねばならぬ。併し人間を指して **What** is he? と云ふ事は（彼は何をしてゐる人ですか）で，無論差支はないのである。人間には **who, what** 何れを用ひても差支へないのである。

What is he? と **Who is he?**

此の二つの區別は一方 **what** ～？の方は其人の〔**職業**〕や（**身分**）を問ふ時の用語で，**who** ～？は其人の（名）や（血族關係）を問ふ時の用語である。即ち一方は（彼は何者ですか）（職業は何，身分は何）と云ふ意で，他は（彼は誰れか），（名は何と云ふ）意味なのである。

❶ **Who** is that tall（トール） gentleman（ゼントルマン）? He is **Mr. Smith**（スミス）.

（あの 脊の高い紳士は**どなた**ですか。**スミスさん**です）。（名前）

❷ **Who** is that lady? She is my **aunt.**（血族關係）

（あの婦人は**どなた**ですか。私の**叔母**です。）

❸ **What** is that man? He is a **blacksmith.**

（あの人は何ですか。**鍛冶屋**です）。（職業）

但し **what** は物に用ひた場合には其物の名を問ふに用ひられる。

❶ **What** else may I give? I should like to have a pound of sugar and three ounces of pepper.

（外に**何を**差上げませうか。砂糖一斤とペッパー三オンス貰ひたいものです）。（物の名）

（1） Which の用法

これは人にも物にも用ひられるが，常に選擇の意を表はすもので，（二つの中で**どちらか**），（多くの中**どれか**）と云ふ場合に用ひられるのである。

❶ **Which** is higher, Mt. Fuji or Mt. Niitaka?

（富士山と新高山と**いづれが**高いか）。（二つの中どちら）

❷ **Which** do you like best, sake, beer or wine?

---

gentleman [dʒéntlmən] 紳士。 **lady** [léidi] 貴婦人。 **aunt** [ɑ:nt] 叔母。 **blacksmith** [blǽksmiθ] 鍛冶屋。 **else** [els] 外に。 **should like** [～したいものだ]。 **pound** [paund] ポンド，封度。 **ounce** [auns オンス] オンス。 **pepper** [pépə] 胡椒（コセウ）。 **higher** [hàiə] より高い。 **Mt.** [maunt] ～山。 **like** [laik] 好む。 **best** [一番よく]。 **beer** [biə] ビール。 **wine** [wain] 葡萄酒。

（酒とビールと葡萄酒と**どれが**一番好きですか）。（三つの中どれ）

❸ **Which** do you like best of all?

（皆の中で**どれが**お好きですか）。（多くの中のどれ）。

（2） 疑問代名詞の格と數

主語	所有格	目的格
who（誰） **what**（何） **which**（どれ どちら）	**whose**（誰の）	**whom**（唯々を） **what**（何を） **which**（どれを どちらを）

普通の人稱代名詞が I, my, me の如く格の變化があるやうに，疑問代名詞にも，斯んな變化がある。即ち **who** は **whose**（所有格）**whom**（目的格）と變化する，但し **which** と **what** とは格の變化もなく，また主格と目的格だけで，所有格はないのである。

疑問代名詞には「**數の變化**」はないのである。單數も複數も同じ形である。

what と **which** には，所有格はないと，今述べたのであるが，**what** にも **which** にも所有格に似た形がある。即ち

❶ What dictionary is yours?

（**どの**辭書が君のですか）。

❷ Which dictionary do you like?

（**どちらの**辭書を君は好むか）。

の二文に注意して下さい。元來**所有格**とは（所有權）などを示

すものであるのに，**what** dictionary; **which** dictionary の **what, which** は（所有主）を示して居るのではない，即ち **what, which** は次の名詞 dictionary を説明する形容詞，疑問代名詞から變化した**疑問形容詞**である。で疑問代名詞としては **what** と **which** は主格と目的格にのみ用ひられ，所有格には用ひられぬのである。

（3） 疑問代名詞と前置詞

疑問代名詞は，成るべく文の眞先きに置くのがきまりとなつてゐるが。それに **at, on, in, from, with** 等前置詞が附屬してゐる時は，其の前置詞は疑問詞の前に置いても，別に後に置いても差支ないのである。

❶ { **To whom** does this belong?（フーム ビロン）
　　Whom does this belong **to**?

（これは誰の所有ですか）。

❷ { **With whom** do you go?
　　Whom do you go **with**?

（君は誰れと行きますか）。

❸ { **At what** are you looking?（ルキン）
　　What are you looking **at**?

（君は何を見て居るか）。

❹ { **With what** do they eat?（イート）
　　What do they eat **with**?

（何を以て人々は食するか）。

---

belong [bilɔ́ŋ] 屬する，〜の所有物だ。 **look at** [〜を見る]。 **eat** [i:t] 喰べる。

但し **which** に限り，前置詞は大抵の場合其前に置かないのが通例となつてゐるやうである。

❺ **Which** were you thinking（シンキン） **of**?

（君はどれのことを考へてゐたのか）。

❻ **Which** is he looking **at**?

（彼はどれを見てゐるのか）。

〔6〕 關係代名詞

日本語と英語とは，根本的にその言ひ分が違ふことが澤山ある。その中最も著しいものゝ一つはこれから述べんとする關係代名詞である。日本語では

❶ **彼は**（主語） **私に其事を話した少年**（其他） **です**（動詞）。

❷ **これは**（主語） **私に吠えついた犬**（其他） **です**（動詞）。

と云つた風に，（文）に最も大切な**主語**と**動詞**とを，文の最初と最後に置いて，そして其間に（**其他**）の部分をはさむのがきまりである。所が，英語では

❶ **He is 私に其事を話した少年**

❷ **It**（主語） **is**（動詞） **私に吠えついた犬**（其他）

と云つた風に，先づ主語の次に動詞を云つて，それから最後に，（其他）の部分を云ふのである。

それから，上に（其他）と云つた部分の英語の言ひ方であるが，これを

❶ The boy told（トウルド） it to me.
　（A） （C） （B）

❷ The dog barked（バークト） at me.

---

bark [bɑ:k]。

としたのでは,「少年がその事を私に話した」,(犬が私に吠えついた)と云ふ意味,即ち(**A が B に C した**)と云ふ事になつて,(**B に C した A**)の意味にはならないのである。

英語では,こんな(**B に C した A**)と云つた風のことを云ふには,先づ(A)を一番に置いて

A + (　　) + (C + B)

と云ふ順序にし,(　　)の所に,(**それは**)とでも云つた風の意をあらはす語を置くのである。即ち

A + それは B に C した

と云ふ順序に云ふのである。

それは,その(**それは**)と云つた意味を表はすには,どんな語があるかと云へば大抵は

A が(人)をあらはす語ならば "who"
A が(人以外の物)をあらはす語ならば "which"
A が(人にでも物にでも)どちらでもあらはす語ならば "that"

と云ふ語を使ふのである。御存知の如く **who** は(誰),**which** は(どちら,どれ)と問ふ場合に用ひ,**that** は(それは,あれは)の意であるが,こゝのはそんな意味に使ふのでなくて,(**A**)と(**C+B**)とを(ところの)とつなぎ,且つ**代名詞**(それは)の役目を兼ねるので,文法では**關係代名詞**(**Relatvie Pronoun**)と云ふ役目をするものなのである。即ち上例の日本語は,一つは(A)に當る語が(少年)即ち(**人**)だから,'**who**'を使つて

The boy **who** told it to me.
(A) (C) (B)

となり,一方は(A)に當る語が(犬)即ち(**人以外の物**)であるから,'**which**'を使つて

The dog **which** barked at me.
(A) (C) (B)

となるのである。(少年,それは私にそれを話した)(犬,それは私に吠えついた)と云つた風の意味なのである。從つて,最初に云つた①(彼は私にその事を話したところの少年です)は

He is the boy **who** told it to me.

となり,②(これは私に吠えついたところの犬です)は

This is the dog **which** borked at me.

となるのである。

(1) 關係代名詞の格

主格	所有格	目的格
who	whose	whom
which	{whose / of which	which
that		that
what		what

The boy **who** told it to me.
(其事を私に話した少年)。

と云ふ文では,(話した)のは(少年)で,その(少年)を代表してゐる語が **who** なのである。即ち who は動詞 told の(**主格**)である。所が

(私が其事を話した少年)。

と云ふ時には,(話した)のは「私」即ち「私」が(**主格**)であ

つて，（少年）は「話しかけられた人」即ち「話した」の（**目的格**）である。此んな目的格の場合には，who は使はないで，**whom** を使つて

The boy **whom** I told it.

とするのである。ただし關係代名詞の前にある語が人以外の（物）の時には，主格も目的格も，同じ **wihch** を使ふのである。

❶（私に吠えついた犬）
The dog **which** barked（バークト） at me.

❷（私が打つた犬）The dog **which** I hit（ヒット）.

同じ which であるが，①（の **which**）は（吠えた）の主語で主格であるが，②（の **which**）は（打つた）の主語は I で，**which** はそれの目的語，即ち目的格なのである。（人）の時なら，who と whom と區別するのを，人以外の（物）の時は，どちらにも同じ **which** を使ふのである。

また（その父がその事を私に話した少年）と云ふ場合には

The boy **whose** father told it to me.

とする。この場合，（少年）は主格でも，目的格でもなく，主格の father の所有主，即ち（**その父**）なのだから，所有格の **whose** を使ふのである。ただし人以外の（**物**）が所有格の時には，例へば（その脚を傷した犬）は

The dog {**whose** leg（レッグ） / the leg of **which**} was hurt（ハート）.

と云つた風に，特に（人）と同じ **whose** を使ふ，故に **whose** ～ としても，また **the ～ of which** と，which に of を添へ

---

hit [打つ]。

て使つてもどちらでもよいのである。

關係代名詞の數　關係代名詞には，總て（單數）でも，（複數）でも同じ形を使ふので，（數）に依つて形の變る事は，どの關係代名詞にもないのである。

（2）先行語

關係代名詞は，接續詞と代名詞と二つの役目を兼ねるものであるが，その代名詞としての役目とは，その關係代名詞よりも前に何か**名詞**又は**代名詞**が出てゐる場合，二重にそれと同じ名詞又は代名詞を使ふ代りに使ふ事を示すのである。例へば

I met（メット） a foreigner（ふオリナ），who ～.

の **who** は，前に出てゐる名詞の foreigner を二度使つて

I met a **fareigner, and** the **foreigner** ～.

と云ふ代りをしてゐるのである。

この **foreigner** の樣に關係代名詞の前にあつて，之れを二度繰り返へして言ふ代りに關係代名詞を用ひられる名詞又は代名詞の事を，その關係代名詞の**先行語**（**Antecedent**）と云ふのである。關係代名詞の中 **what** の外の語，即ち **who**（**whose, whom**）も **which** も **that** も **but** も皆必ずこの先行語があるのである。先行語のない關係代名詞は唯 **what** だけである。

先行語と關係代名詞 who と which　先行語が（**人**）の時は必ず **who**（**whose, whom**）を使つて，決して **which** を使つてはいけない。これに反して先行語が（**人でないもの**）の時は決して（**who, whose, whom**）を使つてはいけない。この場合には必ず **which** を使はねばならぬ。

---

leg [脚]。　**was hurt** [hə:t] 傷いた。　**foreigner** [fɔ́rinə] 外國人。　**Antecedent** [æntisí:dənt アンティスィーダント] 先行語。

(3) 關係代名詞 that

that もまた關係代名詞に使ふのである。意味も **who** (**whom**) や **which** と全く同じで，接續詞と代名詞の二つ役目を兼ねてゐるものであることには相違ないのである。ただ前に述べた通り **whose** や **of which** の如く所有格の場合にはこの that は使はれぬのである。

(4) 關係代名詞 what

❶ Never put off until to-morrow **what** can be done to-day.

(今日なし得る**事**(ところの事)を明日まで延ばすな)。

❷ They paid the woman in full for **what** they had stolen and spoiled.

(彼等は盗んだり損ねたりした**物**に對して，全金をその女に拂つた。

what が關係代名詞として使はれると，**that** (又は **who**) **which** と，先行語と二つの役目を兼ねる (what 一語で) のである。だから **what** を使ふ場合に限り，別に先行語は一切ないのである。

what は (これ)，(あれ)，(それ) と一つのものを指す時にも，また (これ等)，(あれ等)，(それ等) と二つ以上のものを指

---

put off=**postpone** [póustpoun ポウストポウン] 延ばス。**until**=**till** [〜迄]。 **paid** [現在は **pay**] **for** [代金を拂つた]。 **in full** [十分に]。 **stolen** [stóuln] は **steal** [stiːl スティール盗む] の過去分詞。 **spoil** [spɔil] 臺無しにする。

す場合にも，また **all** の意味を表はす場合にも使はれるのである。

以上述べた事に依り **what** は "**that which,**" "**those which,**" "**all that**" の意味に解し得ることがお解りでせう。上例 ① の what は **that which** の意で，② の what は **all that** の意である。

上例の如き **what** の用法は屢々試驗にも出，又 reader の中にも屢々用ひられるので，十分その用法を習熟して貰ひたいものである。

(5) 關係代名詞と前置詞

❶ There was a large tree at the end of the meadow **which** we **were crossing.**

(吾々の**横ぎつてゐた**牧場の端に大きな木が一本あつた)。

❷ He stopped at a bed **on which** a soldier was lying.

(彼は兵士が寢てゐる寢臺の所で止つた)。

上の例を比較して御覽下さい。兩者の異る點を見るに，**which** は何れも目的格であるが，① は **were crossing** なる他動詞の目的であり，② は **on** なる前置詞の目的である。特に注意すべき點は ② の場合 **on** なる前置詞が必要である，何故であるか，これが英語研究者に明瞭になつてゐないと，解釋にも，殊に和文英譯に際して間違つた文を書き易いのである。それは，先

---

meadow [médou] 牧場。 **end** [端]。 **cross** (krɔːs クロース] 横ぎる。 **lying** [laiiŋ]=**lie**+**ing** [**lie** lai ライ] 横はる。

づ **which** 以下の文に於ける動詞の種類を考へることである。即ち ① にありては **were crossing** は他動詞であるが ② の **was lying** は**自動詞**である。この動詞が自動詞の場合には，關係代名詞の前に適當なる前置詞を置かねばならぬ。

This is the house(ハウス) **in which** my uncle(アンクル) lives(リブズ).

（これは私の叔父が住んでゐる家です）

なる文に於ける **live** は自動詞だから **which** の前に **in** が必要である。即ちもう少し分解的に考へて見るに

My uncle lives this house.

と云ふ英文は間違ひで，必ず

My uncle **lives in** this house.

の如く **in** を入れなければ lives と this hou e との關係がつかない。この點を十分呑込んでやれば誤りはないのである。

關係代名詞に附く前置詞は，關係代名詞の前に附くのだと今述べたが，必ず關係代名詞の前とのみ限られてはゐない，ものの**後に**置いてもよい。

（叔父はこの家に住んでゐる）。

My uncle **lives in** thi; house.

（これは叔父が住んでゐる家である）。

This is the house { **in** which my uncle lives. / which my uncle lives **in**.

こんな風に **in** は **which** の前に置いても，あたりまへに動詞 **live** の次に置いてもよい，どちらでもよい。又

This is he house my uncle lives **in**.

と **which** を略してもよい。

但し關係代名詞 **that** を使へば，必ず **that my uncle lives**

in と live の次に置き，決して in that my uncle lives と that の前に置いてはいけないのが規則である。

❶（君の掛けてゐる椅子は安樂椅子です）。

(A) The chair(チエア) **on which** you **are sitting**(スイテイン) is an armchair.

(B) The chair **which** you **are sitting on** is an armchair.

(C) The chair **that** you **are sitting on** is an armchair.

(D) The chair you **are sitting on** is an armchair.

❷（私が一緒に横濱へ行つた外人は伊太利の飛行將校です）。

(A) The foreigner(ふオリナ) **with whom**(ウイず フーム) I **went** to Yokohama is an Italian(イタリヤン) flight(ふライト) officer(オふイサ).

(B) The foreigner **whom** I **went with** to Yokohama is an Italian flight officer.

(C) The foreigner **that** I **went with** to Yokohama is an Italian flight officer.

(D) The foreigner I **went with** to Yokohama is an Italian flight officer.

(6) 關係代名詞の省略

關係代名詞が（他）動詞又は前置詞の目的に用ひられた場合には屢々省略せられる。今述べた

---

armchair [ɑ́:mtʃɛə] 安樂椅子。 **foreigner** [fɔ́:i ə] 外國人。 **flight** [flait]。 **officer** [ɔ́fisə] 飛行將校。

❶ The chair (**which**) you are sitting **on** is an armchair.

❷ The foreigner (**whom**) I went **with** to Yokohama is an Italian flight officer.

の二文に於ける省略せられた which, whom は前置詞 **on, with** の目的である。

❸ That was the best present (**which**) they could **give** to Jesus on his birthday.

(それが彼等がイエスに彼の誕生日に與へ得る最上の贈物であつた)。

この文の省略せられた which は他動詞 give の目的である。

〔7〕 形容代名詞

this, that, these, those, some, any, one, none, both, each, all, either, neither, certain [sə́:tn サーテン・或る物], former [fɔ́:mə フォーマ・前者], latter [lǽtə ラタ・後者], other (他の人, 他のもの), another [ənʌ́ðə アナザア・他の一つ] 等, 使ひようによつては, **形容詞**にもなる代名詞を云ふのである。つまり次に修飾される名詞の附く時は形容詞で, 附かぬ時は代名詞の役目をするのである。

---

present [préznt] 贈物。 **Jeseus** [dʒí:zəs ヂーザス] イエス, 耶蘇。 **birthday** [bə́:θdei] 誕生日。 **best** [最もよい]。 **this** [これ]。 **that** [それ, あれ]。 **these** [これ, これ等]。 **some** [或る人, 或るもの]。 **any** [誰か, 何か]。 **one** [人, 物]。 **none** [誰も〜ない, 何も〜ない]。 **both** [兩者]。 **each** [各]。 **all** [總て]。 **either** [どちらか]。 **neither** [どちらも〜ない]。

比較

❶ He came to my house **one** day.

(或日彼は私の家に來た)。

❷ Your coat is black; mine is a white **one**.

(君の上衣は黒だが, 僕のは白いのだ)。

今上例 ❶, ❷ を比較するに, ❶ の **one** は day を形容する形容詞であるけれども, ❷ の **one** は coat の代りに用ひられた代名詞で, white で形容されてゐる形容代名詞である。かくの如く此等の語は形容詞にも代名詞にも用ひられるもので, 兩者の區別は大體に於て**此等の語の後に名詞があれば形容詞, 名詞が無ければ代名詞**であると思つて差支へなからう。

❶ (A) **This** is my book. (代名詞)

(**これは**私の本です)。

(B) **This book** is mine. (形容詞)

(**この**本は私のです)。

❷ (A) **Each** of the pupils has his own desk.

(生徒は**各々**自分の机がある)。 (代名詞)

(B) **Each boy** has own desk.

(**各々の**生徒は自分の机がある)。 (形容詞)

斯くの如く此等の語は形容詞にも代名詞にも用ひられるので多少厄介である。

---

coat [kout] 上衣。 **black** (blæk] 黒き。 **pupil** [pjú:pil] 生徒。 **his own** [彼自身の]。

第三章 Article〔冠詞〕

(1) 冠詞

冠詞の中"**a**"と"**an**"は **one**(一つの)と云ふ語から變化したもので,どれと指定することなく,漠然と(一つの)の意を表はす語であるが,これに反して,"**the**"は **this**(この),**that**(あの,その)から變化した語で,或るものを指定して,(あの),(この),(その),(例の)など云ふ意を,それとなく相手に示す場合に使ふ語である。この意味からして,文法では

① **a, an** の二語を**不定冠詞**(**Indefinite Article**)

② **the** を**定冠詞**(**Definite Article**)

と云つてゐる。

これ等の語について,一寸注意して置きますが,一語だけを明瞭に言ふ時には,**a** は[ei, エイ],**an** は[æn, アン],**the** は[ði: ずイー]と云ふのであるが,普通の場合は,**a** は[ə, ア] **an** は[ən, アン],**the** | [ðə, ずア],又は(ði, ずイ]と,何れも皆輕く短く云ふのである。

a と **an** とは,その意味も,用法も,全く同じなのである。唯口調の都合で

〔A〕 **父音で始まる語の前には a を**

〔B〕 **母音で始まる語の前には an を**

附ける事になつてゐるのである。

Indefinite Article [indéfinit ɑ́:tikl, インデふィニット アーティクル] 不定冠詞。**Definite** [デふィニット] **Article** [定冠詞]。

the は形には變りはないが,**a** と an との別があるのと同樣に

〔A〕 **父音で始まる語の前の時は** [ðə, ずァ] **と**

〔B〕 **母音で始まる語の前の時は** [ði, ずィ] **と**

區別して讀む定めになつてゐるのである。

a と an に就ての注意;—a と **an** との區別は,發音上,即ち口調の都合で區別されてあるのだから,父音字即ち**父音**(コンサナンツ)(**Consonants**)で始まる語でも,その父音を發音しないで,次の母音字,即ち**母音**(ぶアウアルズ)(**Vowels**)が發音せられる場合には,やはり **an** を用ひねばならぬ,例へば **honest** [ɔ́nist, オニスト・正直な],**hour** [auə, アウア・時] などの語の綴は(h)と云ふ父音で始まつてゐるが,その(h)を發音しないから冠詞は **a** でなく"**an**"を用ひねばならぬ。

❶ This is **an** (アンナウア) **hour** (ハンド) hand.

(これは時針「短針」です)。

又 **useful** [jú:sful ゆースふル・有用な],**European** [juərə-píən, ゆアラピアン・歐羅巴人] などの語は'**u**','**e**'などの母音で始まつてゐるが,父音で發音されてゐるから an でなく'**a**'を用ひる。

❷ A horse (ホース) is **a useful** (ゆースふル) animal (アニマル).

(馬は有用なる動物である)。

❷ That gentleman (ヂントルマン) is **a European** (ゆアらピアン).

(あの紳士は歐羅巴人です)。

Consonants [kɔ́nsənənts コンサナンツ] 父音。**Vowles** [váuəlz ぶアウアルズ] 母音。**hour hand** [時針]。

(2) 不定冠詞 a, an の用法

a, an は今申述べた通り，(一つの) の意を含んだ語であるから，**複數名詞**には勿論附けられない。また (數) を數へられない**物質名詞**や，(數) のない**抽象名詞**には，當然これを附けることは出來ない。一個一人の名たる**固有名詞**にもこれを附けないのが普通である。即ち **a, an** を附ける名詞は「**普通名詞と集合名詞**」の**單數**に限るので，**此等の語には**，次の様な修飾語 (その主なる語)，即ち

❶ **my, our, your, his** 等の代名詞の所有格
❷ **whose** (誰の)，**which** (どちらの)，**what** (何の)
❸ **one, two, three, four, many, some** 等の數を表はす語
❹ **first, second, third** 等の順序を表はす語
❺ **定冠詞の the**

が**附いてない場合**には，必ずこの "**a, an**" を附けねばならぬのである。言ひ替へれば，單數の普通名詞，集合名詞は，冠詞も修飾語も何も附けないで，それだけを單數に使ふと云ふ事は決してないのである。

(3) 冠詞の位置

冠詞は名詞の前に附けるものであるが，これに形容詞が附きまたその形容詞に副詞が附くと，その眞先きに附くのが普通である。

冠詞	副詞	形容詞	名詞
a			racket
a		good	racket
a	very	good	racket

ただしこの規則に從はない例外が二三ある。

(1) 感嘆文の **what** は，冠詞の "**a, an**" よりも前に置く。

❶ **What a** good book this is!
(これは何んとよい本だこと)。

❷ **What an** easy book this is!
(これは何んと容易い本だこと)。

(2) **Such** と云ふ形容詞は，冠詞の "**a, an**" よりも前に置く。

I never saw **such a** fine scenery.
(私は斯んな美しい景色を見たことがない)。

(3) **All, both** と云ふ形容詞は，冠詞 "**the**" の前に置く。

❶ **Both the** books are good.
(「この」本は兩方共よろしい)。

❷ **All the** books are good.
(「この」本は皆よろしい)。

(4) **half** (半分の) と云ふ形容詞は，冠詞の **a, an** や **the** の前に置く。

❶ It is only **half a** mile from here to the station.
(こゝから停車場迄僅か半哩です)。

❷ I will give you **half the** sum.
(「この」半額を君にあげやう)。

(4) 不定冠詞 a, an の特殊な意味

不定冠詞 **a, an** は (漠然一つの) 意に用ひられることは今

---

such [sʌtʃ] こんな。 **scenery** [síːnəri] 景色。 **both** [bouθ] 兩方の。 **only** [óunli] 只。 **thing** [θiŋ] 物。

述べたのであるが，また次のやうな特別の意味を表はす場合に使ふことがある。

(1) **"a, an" が "one" の代りに用ひられる場合。** 漠然「一つの」の意なく，次の (2), (3), (4) 等に對して，(一つの) の意に用ひられる。

❶ Do one thing at a time.
(一時に一事をなせ)。

❷ I will come back a day or two.
(一二日たつたら歸りませう)。

これを **one** day or two とは云はないで，上の樣に云ふのが普通である。

(2) **(per＝毎に，～に付) の意に用ひられる場合。**

❶ My elder brother now in Tokyo writes me twice a month.
(目下東京にゐる兄は月に二度手紙をよこします)

❷ He comes to my house once a week.
(彼は週に一度私の宅に來ます)。

(3) **(same＝同一，同じ)** の意味に用ひられる場合。
Birds of a feather flock together.
(同じ羽毛の鳥は一所に集る＝類を以て集る)。

(4) **(a artain＝某) の意味に用ひられる場合。**

---

at a time [一時に]。**come back** [歸る]。**feather** [féðə] 羽毛。**flock** [flɔk] 集る。**together** [təgéðə] 一緒に。**certain** [sə́:tn, サーテン] 某。**elder brother** [兄]。**twice** [twais] 二度。**once** [wans] 一度。

Do you know a Mr. Yamada of Tokyo?
(東京の山田さん**とか云ふ人**を御存じですか)。

(5) **其類一般を表はす場合。**

一つの名の物全體を表はす場合，例へば ①(**犬は猫**より忠實である)，②(**犬と云ふものは**忠實な動物である) と云つた風に (**犬**) 全體と云ふ意味を表はす場合には，どうしたらよいか，其方法は次の通り三種あるわけで，先づ**不定冠詞 "a, an"** を用ひて

(A) ❶ **A dog** is more faithful than **a cat.**
　　❷ **A dog** is a faithful animal.

と云ひ得る方法と，(**單數の形に the を附ける**) 方法と，(**複數の形に何も冠詞を附けぬ**) 方法

(B) ❶ **The dog** is more faithful than **the cat.**
　　❷ **The dog** is a faithful animal.

(C) ❶ **Dogs** are more faithful than **cats.**
　　❷ **Dogs** are faithful animals.

此の三樣の方法で以て，(**全體の意味**) を表はす規則になつて居るのである。

例外;—(人間)，(男) の意を表はす **man** と云ふ語と(女)の意の **woman** と，この二語に限り (全體の意) を表はす場合には

(A) 單數の形に何も冠詞を附けぬか，
(B) 同じ形に '**a**' を附けるか，
(C) 複數の形に何も冠詞を附けぬか，

---

faithful [féiθful] 忠實な。**inferior** [infíəriə] 下級の，劣つてゐる。**woman** [wúmən] 女。

この三様の方法を以てし，單數に **the** を附けることはしないのである。

（女は男より劣つてゐない）。

（A） **Woman** is not inferior to **man.**

（B） **A woman** is not inferior to **a man.**

（C） **Women** are not inferior to **men.**

（5） 定冠詞 the の用法

名詞の前に "**the**" を附けた時は，その名詞が何を指すかが話相手によく分るやうな場合に用ひるのである。それで初めて話題に上る名詞はどれを指すか分らないから，"**a, an**" を附けるが，一度出て何を指すかゞ明瞭な場合には "**the**" を用ひねばならぬ。

❶ Two boys were walking together, when **a bear** appeared in their way. When **the bear** came and smelt one of them all over, he held his breath like a dead boy.

（二人の少年が一緒に歩いてゐた，その時に**一匹の熊**が彼等の行手に現はれた。**その熊**が來て一人の少年の全身を嗅いだ時に，彼は死人のやうに息を止めた）。

併し初めて出た名詞でも，前後の關係からして，其名詞が何

---

together [təgéðə] 一緒に。 **bear** [bɛə] 熊。 **appear** [əpíə] 現はれる。 **smelt** [smelt] は **smell** [smel スメル・嗅ぐ] の過去。 **all over** [一面に]。 **held** は **hold** [抑へる，止める] の過去。 **breath** [breθ] 息。

を指してゐるかが，聞く人に明かな場合には "**the**" を附ける。

❷ Paris is **the capital** of France.

（巴里は佛蘭西の首府である）。

❸ **The highest mountain** in Japan is Mt. Niitaka.

（日本で**一番高い山は**新高山である）。

❹ I have lost **the knife** that I bought the day before yesterday.

（一昨日買つた**小刀**を落した）。

(2) の例に就いて云へば，**capital**（首府）の後にその意味を制限する句，"**of France**" があるが爲に，佛蘭西の首府は「巴里」なることに定まり，從つて "**the**" を附けねばならぬ。(3) の一番高い山と云へば一つの山を指すのだから，the highest mountain となり，(4) の一昨日買つたと云へば，どの小刀だか聞手に分るわけで **the** knife と **the** を附けたのである。かう云つた風に，名詞の意味を制限（限定）する句があれば，たとへ初出の名詞であつても **the** を附けるのである。

ただこゝに注意せねばならぬことが一つある。それはたとへ名詞の後に制限する句があつても **the** を附けるとは限らないのである。

❶ Mr. Hara is **the chairman** of the House of Representatives.

---

capital [kǽpitəl] 首府。 **dead** [ded] 死せる。 **the day before yesterday** [一昨日]。 **chairman** [ʧéəmən] 議長。 **the House of Representatives** [reprizéntətivz れプリゼンタティヴズ] 衆議院（日本，アメリカなどの）。

（原氏は衆議院**議長**です）。

❷ (A) Mr. Hara is an M. P. of the Diet.
(B) Mr. Hara is **a member** of the Diet.

（原氏は衆議員**議員**「代議士」です）。

上例 ❶, ❷ を比較して見るに, ❶ に於ては衆議員議長と云へば一人しかなく特定せられたものであるから **the** chairman と "**the**" を附けるが, 代議士と云へば澤山ゐる, それで the M. P. とは云へない, 多くの代議士中の一人を指すのであるから, たとへ **of the Diet** なる制限せる句があつても, この場合は **a** member と "**a**" でなくてはならぬ

❶ They are **members** of the Diet.
（彼等は代議士です）。

❷ They are **the members** of the Diet.
（彼等は代議士の**全部**です）。

❶ は幾人かの代議士を表はし, ❷ は代議士全部を指すのである。

今上に述べた通り冠詞の用ひ方に依り意味が違つて來るから注意せねばならぬ。

(6) 定冠詞 the の特別の意味

(1) **數を表はす語句**の前に（**by+the**）を附けて, **數量の標準**（**計算の標準**）を示す場合。

M. P. [**member of Parliament** [pɑ́:ləmənt, パーラマント]「英國などの」國會, 議會の略。**member** [mémbə] 議員。**Diet** [dáiət] 國會（獨逸及びオーストリアの）。

❶ I lend (レンド) the room (るーム) **by the week** (ウイーク).
（**一週幾らと云ふ計算で**この部屋を貸してゐます）

❷ These are sold (ソウルド) **by the dozen** (ダズン).
（これは**一ダース**「**一ダースを標準として**賣られてゐる」賣りをされてゐる）。

❸ He eats (イーツ) meat (ミート) **by the pound** (パウンド).
（彼は**何斤となく**肉を食ふ）。

(2) **形容詞の前に附け（名詞なしに）ると 複數の普通名詞**や, **抽象名詞**の意味を表はす。

❶ **The rich** (リッチ) should (シユド) not despise (デイスパイズ) **the poor** (プア).
（**富者は貧者**を輕蔑すべからず）。

the rich = rich people (ピープル)（富める人々）, **the poor** = poor people（貧しき人々）。

❷ **The true** (トるー), **the good** (グド), and **the beautiful** (びゆータふル) are one and the same (セイム) thing (すイん).
（**眞, 善, 美**は全然同一物である）。

これは「抽象名詞」に用ひた例である。

(3) **形のある物を表はす語**（即ち普通名詞）に附けて, **無形の意味**（即ち抽象名詞）の意味を表はす。

The pen is mighter (マイテイア) than (ざアン) **the sword** (ソード).
（**筆の力は劍の力よ**りも強い）。

lend [貸す]。 **meat** [mi:t] 肉。 **should not** [～すべからず]。 **despise** [dispáiz] 輕蔑する。 **mightier** [máitiə] より力の強い。 **sword** [sɔ:d] 劍。

元來 **pen** は（ペン先），**sword** は（劍）で何れも形のある物を示す語であるが，上文では，それに "**the**" が附いて（**ペンの力**），（**劍の力**）と云ふ無形の意味に轉じさせたのである。

類例 **the father**（父の情）。 **the man**（人情）。
the heart（情）。 **the head**（智力）。

元來 **heart** は（心），**head** は（頭）であるが，"**the**" が附いた爲め，（心の司るもの）即ち「情」，（頭の司るもの）即ち「智力」と云ふ意味に轉化したのである。

(4) **普通 "the" を附ける名詞。**

〔A〕 **the sun**（太陽），**the moon**（月），**the earth**（地球），**the world**（世界），**the sky**（空），**the universe**（宇宙）等。

〔B〕 **the east**（東），**the west**（西），**the south**（南），**the north**（北），**the right**（右），**the left**（左），**the door**（戸），**the window**（窓），**the station**（停車場），**the post-office**（郵便局），**the park**（公園）等。

但し公園名（Ueno Park の如く），停車場名（Tokyo Station の如く）を云ふ時には **the** を附けてはならぬ。

❶ Europe lies between Asia on **the east**, and the Atlantic on **the west**.

（歐羅巴は**東**は亞細亞，**西**は太西洋の間に位す）。

---

earth [əːθ]。 **universe** [júːnivəːs]。 **south** [sauθ]。 **north** [nɔːθ]。 **lie** [lai, ライ] 横はる，位する。 **the Atlantic** [ətlǽntik] 大西洋。 **revolve** [rivɔ́lv] 回轉する。 **along with** [一緒に]。

❷ As **the earth** revolves about **the sun**, **the moon** goes along with it as its companion.

（**地球**が**太陽**の周圍を通る時に，**月**は地球の伴侶として一緒に廻ります）。

❸ Would you kindly post this letter on your way to **the station**?

（**停車場**に行かれる途中にこの手紙を投函して下さいませんか）。

❹ Last night we reached **Ueno Station** near **Ueno Park**.

（昨夜私共は**上野公園**の近くの**上野停車場**に到着しました）。

(5) 次のやうな**成句**には "**the**" を附ける。

in the morning（午前に），**in the afternoon**（午後に），**in the evening**（夕刻に），**in the daytime**（日中に），**in the sun**（日向で），**in the shade**（日陰で），**in the rain**（雨中），**in the dark**（暗がりで），**in the light**（あかるみで）等。

❶ The little boys are playing **in the sunshine**.

（子供等は**日のあたる所で**遊んでゐる）。

---

companion [kəmpǽnjən] 仲間，同伴者。 **safely** [séifli] 無事，安全に。

❷ I arrived safely at Shimonoseki Station at 7 **in the evening.**

（私は**晩**の七時に下關驛に無事着きました）。

但し次のやうな場合には "**the**" を附けない。

❶ **at night**（夜中に）

❷ **this morning**（今朝）
yesterday morning（昨朝）
to-morrow morning（明朝）

❸ **every morning**（毎朝）
towards morning（朝方）

❹ **early this morning**（今朝早く）
early in the morning*（朝早く）

afternoon, evening の場合も此れと同樣である。

❶ It is good for the health to get up **early in the morning.***

（**朝早く**起きるのは身體の藥です）。

❷ I got up **early this morning** as I had to go on excursion.

（遠足に行かねばならなかつたので **今朝は早く** 起きました）。

---

towords [tɔ:dz] ～の頃，～に向つて。 **is good for** [～の爲になる]。 **health** [helθ] 健康。 **had to** は **have to** [=**must** ねばならぬ] の過去形。 **go on excursion** [ikskə́:ʃən] 遠足に行く。

❸ Would you like to go for a sail in my boat **this afternoon?**

（**今日午後**私のボートに乘つて出ませんか）。

❹ I make it a rule to take an hour's walk **in the evening.***

（私は**夕方**一時間散歩することにしてゐます）。

(7) 冠詞省略

次に（**冠詞の省略**）と云ふことをお話して，此の冠詞の章を終ることにします。今まで述べて來たのは，冠詞を附けねばならぬ場合であつたが，これから其反對に冠詞を附けてはならぬ場合に就いて述べるのである。

(1) **官職名**や**稱號**で，**同格語**や**補足語**の役目をするものには，冠詞は附けない。

〔A〕 **同格名詞**の場合

❶ Mr. Kato, **Home Minister**, is now staying at his villa at Atami.

（**內務大臣加藤氏は** 目下熱海の別莊に滯在中である）。

❷ Mr. Hasegawa, Doctor of Medecine, started for Germany yesterday.

（長谷川**醫學博士**は昨日獨逸へ向け出發しました）。

---

go for a sail [舟遊びに行く]。 **make it a rule to** [～することにしてゐる]。 **Home Minister** [houm ministə] 內務大臣。 **villa** [vílə] 別莊。 **appoint** [əpɔ́int] 任命する。

〔B〕 補足語の場合

❶ Mr. Kato was appointed **Prime Minister**.

(加藤氏は**總理大臣**に任命せられた)。

❷ Lincoln was re-elected **President** of the United States of America in 1865.

(リンカンは 1865 年米國**大統領**に再選された)。

(2) **血統を表はす語句で, 同格語や補足語**の役目をするものにも, 冠詞を附けない。

❶ Masatsura, **son** fo Masashige, fell at Shijō-nawate. (同格語)

(正成の息, 正行は四條畷に於て討死した)。

❷ Masatsura is **son** of Masashige.

(正行は正成の息である)。

(3) **自分の家族の人を表はす語**には冠詞を附けない。

❶ **Father** and **mother** are out.

(**父母は**不在です)。

❷ **Brother** had to pay such a lot of money!

(**兄は**あんなに澤山のお金を拂はねばならなかつた)。

但し, 他の家族には, 勿論冠詞は入用である。

The father and **the mother** of Yamada are out.

Prime [praim] **Minister** [首相, 總理大臣]。 **re-e'ect** [rí:ilékt] 再選する。 **United** [ju:náitid] **States** [steits] **of America** [アメリカ合衆國]。 **President** [prézidənt] 大統領。 **a lot of** [澤山の]。 **on duty** [djú:ti] 當番。

(**山田の父母は**不在です)。

(4) **意味の密接に關聯せる名詞を對立して用ひる**場合, 即ち **and, in, from ～ to, by, after** などでつながれて, **句になつてゐる**語句には, 冠詞はつけない。

❶ **Day and night** some of the fire-men are on duty.

(**日夜**幾人かの消防夫がつとめてゐます)。

❷ **Master and servant** love each other.

(**主從**互に愛してゐます)。

❸ Bees hum as they fly **from flower to flower.**

(蜂はぶんぶん**花から花へ**飛ぶ)。

❹ They went back **hand in hand.**

(彼等は**手を引きあつて**歸つて行つた)。

❺ It is becoming colder **day by day.**

(**日に日に**寒くなつてゐます)。

❻ Ito is getting rich **year after year.**

(伊藤は**年々**金持になつて行きます)。

(5) 次の語が, その語本來の意味を表はさないで, 括弧内に附記してあるやうな意味に使はれる時には冠詞は附けない。

school —學校—(**稽古**)。	**church** —教 會—(**禮拜**)。
hospital—病院—(**治療**)。	**prison** —刑務所—(**懲役**)。
market —市場—(**賣買**)。	**bed** —寢 臺—(**睡眠**)。

---

fire-men [fáiəmən] 消防夫。 **hum** [hʌm] ぶんぶん云ふ。 **servant** [sə́:vənt] 召使。 **hand in hand** [手に手を取つて]。 **day by day** [日に日に]。 **year after year** [年々]。

table —卓子—(**食事**)。 **desk** — 机 —(**勉强**)。

❶ I go to **church** every Sunday.
(私は毎日曜教會へ「禮拜」に行く)。

❷ **School** is over. (稽古が濟んだ)。

❸ Is he in **bed**? — No, he is at **table**.
(彼は睡眠中ですか! — いえ, **食事**中です)。

但し語其儘の意味の時には, 冠詞は附けねばならぬ。

❶ **The school** is near **the church**.
(**學校**は**教會堂**の近くにある)。

❷ There is **a desk** in the corner of the room.
(部屋の隅に**机**があります)。

(6) **交通機關**などで, **by** や **on** で始まる句には冠詞は附けない。

by train (汽車で), **by ship** (船で), **by aeroplane** (飛行機で), **by land** (陸路を), **by sea** (海路を), **on foot** (徒歩で), **on horseback** (馬に乘つて), **on bicycle** (自轉車で)。

但し, **in** など, 別の前置詞を使へば **in a ship** (船中にて) の如く, 冠詞は入用である。

(7) 現在を基準として, **next, last** の附く句には冠詞は附けない。

next Saturday (この次の土曜日) **last** Sunday (この前の日曜日)

---

corner [kɔ́:nə] 隅, 角。**horseback** [hɔ́:sbæk] 馬の背。**bicycle** [báisikl] 自轉車。

next week (來週) **last** night (昨夜)。
next month (來月) **last** year (昨年)。

但し**現在以外の時**を基準にする場合には, 定冠詞 **the** を附けねばならぬ。

The last Monday of this month.
(今月の最後の月曜日)。

The next week of that time.
(その時の次の週)。

The last year of Taishō. (大正の最後の年)。

第四章 Adjective 〔形容詞〕

(1) 形容詞 — その位置とその二つの役目

形容詞 (**Adjective**) は名詞又は代名詞を**說明する** (**modify**) 爲に用ひられる語であることは既に述べた。即ち, 例へば(犬), (猫) と云ふだけでは, どんな (犬) や (猫) だか分らないが, (**大きな**犬), (**小さい**猫) と云へばいくらかよく解る譯で, この (大きな), (小さい) などは何れも dog, cat と云ふ名詞を說明する語で, 即ち形容詞なのである。

形容詞の位置に就て 上例の如く形容詞は總て名詞の前に置かれ (大きな犬) a **big** dog, (小さい猫) a **small** cat と云ふ順序になるに限るかといふと, さうではない。

❶ This dog is **big**. (この犬は**大きい**)。

❷ That cat is **small**. (あの猫は**小さい**)。

と云つた風に, 形容詞は又最後に敍述部の一部として置かれるのである。

形容詞の二つの役目 斯んな次第で，形容詞には

❶ 直接説明される名詞の前（時にまた直後）に附く場合と

❷ 動詞の次に敍述部の一部として置かれる場合と 二つの用法があるのである。

② の用法は既に述べた通り，**補(足)語**なのである。This dog is ～. That cat is ～. だけでは何の事だかさつぱり分らない。そこで big なり small なり，不完全自動詞 **is** の補(足)語になる語を入れて完全な文となるのである。(**主語の補(足)語**)。

尤も同じ補(足)語でも，**目的の補(足)語**の方は上述の主語の補(足)語の様に「**動詞＋補語**」形で説明せんとする主語の次に來ないで，次の如く説明せんとする目的語の直接次に來るのである。

❶ I made (メイド) him **happy** (ハツピ). （私は彼を**幸福**にした）。

❷ I believe (ビリーぶ) him **honest** (オニスト). （私は彼を**正直だ**と信ずる）。

上例 **happy**（幸福な），**honest**（正直な）は形容詞で，何れも **him** を説明し，**made, believe** と云ふ**不完全他動詞**の意味を補足して居る**補(足)語**である。

(2) 形容詞の種類

形容詞は其表はす意味に依り分類して，普通の文法では

(A) 性質形容詞 (クウオリふアイイん アヂクテイぶ) **(Qualifying Adjective)**

(B) 數量形容詞 (クウオンテイタテイぶ) **(Quantitative Adjective)**

---

make [～を～せしむ]。 **happy** [hǽpi] 幸福な。 **believe** [bilíːv] 信ずる。 **Pronominal** [prənɔ́minəl, プらノミナル]。 **Adjective** [代名形容詞]。 **Quantitative** [kwɔ́ntitətiv, クウオンティタティぶ] **Adjective** [數量形容詞]。

(C) **代名詞形容詞** (プらノミナル) **(Pronominal Adjective)** の三つとしてゐる。

(3) 性質形容詞

性質形容詞の中には

① **pretty** (プリテイ)（美しき），**good** (グド)（よき），**bad** (バド)（惡しき），**great** (グれイト)（大なる）など云ふ純粹の形容詞の外に

② **固有形容詞**と云つて，固有名詞から轉じた形容詞 **English** (イんグリッシュ)（英國の），**Japanese** (ジャパニーズ)（日本の），**Chinese** (チャイニーズ)（支那の）。

③ **物質形容詞**と云つて，物質名詞から轉じたもの a **gold** (ゴウルド) watch (ウオツチ)（**金(の)**時計），an **iron** (アイアン) bridge (ブリッヂ)（**鐵(の)**橋）。

④ **分詞狀形容詞**と云つて，動詞の分詞の形といふのが形容詞の役目をするもの a **broken** (ブろウカン) pot (ポト)（**壞れた壺**），a **written** (リトン) letter (レタ)（**書いた**手紙），a **rising** (らイズイん) sun (サン)（**旭**日）。

と四つあるわけである。**分詞**のことは，後に動詞の説明中に述べる豫定であるから，こゝでは述べない。

物質形容詞は，通例は物質名詞そのまゝが，修飾せられる(説明せられる)名詞の前に附いて，形容詞の役目をするのであるが，**wood** (ウド)（木），**wool** (ウル)（羊毛），**oak** (オウク)（樫の木），**earth** (アーす)（土）の四語は，形容詞の役目をする時は，そのまゝ使はれないで，その語尾 **'en'** にを附けた形を使つて

a **wooden** (ウドン) (wúdn) house (ハウス) （**木造の家**）

a **woolen** (ウリン) (wúlin) shirt (シャート) （**羊毛製のシャツ**）

Qualifying [kwɔ́lːfaiiŋ, クウオりふァイイん] **Adjective** [性質形容詞]。

an **oaken** (óukən) pole (**樫の**棒)
an **earthen** (ə́:θən) pot (**土燒の**壺)

と云つた風に使はれるのである。また **gold** は（金製の）の意には，そのまゝ使ふが，（**金のやうな色をした**），（**金のやうな貴重な**）など，たとへに使はれる場合には，'**en**' を附けた形を用ひて

a **golden** hair （金のやうな色をした毛髪）
a **golden** age（黄金時代，金のやうな立派な泰平時代）

の如く云ふのである。

固有形容詞の主なるものを次に擧げるが，固有形容詞につき注意すべきことが二三ある，即ちその一は，固有形容詞は，國名から轉じた其儘**國語**を表はすに用ひられる。

名詞	形容詞	國語
Japan	**Japanese**	**Japanese**
France	**French**	**French**
England	**English**	**English**
China	**Chinese**	**Chinese**
Germany	**German**	**German**
Italy	**Italian**	**Italian**
Russia	**Russian**	**Russian**
Asia	**Asiatic** 又は **Asian**	亞細亞語，アメリカ語，アフリカ語，歐羅巴語と云ふ國語はない。
America	**American**	
Africa	**African**	
Europe	**European**	
Christ	**Chiristian**	
Buddha	**Buddhist**	

都會の名，地名などは普通その形のまゝ形容詞にも用ひる。

a **Tokyo** man (**東京**人)
a **London** banker (**ロンドンの**銀行家)
a **Paris** artist (**パリスの**畫家)

次に**國民全體**を云ふ場合には固有形容詞の前に "**the**" を附ける。但し語尾が '**n**' で終れば '**s**' を附けて **the** を附ける。

English is spoken both by **the English** and **the Americans**, French by **the French**, Italian by **the Italians**, and German by **the Germans**.

（英語は**英米人**によつて話され，佛蘭西語は**フランス人**，伊太利語は**伊太利人**，獨逸語は**獨乙人**によつて話されます）。

上例 **the English, the French, the Americans, the Italians, the Germans** は何れもその國民全體を表はすものである。

尙，個人を指す場合單數ならば "**a, an**" を附し，複數ならば複數の變化をしなければならぬ。但し **Chinese, Japanese** は單複とも同形である。

China [tʃáinə, **チ**ャイナ]。 **Chinese** [tʃainíːz, チャイ**ニ**ーズ] 支那の。 **Germany** [dʒə́ːməni, [**ヂ**ャーマニ] 獨逸。 **Cerman** [dʒə́ːmən, **ヂ**ャーマン]。 **Italy** [ítəli, **イ**タリ] 伊太利。 **Italian** [itǽljən, イ**タ**リャン]。 **Asia** [éiʃə, **エ**イシヤ] 亞細亞。 **Asiatic** [eiʃiǽtik, エイシ**ア**ティック]。 **Asian** [éiʃən, **エ**イシャン]。 **Russia** [rʌ́ʃə, **ら**シャ] 露西亞。 **Russian** [rʌ́ʃən, **ら**シャン]。 **Christ** [kraist, クらイスト] キリスト。 **Christian** [krístjən, クリスチャン] キリスト(教)の。 **Buddha** [búdə:, **ブ**ダー] 佛。 **Buddhist** [búdist, **ブ**ディスト] 佛教(徒)の。 **banker** [bǽŋkə] 銀行家。 **artist** [ɑ́:tist] 畫家。

	單數	複數
日本人	a Japanese	**Japanese**
支那人	a Chinese	**Chinese**
英國人	an Englishman	English**men**
佛蘭西人	a Frenchman	French**men**
獨逸人	a German	Germans
亞米利加人	an American	Americans
伊太利人	an Italian	Italians
露西亞人	a Russian	Russians

(4) 數量形容詞

數量形容詞とは(**數**),(**量**),(**度**)を表はす形容詞である。

① (**數**)は區別すると

(數)
- **不定數** —— some, any, no, many, a few 等
- **定　數**
  - 基數 — one, two, three 等
  - 序數 — first, second, third 等
  - 倍數 — double, three times, half 等

數を表はす形容詞は,數のある名詞,卽ち普通名詞か集合名詞のみを修飾して,其他の名詞には使はない事は申すまでもないことである。

② (**量**)を示す語と ③ (**度合**)を示す語とは普通同じ語で,例へば **much**(多量の,非常の),**little**(少量の,僅少の),**some**(若干の),**any**(若干の),**all**(總ての),**no**(～ない)等の如き類。尤もこの中 **some, any, all, no** の四語は(數)を表はすにも使ふのである。

以上述べたことにより數量形容詞のことについて大體お解りになつたことゝ思ひます,では次にその個々につき今少しく詳しく述べて見ませう。

(5) 不定の數及量に就いて

(1) (**Many** と **much**)

many は(不定の數)を表はし,**much** は(不定の量)を表はす,從つて many は複數の普通名詞,複數の集合名詞と共に用ひられ,much は物質名詞又は抽象名詞と共に用ひられる。

❶ **Many persons** work in order that you may have your bread. (普通名詞)

(汝がパンを得るために**多くの人が**働く)。

❷ **Many families** live in this apartment. (集合名詞)

(このアパートには**多くの家族が**住んでゐる)。

❸ Motors cost **much money**. (物質名詞)

(自動車は**大層金が**かゝります)。

❹ Mr. A has **much learning**, but **little experience** of teaching. (抽象名詞)

(A氏は**大層學問**があるが,教へる**經驗は乏しい**)。

(2) (**Few** と **a few**)

兩者何れも**不定の數**を表はし,通常複數普通名詞と共に用ひられるが,**few** の前に '**a**' を附し **a few** と云ふ時は,(**少し**

---

person [pə́:sn] 人。 **in order that ～may** [～するために]。 **apartment** [əpá:tmənt] アパート,貸室。 **cost** [kɔ:st] 費用がかゝる。 **experience** [ikspíəriəns] 經驗。 **teaching** [tí:tʃiŋ] 教へること。

はある）と有る方に重きを置き，**a** のなき時は（**少ししかない**）と無い方に重きを置くのである。但しこれは比較的のことで，幾つまでが **a few** で，幾つまでが **few** であるなどの區別はないのである。

❶ **Few** pupils of this school live in boarding houses.

（本校生徒で下宿屋に居る者は**殆んどない**）。

❷ Please stay with us **a few** days longer.

（今**二三日**私の内に逗留しなさい）。

(3) (**Little と a little**)

これは**不定の量**を表はし，普通物質名詞又は抽象名詞と共に用ひられ，**'a'** のあるとないとの區別は few, a few の場合と同じである。只「數」と「量」との相違のみである。

❶ I have **little** doubt about it.

（私はその事に就て**殆んど**疑を持**たぬ**）。

❷ **A little** knowledge is a dangerous thing.

（生兵法は大傷の本）。

❸ For four years very **little** food had been given to them.

（四年の間極**少しの**食物しか彼等に與へられ**なかつた**）。

①，② は抽象名詞，③ は物質名詞と共に用ひられた例である。

---

boarding [bɔ́:diŋ] **house** [寄宿舍]。 **stay** [stei] 滯在する，逗留する。 **doubt** [daut] 疑ひ。 **knowledge** [nɔ́ridʒ] 知識。 **dangerous** [déindʒərəs] 危險な。

尙ほ **little, a little** は「副詞」として用ひられる場合もある。

❶ Are you tired? Yes, I am **a little** tired.

（疲勞したか。はい，**少し**疲れた）。

❷ I **little** expected that he would come.

（彼が來やうとは思**はなかつた**）。

(6) 數 詞 (Numerals)

數詞は次の三種に分類する。

〔A〕 基 數 (**Cardinal Number**)

〔B〕 序 數 (**Ordinal Number**)

〔C〕 倍 數 (**Multiplicative**)

(A) **基數 one, two, three** 等を基數と云ふ。

これに關して特に注意せねばならぬ事項は

① **twenty-one, thirty-two, forty-three** 等の如く二十以上百までの數（卽ち十臺＋端數）は「**Hyphen** [-] 連字符」を以てつなぐのである。

② **hundred**（百）の次に數のある時は必ず **and** を入れる.

130＝one hundred **and** thirty.

256＝two hundred **and** fifty-six.

---

tired [táiəd] 疲れる。 **expect** [ikspékt] 豫期する，當にする。 **Cardinal Number** [kɑ́:dinl nʌ́mbə, カーディヌル ナムバ] 基數。 **Numerals** [njú:mərəlz, ニゆーマらルズ] 數詞。 **Ordinal** [ɔ́:din', オーディヌル] **Number** [序數]。 **Multiplicative** [mʌ́ltiplikətiv, ムルティプリカティぶ] 倍數。

2,568=two thousand five hundred **and** sixty-eight.

こゝに注意して置きたい事は **hundred, thousand**（千）には，その前に two, three の如き數詞を附しても，two **hundreds,** three **thousands** の如く，**'s'** を附けないで**單數形**，即ち **two hundred, three thousand** の如く用ひるのが常である。

（B） **序數** **first, second, third** 等を序數と云ふ。

こゝに注意すべきは first（第一），second（第二），third（第三），fourth（第四）より以下は大體に於て**基數**に **"th"** を附けて作るのであるが，中に二三異なるものがある。

fifth（第五），**sixth**（第六），**seventh**（第七），**eighth**〔第八），**ninth**（第九），**tenth**（第十），**eleventh**（第十一），**twelfth**（第十二），thirteenth（第十三），fourteenth（第十四），fifteenth（第十五），sixteenth（第十六），seventeenth（第十七），eighieenth（第十八），nineteenth（第十九），**twentieth** [twéntiiθ, 第廿]，twenty-first（第廿一），thirty-second（第卅二）等。

次に序數の略字を擧げるが，こゝに特に注意せねばならぬことは

1st, 2nd, 3rd, 4th, 5th, 6th, 7th, 8th, 9th, 10th, 11th, 12th, 13th, 14th, 15th, 16th, 17th, 18th, 19th, 20th, 21st, 22nd, 23rd. 24th, 25th, ～.

の如く（1）には **'st.'** を附けること，(2) には **'nd.'** (3)

eldest son [éldist SAN] 長男。 **was born** [bo:n] 生れた。

には **'rd.'** をつけ（4）以下は **'th.'** と上例に示せる如く書く事に注意して貰ひたい。**21th, 22th.** などと書いてはいけない。

次に序數には必ず **"the"** を附けねばならぬ。又略字を用ひてあつても讀む時には普通の語と同様に發音するのである。

❶ This is **the first** time I have heard of it.
（それを**始めて**聞いた）。

❷ My eldest son was born in **the second** year of Showa.
（私の長男は昭和**二年**に生れた）。

③ **（分數の表はし方）**

分子には**基數**（one, two, three）を用ひ，**分母**には **序數**（first, second, third）を用ひる。但し分子が **two** 以上の時には分母に **'s'** を附ける。

$\frac{1}{3}$=**one third**; $\frac{2}{3}$=**two thirds.**

$\frac{1}{4}$=**a quarter**; $\frac{3}{4}$=**three quarters.**

$\frac{1}{4}$ は one fourth と云はないで **quarter**（四分の一）と云ふ語を用ひる。

（C） **倍數**

① **half**（半分）は冠詞と共に用ひる時は，冠詞の後に來る事もあり，前に來る事もある。

❶ I took a walk in the park for **half an** hour.
（私は公園で**半時間**散歩しました）。

take a walk [散歩する]。 **sum** [SAM] (金) 額。

❷ He studied English for two years and **a half** in England.

（彼は二ケ年半英國で英語を勉強した）。

其他 half a mile（半哩），**half the** sum（半額），two hours and **a half**（二時間半）。

② **double** は單數，複數何れの名詞にも用ひられ，（**二重**），**倍**）の意味である。

❶ He has **the double** capacity of preacher and teacher.（**二重**）。

（彼は說教師と教師との**二重の**資格がある）。

❷ On Sunday, we have to pay **double the** usual fare.（**二倍**）。

（日曜には**二倍の**賃金を拂はねばならぬ）。

③（**Once, twice, three times・一度，二度，三度**）等。

❶ He writes me **once** a week.

（彼は週に**一度**手紙を異れます）。

❷ Letters are collected **four times** a day in this city.

（當市では手紙は日に**四度**集めます）。

④（**Twice as～as＝二倍の**）（**何々の何倍**）

❶ Your hause is **twice as** large **as** mine.

（君の家は僕の家の**二倍**ある）。

---

capacity [kəpǽsiti] 資格。 **preacher** [pɹíːtʃə] 說教師。 **usual** [júːʒuəl] 平常の。 **fare** [fɛə] 賃金。 **collect** [kə'ékt] 集める。

❷ This is **half as** large **as** that.

（これはあれの**半分の**大きさだ）

❸ They have **three times as** many ships **as** we have.

（彼等は僕等より**三倍の**船を持つてゐる）。

（7） 代名形容詞

これは，使ひ樣によつては，**代名詞**ともなる語で，既に述べた（A）**形容代名詞**の外，（B）**疑問代名詞**，（C）**關係代名詞**も，その次に，それに修飾せられる名詞が附けば，形容詞となるのである。

例へば **which** dictionary だの，**what** dictionary だのと名詞に直接つき（**どの**辭書），（**何の**辭書）の意を表はす語は，疑問代名詞の所有格と見ないで dictionary と云ふ名詞に附屬してそれを說明する形容詞と見るのである。で，斯んな用法をして居る **which** や **what** は代名形容詞である。

また**形容代名詞**の項で述べた **this** や **that** がさうである。これを **This**（**That**）is a dictionary.（**これは**「**それは**」辭書です）の如く文の主語に用ひた場合は，この this や that は代名詞であるが，**This**（**That**）dictionary is very good.（**この**「**あの**」辭書は大變よい）の如く，文の主語たる名詞 dictionary に附屬して（**この**），（**あの**）と dictionary を說明して居るやうに用ひると，this や that は形容詞となるのである。また

❶ **Some** are good.（**或物**はよい）。（代名詞）

❷ **Some dictionaries** are good.

（**或る辭書は**よい）。（代名形容詞）

であるから，代名詞にも形容詞にも何れにも用ひられる語は，其代名詞の役目をして居る時は，**形容代名詞**で，形容詞の役目をして居る時は，**代名形容詞**である。

關係代名詞も其次に名詞が附けば，形容詞となつてしまうのである。

❶〔A〕 **What** is the dictionary?　（疑問代名詞）
（「その」辭書は**何**ですか）。
〔B〕 **What dictionary** is it?　（代名形容詞）
（**何辭引**ですか）。

❷〔A〕 **This** is a dictionary.　（形容代名詞）
（**これは**辭書です）。
〔B〕 **This dictionary** is very good.
（**この辭書は**大變よい）。　（代名形容詞）

❸〔A〕 This is **what** I told you.　（關係代名詞）
（これは私が君に話した**もの**です）。
〔B〕 This is **what dictionary** told you.（代名
（これは**私が君に話した辭書**です）。形容詞）

（8） 形容詞の比較　Comparison〔比較〕

形容詞（と**副詞**ーこれは後章副詞の項で述べる）に特有の變化で，他の品詞には全くない變化が一つある。**比較**（**Comparison**）の變化と云ふのが，即ちこれなのである。

例へば

（この動物は小さい）。
This animal is **small.**

と云ふ文から考へると

comparison [kəmpǽrisn] カムパリスン] 比較。

（この動物はあれ**より小さい**）と云ふには

This animal is **small** than that.

と云へばよいやうに思へるが，さうではない，英語では必ず

This animal is **smaller** than that.

と形容詞の **small** を其儘使はないで，**smaller** の如く語尾に **'er'** を附けた形を使はねばならぬ。また三匹以上ある中で（この動物が**一番小さい**）と云ふ場合には

This animal is **the smallest.**

と，語尾に **'est'** を附けた形を使はねばならぬ。即ち形容詞（副詞もさうだが）には

〔A〕 一つのものだけに就き言ふ時に使ふ形
〔B〕 二つを比較して，（甲）は（乙）よりどうと云ふ事を述べる時に使ふ形
〔C〕 三つまたは三つ以上を比較して，一つが一番どうと云ふ事を述べる時に使ふ形

と，三つの形容詞がある。さうして

〔A〕の形を　**原　級**　（**Positive Degree**）
〔B〕の形を　**比較級**　（**Comparative Degree**）
〔C〕の形を　**最上級**　（**Superlative Degree**）

の形といふのである。

（A） 比較級及び最上級の作り方

（1） 單音節の語及び少數の二音節語は，語尾に **'er'** を附

Positive Degree [pɔ́zətiv digrí:ポザティブ デイグリー] 原級。**Comparative** [kəmpǽrətiv] **Degree** 比較級。**Superlative** [sjupɔ́:lətiv] **Degree** 最上級。

け比較級を作り，‘est’を附け最上級を作る。

	原級	比較級	最上級
單音節	young（若い）	younger	youngest
一〃一	poor（貧乏な）	poorer	poorest
一〃一	high（高い）	higher	highest
二音節	narrow（狹い）	narrower	narrowest

但し原級の語尾‘e’の語は，“er, est”を附けては，‘e’が二字並ぶから，特に‘r, st’のみを附ける。

原級	比較級	最上級
fine（立派な）	finer	finest
large（大きな）	larger	largest
wise（賢き）	wiser	wisest
gentle（やさしい）	gentler	gentlest
noble（貴い）	nobler	noblest
idle（怠惰な）	idler	idlest

(2) 原級の語尾に父音字が一字しかなく、其前の母音字が一字きりで、短く讀む語は、語尾の父音字をもう一字重ねて、“er, est”を附ける。

young [jʌŋ]。 younger [jʌ́ŋgə]。 youngest [jʌ́ŋgist]。
narrow [nǽrou]。 narrower [nǽrouə]。 narrowest [nǽrouist]。
noble [nóubl]。 nobler [nóublə]。 noblest [nóublist]。

原級	比較級	最上級
big（大きな）	bigger	biggest
thin（薄い）	thinner	thinnest
hot（暑い）	hotter	hottest

(3) 原級の語尾‘y’で、其前が父音字の語は、‘y’を‘i’に直して、“er, est”を附ける。

原級	比較級	最上級
heavy（重き）	heavier	heaviest
early（早き）	earlier	earliest
pretty（美しい）	prettier	prettiest
easy（容易な）	easier	easiest
happy（幸福な）	happier	happiest

但し，語尾‘y’でも，其前が母音字の語，例へば，gay（快活な）は，直ぐ“er, est”を附けて，gay, gayer gayest とする。

(4) 形容詞で三音節（發音する母音が三つある語）以上の語（副詞で二音節以上の語）は，總て今述べた“er, est”を附ける規則に依らないで、原級のまゝ其前に“more”と云ふ語を添へるものを比較級，‘most’を添へたものを最上級とするのである。

heavy (er, est) [hévi (ə, ist]。 early (ier, iest) [ə́:li (ə, ist]。
pretty (ier, iest) [príti (ə, ist)]。 easy (ier, iest) [í:zi (ə, ist)]。
happy (ier, iest) [hǽpi (ə, ist)]。

ただし形容詞でも，語尾が "**-ous, -ful, -ent, -ed**" などの接尾語から出來てゐる語は，特に二音節でも，**more, most** を添へたものを，比較級最上級の形とするのである。

であるから，上記の '**er, est**' を添へるものは、形容詞では一音節（單音節）の場合と，二音節の語の中，(**ous, ful, ent, ed**) 等の接尾語なしで出來てゐる語だけで（副詞では單音節に限る)，それ以外の語は，總て **more, most** を添へるのだと覺えて置いて差支ないと思ふ。

原　級	比較級	最上級
ゆースふル **use-ful**（有用な）	モー **more** useful	モウスト **most** useful
ふエイマス **fa-mous**（有名な）	**more** famous	**most** famous
イムポータント **im-por-tant**（重要な）	**more** important	**most** important
びゅーテイふル **beau-ti-ful**（美しい）	**more** beautiful	**most** beautiful

(5) 形容詞（や副詞の中）には、上記の '**er, est**' を附けるのでもなく、また "**more, most**" を添へるのでもなく、別の形を比較級、最上級の形とする語が若干ある。

---

useful [jú:sful]。 **famous** [féiməs]。 **important** [impɔ́:tənt]。 **beautiful** [bjú:təful]。

原　級	比較級	最上級
グド **good**（よ　き） ウエル **well**（達者な）	ベタ **better**	ベスト **best**
バド **bad**（惡　き） イル **ill**（病氣の）	ワース **worse**	ワースト **worst**
マツチ **much**（多量の） メニ **many**（多數の）	モー **more**	モウスト **most**
リトル **little**（少量の）	レス **less**	リースト **least**
オウルド **old**（年老いた）	オウルダ **older** エルダ **elder**	オウルデイスト **oldest** エルデイスト **eldest**
レイト **late**（遲　い）	レイタ **later** ラタ **latter**	レイテイスト **latest** ラースト **last**
ふアー **far**（遠方の）	ふアーずア **farther** ふアーずア **further**	ふアーずイスト **farthest** ふアーずイスト **furthest**

(B) **比較級の用法**

❶ Yoshida is **more timid than** I am.
（吉田は私**よりも臆病**である)。

❷ Dogs are **more faithful animals than** cats.
（犬は猫**よりも忠實な動物**である)。

❸ Japan is **a smaller country than** China.

---

worse [wə:st]。 **worst** [wə:st]。 **later** [léitə]。 **latest** [léitist]。 **latter** [lǽtə]。 **last** [lɑ:st]。 **farther** [fɑ́:ðə]。 **farthest** [fɑ́:ðist]。 **further** [fə́:ðə]。 **furthest** [fə́:ðist]。 **timid** [tímid] 臆病な。 **faithful** [féiθful] 忠實な。 **country** [kʌ́ntri] 國。

（日本は支那**より小さい國**である）。

上例は何れも（**二物**）を比較する場合であるが，① には比較級の後に名詞がないが，②，③ にはその後に名詞がある。この場合注意せねばならぬ事は，② の比較級の後の名詞が複數であるから. **more** の前に冠詞を附けないが，③ の **country** は單數名詞だから，その前に **'a'** を附けて，**a** smaller **country** と云はねばならぬことである。而して以上三つの場合とも比較級の後には **than** が來るのが普通である。

比較 { Japan is **a smaller country than** China.
Japan is **smaller than** China. }

上例は何れを用ひてもよい。同意である。

❶ Which is (the) larger (ラーヂャ), China or Japan?
（支那と日本と、**どちらが大きいか**）。

斯んな風に，（A と B と，どちらがどうか）と問ふには，いつでも

Which is (the) 比較級, A or B?

と云ふので，比較級の前に，**the** はあつても，なくても，どちらでもよい。これに對する答は

❷ (A) China is **larger than** Japan.
(B) China is **a larger country than** Japan.
(C) China is **the larger of the two.**

(A) 支那は日本より大きい。
(B) 支那は日本より大きい國である。
(C) 支那は二つの中では大きい。

と何れの形を用ひてもよいが、① の比較級には "the" を附けてはならぬこと、③ の如く比較級の次に **of the two** と云

ふ句が附く時は **'the'** が入用であることに注意して下さい。

① （彼は私より**二つ**年上だ）。

斯んな風に（年が**二つ**上だ）とか，（**一寸**脊が高い）とか，（**一週間**後れた）とか云ふには，二つの云ひ方がある。今本文を英語に譯して見ませう。

(A) He is **older** than I **by two years.**
(B) He is **two years older** than I.

即ち（**いくら**どう）と云ふ（**いくら**）に當る句を最後に廻はすと **by two years** の如く **"by"** が必要であるが，文の中に挿むと **by** は要らない。この云ひ方が往々間違ふので特に注意が肝要である。

② （兄は君より**一寸**脊が高い）。

(A) My elder (エルダ) brother (ブらずア) is **one sun** (スン) **taller** (トーラ) than you.
(B) My elder brother is **taller** than you **by one sun.**

③ （櫻花は例年より**一週間**遲れた）。

(A) The cherry-blossoms (チエリ ブロサムズ) were **a week** (ウワー) **later** (レイタ) than usual (ゆージゆアル).
(B) The cherry-blossoms were **later** than usual **by a week.**

注意 ① の **than I** を than **me** と書いてはいけない，これは **than I am** の **am** が省略された形だから。

---

elder brother [éldə bráðə] 兄。**cherry-blossoms** [tʃériblɔsəmz] 櫻花。

(C) Superior, inferior 等の用法

以上述べた比較の外に，**ラテン比較級**(**Latin Comparative**)と云ふのがある。それは‘**er**’も‘**est**’も添へないで，語そのものが比較の意味を有してゐる語を用ひて表はすのである。次の語は最も普通なものである。**superior**（優），**inferior**（劣），**prior**（前），**posterior**（後）。

これ等の語を用ひて二つのものを比較する場合には，(比較級+than) の形でなく，(**比較級+to**) の形を用ひるのである。

① 僕の机は君の**より上等だ**。

My desk is **superior to** yours.

=My desk is **better than** yours.

② これはあれ**より劣つてゐる**。

This is **inferior to** that.

=This is **worse than** that.

③ この事件は昭和五年**以後のことです**。

This event is **posterior to** the fifth year of Showa.

=This event is **later than** the fifth year of Showa.

(D) 同程度を表はす場合

(甲)と(乙)とを比較して，(甲は乙と**同じに**どう) といつた風の (**同程度**) を表はす比較のしかたがある。それは

---

superior [sjupíəriə] 優。**inferior** [infíəriə] 劣。**prior** [práiə] 前。**posterior** [pɔstíəriə] 後。**Latin Comparative** [lǽtin kəmpǽrətiv] ラテン比較級。**event** [ivént] 出來事。

❶ I am **as tall as** he (is).

(私は彼と**同じほど**背の高さです)。

といつた風に，二つの **as** の間に，原級の形容詞（又は副詞）をはさむのである。否定の場合は

❷ I am **not so** tall **as** he (is).

といつた風に，前の **as** の代りに‘**so**’を使つて，**not so～as** とするのである。そして **as～as** でも，**not so～as** でも，間にはさまる（～）は，必ず原級であることに注意して下さい。

(E) 最上級の用法

最上級の形容詞には必ず「定冠詞の **the**」を附ける，(一番何う) と云ふのは一つしかないのにきまつてゐるから。(但し，副詞の最上級には **the** を附けても，附けなくともよい)。

❶ He is **the tallest** of us all.

(彼は私等皆の中で**一番背が高い**)。

❷ He is **the tallest** among us three.

(彼は私等三人の中で**一番背が高い**)。

(～の中) の意を表はすには“**of, among**”どちらを使つてもよい。

次に，三つ以上ある中，「どれが一番どうか」と云ふには，

Which is the 最上級, A, B, or C?

と云つた風にする。

❸ **Which** is **the tallest**, you, he, or I?

(君と，彼男と，私と，**だれが一番背が高いか**)。

尙最上級の前に **one of** の來ることがある。

❶ China is **one of the oldest and largest countries.**

（支那は**最も古くて最も大きな國の一つである**）。

❷ He is **one of the greatest men** England has ever produced.

（彼は曾て英國から出た**最も偉大なる人物の一人である**）。

又 **one of** の代りに **among** を用ひることもある。

❸ He is **among the most diligent boys** in his class.

（彼はあの組では**一番勉强家の方だ**）。

特に最上級に就き注意すべき點がある，これは最上級にはその前に「**even**（～**すら**）」の意を附けて解する場合がある。

❶ **The slightest** sound would frighten us.

（=**Even the slightest sound** ～）

（**ほんのかすかな音でさへ**私共を驚かすでせう）。

❷ **The smallest** mistake would make him unhappy.

（=**Even the smallest mistake** ～）

（**ほんの僅かな間違ですら**彼を不幸にするでせう）。

（F） 比較級を用ひて最上級の意味を表はす場合

① 薔薇は總ての花の中で**一番美しい**。

---

produce [prədjú:s] 產する。 **slightest** [sláitist] 最もかすかな。 **sound** [saund] 音。 **frighten** [fráitn] 驚かす。 **mistake** [mistéik] 間違ひ。 **unhappy** [ʌnhǽpi] 不幸な。

（A） A rose is **the prettiest of all flowers.**
（最上級）

（B） A rose is **prettier than any other flower.**
（比較級）

② 山田君は僕等の中で**一番勉强家だ**。

（A） Mr. Yamada is **the most diligent of us all.**
（最上級）

（B） Mr. Yamada is **more diligent than any of us.**（比較級）

③ 冬は四季の中で**一番寒い月だ**。

（A） Winter is **the coldest of the four seasons.**
（最上級）

（B） Winter is colder **than any other season.**
（比較級）

上例は何れも比較級を用ひて最上級の意味を表はす例であるが，**than** の次に（**any other**＋**單數名詞**）の形を置くことを忘れてはならぬ。**any other**（どの外の）とあるから，複數名詞を伴ふやうに思へるが，必ず單數名詞を伴ふのである。

（G） No＋比較級＝最上級

これは比較級に打消しの語 **no, nothing** の如き語を添へて最上級の意を表はす場合である。

Nothing is more interesting than this.

=This is **the most interesting.**

（これ**程興味のあることはない**）。

尙參考のため次に一二例を擧げて置く。

---

season [sí:zn] 季節。 **interesting** [íntərestiŋ] 興味のある。 **nothing** [nʌ́θiŋ] 何も～ない。

❶ Nothing is more precious than time.

(時間程貴重なものはない)。

❷ No boys are more fortunate than those that have good health.

(健康である子供等程幸福なものはない)。

those は **boys** の代名詞。

(H) **比較級及び最上級に關し注意すべき語句**

(1) 〔**Elder, eldest; older, oldest**〕

old (老いたる, 古き) と云ふ形容詞は, 規則通りに, **older**, **oldest** とも變化し, また **elder**, **eldest** と云ふ不規則の變化をするのである, ただしどちらを何處に使つてもよいと云ふのではなく

elder brother	(兄)	**eldest** brother	(長男)
elder sister	(姉)	**eldest** sister	(長女)

といつた風に, **brother, sister, son, daughter** に就いて **younger brother** (**sister** 弟妹), **youngest** son (daughter 一番末の息子, 一番末の息女) の反對を示す場合にだけ, **elder**, **eldest** を使ひ, その他にはいつでも **older, oldest** の方を使ふことになつてゐるのである。

❶ My **elder** brother is **older** than your **elder** sister by three years.

(僕の**兄**は君の**姉さん**より三つ**年が上**です)。

❷ My **eldest** son went to England last year.

---

precious [préʃəs] 貴重な。 **fortunate** [fɔ́:tʃnit] 幸運な, 幸福な。 **sister** [sístə]。 **daughter** [dɔ́:tə]。 **son** [sʌn]。

(**長男**は昨年英國へ行きました)。

(2) 〔**No more ～ than; not any more than**〕

❶ The whale is **no more** a fish **than** a horse.

(鯨が魚**でないのは**馬が魚**でないのと同じだ**)。

❷ Work is **not the object of life any more than** play is the object of life.

(働くことが人生の目的**でないことは**, 丁度遊ぶことが人生の目的**でないのと同じことだ**)。

この形式は

① A is **no more** B **than** C is D.

② A is **not** B **any more than** C is D.

で, **than** 以下の事柄が不可なる如く, 上の事も不可なることを示すに用ひるもので, **than** よりも前に書いてあることを述べたいのが, その主眼であることに注意せねばならぬ。

第五章 Verbs 〔動詞〕

動詞は大別して, 自動詞と他動詞の二つとする。更に敍述の完全, 不完全により各々を, 完全動詞, 不完全動詞に分ける, 即ち**自動詞**—(完全自動詞 — 不完全自動詞), **他動詞** —(完全他動詞 — 二重目的を必要とする他動詞 — 不完全他動詞) と, 五種の動詞があることは (二十一頁) 自動詞と他動詞の項で詳細にわたつて述べたので, 諸君は既に御承知の事と思ふからして, 此

---

whale [weil] 鯨。 **work** [wə:k] 仕事, 働く事。 **object** [ɔ́bdʒikt] 目的。 **life** [laif] 人生。

れが説明は此所では省きます，分らぬ方は又元に返つて（**自動詞と他動詞**）の項を見て下さい。

（1）特に注意すべき自動詞と他動詞

(1) 同一の動詞も用ひ方によつては自動詞になることもあれば，又他動詞になることもある。

自動詞	他動詞
① A kite **flies.**（カイト ふライズ） （凧が**あがる**）。	I **fly**（ふライ） a kite. （私は凧を**あげる**）。
② The dog cannot **speak.**（スピーク） （犬は**話す**ことが出來ぬ）。	He can **speak** English. （彼は英語を**話す**ことが出來る）。
③ He **writes**（らイツ） very well. （彼は大變よく**書く**）。	I **wrote**（ろウト） him a letter（レタ）. （私は彼に手紙を**書いた**）。
④ The cat can **see**（スイー） in the dark（ダーク）. （猫は闇やみで**眼が見える**）。	I **see** a cloud（クラウド） in the sky（スカイ）. （私は空に雲を**見る**）。
⑤ The bell（ベル） **is ringing**（りんぎん）. （ベルが**鳴つてゐる**）。	**Ring**（りん） the bell, please（プリーズ）. （どうぞベルを**鳴らして下さい**）。

（2）動詞の活用

總ての動詞には，次の五つの形があつて，それぞれの形に動詞の變ることを**活用**（**Conjugation**（コンヂゆゲイシヤン））と云ふのである。

Conjugation [kɔndʒugéiʃən] 活用。

❶ 原　形　（**Root**（るート） **Form**（ふオーム））
❷ 現在形　（**Present**（プれゼント） **Form**）
❸ 過去形　（**Past**（パースト） **Form**）
❹ 現在分詞形　（**Present**（プれゼント） **Participle**（パーテイスイプル））
❺ 過去分詞形　（**Past**（パースト） **Participle**）

次に，二三の動詞に就き，この五つのを形示して見ませう。

	行く	來る	話す	眠る
①原　形	go（ゴウ）	come（カム）	speak（スピーク）	sleep（スリープ）
②現在形	go(es)（ゴウズ）	come(s)（カムズ）	speak(s)（スピークス）	sleep(s)（スリープス）
③過去形	went（ウエント）	came（ケイム）	spoke（スポウク）	slept（スレプト）
④現在分詞形	going（ゴウイん）	coming（カミん）	speaking（スピーキん）	sleeping（スリーピん）
⑤過去分詞形	gone（ゴン）	come	spoken（スポウカン）	slept

① **原形**は，（もとの形）で，他の形の根源となるものである。これに **to** を附けた **to go, to come, to speak, to sleep** のやうなものを**不定形**（または不定詞）と云ひ，これは後章で説明する豫定である。

② **現在形**は，原形と同形であるが，次の項で述べてある如く，第三人稱單數の主語に伴ふ時には，語尾に **'s'** 又は **"es"** を附け，**goes, comes, speaks,** の樣な形になる。

③ **過去形**は，原形の語尾に **'ed'** 又は **"d"** を附けた形をそれとする動詞，**looked, loved** の樣なのと，全く別の形を

Root From [ruːt fɔːm] 現在形。 **Past** [pɑːst] **Form** [過去形]。 **Present** [préznt] **Form** [現在形]。 **Past Participle** [pɑ́ːtisip] 過去分詞。 **Present Participle** [現在分詞]。

それとする動詞, **went, came, spoke, slept** の様なのと, 二種ある。

④ **現在分詞形**は, 總ての動詞を通じて, 皆原形の語尾に "**ing**" を附けた形で, 過去形の如く, 二種の別はない。

⑤ **過去分詞形**は, 過去形と同じに二種ある。① 過去形と全く同じに, 原形の語尾に '**d**' 又は "**ed**" を附けた形と, ② 原形の形と全く別の形であるが, 其中には sleep, **slept, spept** の様に, 過去形と同じのものもあり, go, **went, gone** の様に, 他の形と全く別な形もある。

つまり**原形**と**現在形**とは, 名こそ違ふが, 形は全く同じもの (現在形には其語尾に '**s**' 又は "**es**" が附く時はあるが) である。さうして語尾に '**ing**' の附いた形が現在分詞なのである。

(3) 規則動詞と不規則動詞

過去と過去分詞とは, 動詞に依り, その形が一定しないのである。

(A) 大部分の動詞は, 原形の語尾に '**d**' 又は '**ed**' を附けた形を, 過去形とも, 過去分詞形ともするのである。だから, 此種の動詞は, 過去形, 過去分詞形と, 名は二つに分れてゐるが, その形はいづれも同じなのである。

(B) 今上に述べた (A) の形と異り, 或は全く別の形を, 或はまた原形其まゝを, 過去形や過去分詞形とする動詞, これは其數は比較的少いが, 日常使ふ動詞には, 却つて此分に屬する動詞が多いのである。

文法では, (A) の様な動詞を**規則動詞** (**Regular Verb**),

Regular Verb [régjulə vəːb] 規則動詞。

(B) の様な動詞を**不規則動詞** (**Irregular Verb**) と云つて區別してゐる。

〔A〕 規則動詞の作り方

(1) 單に '**ed**' を附けるもの

ルツク **look**	ルツクト **looked**	**looked**	ルキン **looking**
コール **call**	コールド **called**	**called**	コーリン **calling**
ジャムプ **jump**	ジャムプト **jumped**	**jumped**	ジャムピン **jumping**
ウオッシュ **wash**	ウオシュト **washed**	**washed**	ウオシン **washing**

(2) 語尾 '**e**' の語は, '**e**' を削つて **ing** や **ed** を附ける。だから **ed** を附けるのだが, 結局 '**d**' だけを附けると言つてもよい事になる。

ライク **like**	ライクト **liked**	**liked**	ライキン **liking**
ホウプ **hope**	ホウプト **hoped**	**hoped**	ホウピン **hoping**
ラブ **love**	ラブド **loved**	**loved**	ラブイン **loving**
ゆーズ **use**	ゆーズド **used**	**used**	ゆーズイン **using**
ダイ **die①**	タイド **died**	**died**	ダイイン **dying**
アグリー **agree②**	アグリード **agreed**	**agreed**	アグリーイン **agreeing**

① **die** の現在分詞は **diing** としないで, **i** を **y** にかへて **ing** を附ける。② agree のやうな語尾 **ee** の語は ed は d だけを附けるが, **ing** は e を削らないで, 其儘附ける。

Irregular [irégjulə] **Verb** [不規則動詞]。 **look** [luk] 見る。 **call** [kɔːl] 呼ぶ。 **jump** [dʒʌmp] 跳ぶ。 **wash** [wɔʃ] 洗ふ。 **like** [laik] 好む。 **hope** [houp] 望む。 **love** [lʌv] 愛する。 **use** [juːz] 用ひる。 **die** [dai] 死ぬ。 **agree** [əgríː] 一致す。

(3) 語尾に父音字が一字で，其前の母音字も一字で，それが短く讀む（短母音）場合には，語尾の父音字を，もう一字餘計に附けてから，**ing** や **ed** を附ける。

ストツプ **stop**	ストツプト stop**ped**	stop**ped**	ストツピん stop**ping**
ベグ **beg**	ベグド beg**ged**	beg**ged**	ベギん beg**ging**
ドろツプ **drop**	ドろツプト drop**ped**	drop**ped**	ドろツピん drop**ping**
ノツド **nod**	ノデイツド nod**ded**	nod**ded**	ノデイん nod**ding**

ただし二綴以上の語〔二音節の語〕で，今述べた條件を具備し，且つ最後の音節に**强勢**（**Accent** アクセント）〕のあるものは，最後の父音字を重ねて‘**ed**,’‘**ing**’を附ける。

オミツト **omit**	オミテイツド omit**ted**	omit**ted**	オミテイん omit**ting**
アドミツト **admit**	アドミテイツド admit**ted**	admit**ted**	アドミテイん admit**ting**
プリふアー **prefer**	プリふアード prefer**red**	prefer**red**	プリふアーりん prefer**ring**

(4) 語尾‘**y**’で其前が父音字の語は，**y** を‘**i**’に改めてから‘**ed**’を附ける。ただし‘**ing**’を附ける場合には，その必要はない。**y** のまゝ直ぐ附けるのである。

スタデイ **study**	スタデイド stu**died**	stu**died**	スタデイイん stu**dying**
トらイ **try**	トらイド tr**ied**	tr**ied**	トらイイん tr**ying**
キヤリ **carry**	キヤリド carr**ied**	carr**ied**	キヤリイん carr**ying**
クらイ **cry**	クらイド cr**ied**	cr**ied**	クらイイん cr**ying**

stop [stɔp] 止る。 **beg** [beg] 乞ふ。 **drop** [drɔp] 落す。 **nod** [nɔd] 頷く。 **omit** [omít] 省略する。 **admit** [ədmít] 入れる。 **prefer** [prifə́:] 好む。 **study** [stʌ́di] 勉强する。 **try** [trai] 試みる。 **carry** [kǽri] 運ぶ。 **cry** [krai] 叫ぶ。 **play** [plei] 遊ぶ。 **stay** [stei] 止まる。

語尾 **y** でも，前が母音の語は，**y** のまゝ‘**ed**’を附ける。

プレイ **play**	プレイド play**ed**	play**ed**	プレイイん play**ing**
ステイ **stay**	ステイド stay**ed**	stay**ed**	ステイイん stay**ing**

(B) 不規則動詞

(1) 過去と過去分詞の同じもの。

(A)	レイ **lay**	**laid**	[leid]	レイド laid
	ペイ pay	**paid**	[peid]	ペイド paid
	セイ say	**said**	[sed]	セッド said
	ヒア hear	**heard**	[hə:d]	ハード heard
	ふリー flee	**fled**	[fled]	ふレッド fled
	セル sell	**sold**	[sould]	ソウルド sold
	テル tell	**told**	[tould]	トウルド told
	ハぶ have	**had**	[hæd]	ハッド had
	メイク make	**made**	[meid]	メイド made
(B)	バーン **burn**	**burnt**	[bə:nt]	バーント burnt
	デイール deal	**dealt**	[delt]	デルト dealt
	リーブ leap	**leapt**	[lept]	レプト leapt
	ミーン mean	**meant**	[ment]	メント meant
	スメル smell	**smelt**	[smelt]	スメルト smelt

lay [lei] 横へる。 **pay** [pei] 拂ふ。 **say** [sei] 言ふ。 **hear** [hiə] 聞く。 **flee** [fli:] 逃げる。 **sell** [sel] 賣る。 **tell** [tel] 告げる。 **have** [hæv] 持つ。 **make** [meik] 作る。 **burn** [bə:n] 燃える。 **deal** [di:l] 扱ふ。 **leap** [li:p] 跳ぶ。 **mean** [mi:n] 意味する。 **smell** [smel] 香ふ。

	スペル spell	**spelt**	[spelt]	スペルト spelt
	レンド lend	**lent**	[lent]	レント lent
	センド send	**sent**	[sent]	セント sent
	スペンド spend	**spent**	[spent]	スペント spent
	ビルド build	**built**	[bilt]	ビルト built
	ルーズ lose	**lost**	[lɔ:st]	ロースト lost
	リーブ leave	**left**	[left]	レフト **left**
	キープ keep	**kept**	[kept]	ケプト kept
	スリープ sleep	**slept**	[slept]	スレプト slept
	スウイープ sweep	**swept**	[swept]	スウエプト swept
	ウイープ weep	**wept**	[wept]	ウエプト wept
	フイール feel	**felt**	[felt]	フエルト felt
(C)	キャツチ **catch**	**caught**	[kɔ:t]	コート caught
	ティーチ teach	**taught**	[tɔ:t]	トート taught
	バイ buy	**bought**	[bɔ:t]	ボート bought
	ブリン bring	**brought**	[brɔ:t]	ブろート brought
	ふアイト fight	**fought**	[fɔ:t]	ふオート fought
	すインク think	**thought**	[θɔ:t]	すオート thought

spell [spel] 綴る。 **lend** [lend] 貸す。 **send** [send] 送る。
spend [spend] 費す。 **build** [bild] 建つ。 **lose** [lu:z] 失ふ。
leave [li:v] 殘す, 去る。 **keep** [ki:p] 保つ。 **sleep** [sli:p] 眠る。
sweep [swi:p] 掃く。 **weep** [wi:p] 泣く。 **feel** [fi:l] 感ずる。
catch [kætʃ] 捕へる。 **buy** [bai] 買ふ。 **teach** [ti:tʃ] 教へる。
bring [briŋ] 齎らす。 **fight** [fait] 戰ふ。 **think** [θiŋk] 思ふ。

(D)	フイード **feed**	**fed**	[fed]	ふエッド fed
	リード lead	**led**	[led]	レッド led
	りード read	**read**	[red]	れッド read
	ミート meet	**met**	[met]	メット met
	ホウルド hold	**held**	[held]	ヘルド held
	スイット sit	**sat**	[sæt]	サット sat
	ゲット get	**got**	[gɔt]	ゴット got
	シュート shoot	**shot**	[ʃɔt]	ショット shot
	ウイン win	**won**	[wʌn]	ワン won
	シヤイン shine	**shone**	[ʃɔn]	ション shone
	デイグ dig	**dug**	[dʌg]	ダグ dug
	ストらイク strike	**struck**	[strʌk]	ストらック struck
	スタンド stand	**stood**	[stud]	ストウッド stood
	アンダスタンド understand	**understood**	[ʌndəstúd]	アンダストウッド understood
	スウイん swing	**swung**	[swʌŋ]	スワん swung
	バインド bind	**bound**	[baund]	バウンド bound
	ふアインド find	**found**	[faund]	ふアウンド found
	グらインド grind	**ground**	[graund]	グらウンド ground

feed [fi:d] 養ふ。 **lead** [li:d] 導く。 **read** [ri:d] 讀む。 **meet** [mi:t] 會ふ。 **hold** [hould] 保つ。 **sit** [sit] 坐る。 **get** [gɛt] 得る。 **shoot** [ʃu:t] 射る。 **win** [win] 勝つ。 **shine** [ʃain] 輝く。 **dig** [dig] 掘る。 **strike** [straik] 打つ。 **stand** [stænd] 立つ。 **understand** [ʌndəstǽnd] 理解する。 **swing** [swiŋ] 搖る。 **bind** [baind] 縛る。 **find** [faind] 見出す。 **grind** [graind] 搗く。

wind	**wound**	[waund]	wound

(2) 原形と過去分詞と同じもの。

run	**ran**	[ræn]	run
come	**came**	[keim]	come
become	**became**	[bikéim]	become

(3) 原形と過去と過去分詞と，三つが別の形の語。

(A)	**begin**	(始める)	**began**	**begun**
	drink	(飲 む)	**drank**	**drunk**
	shrink	(縮 む)	**shrank**	**shrunk**
	sink	(沈 む)	**sank**	**sunk**
	ring	(鳴 る)	**rang**	**rung**
	sing	(歌 ふ)	**sang**	**sung**
	swim	(泳 ぐ)	**swam**	**swum**
(B)	**break**	(破 る)	**broke**	**broken**
	speak	(話 す)	**spoke**	**spoken**
	choose	(選 ぶ)	**chose**	**chosen**
	steal	(盗 む)	**stole**	**stolen**

wind [waind] 巻く。 **run** [rʌn] 走る。 **come** [kʌm] 來る。 **become** [bikʌ́m] 成る。 **begin** [bigín, bigén, bigʌ́n]。 **drink** [driŋk, dræŋk, drʌŋk]。 **shrink** [ʃ iŋk, ʃ:ræŋk, ʃ:rʌŋk]。 **sink** [siŋk, sæŋk, sʌŋk]。 **ring** [riŋ, ræŋ, rʌŋ]。 **sing** [siŋ, sæŋ, sʌŋ]。 **swim** [swim, swæm, swʌm]。 **break** [breik, brouk, bróukən]。 **speak** [spi:k, spouk, spóukən]。 **choose** [tʃu:z, tʃouz, tʃóuzn]。 **steal** [sti:l, stoul, stóuln]。

	bite	(噛 む)	**bit**	**bitten**
	hide	(隠 す)	**hid**	**hidden**
	forget	(忘れる)	**forgot**	**forgotten**
	bear	(産 む) (運 ぶ)	**bore**	**born** **borne**
	wear	(着 る)	**wore**	**worn**
	lie	(横はる)	**lay**	**lain**
	fly	(飛 ぶ)	**flew**	**flown**
(C)	**blow**	(吹 く)	**blew**	**blown**
	grow	(助長する)	**grew**	**grown.**
	know	(知 る)	**knew**	**known**
	throw	(投げる)	**threw**	**thrown**
	take	(取 る)	**took**	**taken**
	mistake	(誤 る)	**mistook**	**mistaken**
	rise	(起 る)	**rose**	**risen**
	drive	(追 ふ)	**drove**	**driven**
	ride	(乘 る)	**rode**	**ridden**
	write	(書 く)	**wrote**	**written**

bite [bait, bit, bítn]。 **hide** [haid, hid, hídn]。 **forget** [fəgét, fəgɔ́tn]。 **bear** [bəə, bɔ:, bɔ:n]。 **wear** [wəə, wɔ:, wɔ:n]。 **lie** [lai, lei, lein]。 **fly** [flai, flu:, floun]。 **blow** [blou, blu:, bloun]。 **grow** [grou, gru:, groun]。 **know** [nou, nju:, noun]。 **throw** [θrou, θru:, θroun]。 **take** [teik, t k, téikən]。 **mistake** [mistéik, mistéikən]。 **rise** [raiz, rouz, rízn]。 **drive** [draiv, drouv, drívn]。 **ride** [raid, roud, rídn]。 **write** [rait, rout, rítn]。

	go (ゴウ)	(行く)	went (ウエント)	gone (ゴン)
	do (ドウー)	(爲す)	did (ディッド)	done (ダン)
	draw (ドろー)	(引く)	drew (どるー)	drawn (どろーン)
	fall (ふオール)	(落ちる)	fell (ふエル)	fallen (ふオールン)
	give (ギぶ)	(與へる)	gave (ゲイぶ)	given (ギぶン)
	see (スイー)	(見る)	saw (ソー)	seen (スイーン)
	eat (イート)	(食ふ)	ate (エット)	eaten (イートン)
	bid (ビド)	(命ずる)	bade (バッド)	bidden (ビドン)
(D)	show (ショウ)	(示す)	showed (ショウド)	shown (ショウン)
	sow (ソー)	(鋸で挽く)	sowed (ソード)	sown (ソウン)
	beat (ビート)	(打つ)	beat	beaten (ビートン)
	be (ビー)	(ある)	was (ウワズ) / were (ウワー)	been (ビーン)

(4) 原形, 過去形, 過去分詞の三つながら同形のもの。

cost	[kɔ:st 價する]	cost (コースト)	cost
cut	[kʌt 切る]	cut (カット)	cut
hit	[hit 打つ]	hit (ヒット)	hit
hurt	[hə:t 害する]	hurt (ハート)	hurt
let	[let 許す]	let (レット)	let

go [gou, went, gɔn]。 **do** [du:, did, dʌn]。 **draw** [drɔ:, dru:, drɔ:n]。 **fall** [fɔ:l, fel, fɔ́:ln]。 **give** [giv, geiv, gívn]。 **see** [si:, sɔ:, si:n]。 **eat** [i:t, et, í:tn]。 **bid** [bid, bæd, bídn]。 **show** [ʃou, ʃoud, ʃoun]。

put	[put 置く]	put (プット)	put
set	[set 据る]	set (セット)	set
shut	[ʃʌt 閉ぢる]	shut (シャット)	shut

(4) 數及び人稱に就いて

第三人稱單數の代名詞が主語の時は, これに伴ふ動詞の**現在形**は, 必ず其語尾に '**s**' 又は '**es**' を附けた形を使はねばならぬ。これを動詞の (**數及び人稱**) の變化と云ふ。

I **do.** You **do.** He (She, It) **does.**
We **do.** You **do.** They **do.**

ただし, これは**現在形**の場合だけである。現在形以外の動詞は, 主語が何であらうが, 一切同じ形を用ひる。

I **did.** You **did.** He (She, It) **did.**
We **did.** You **did.** They **did.**

Be 動詞は, 其現在形は **is** と **am** と **are** と三つあり, 過去形は **was** と **were** と二つあるのである。さうして, 主語により, それぞれ使ふ形が違ふのである。現在形は

I **am.** You **are.** He (She, It) **is.**
We **are.** You **are.** They **are.**

過去形は

I **was.** You **were.** He (She, It) **was.**
We **were.** You **were.** They **were.**

Have 動詞は, 第三人稱單數の主語には **has** を使つて

I **have.** You **have.** He (She, It) **has.**
We **have.** You **have.** They **have.**

となる。過去形は一切 **had** で

I **had.**	You **had.**	He (She, It) **had.**
We **had.**	You **had.**	They **had.**

名詞は通例第三人稱に使はれるのであるから，その單數が主語の時には，それに伴ふ現在形の動詞は語尾に‘**s**’か‘**es**’の附いた形（Be 動詞は **is,** Have 動詞は **has**）を使はねばならぬ。複數なら勿論‘**s**’も‘**es**’も附けない形（be 動詞は **are,** have 動詞は **have**）を使ふのである。

The dog **runs.**	The boy **is.**
Kate **has.**	The dogs **run.**
The boys **are.**	Kate and Mary **have.**

最後の例の如く，二つまたは二つ以上の單數名詞が，**and** などでつながれて，その全部が主語となつてゐる時には，それで複數の意になるから，動詞は複數形を用ひねばならぬ。ただし **or**（または）のやうなつなぎことばでつながれてゐる時は，（どちらか一方）の意で，單數だから，これに伴ふ動詞は勿論語尾に‘**s**’か‘**es**’の附いた形又は（**is, has**）を使はねばならぬ。

❶ **Both** Japan (ポウス ジャパン) and China (チャイナ) **are** in the East (イースト).

（**日本も支那も兩方ながら**東洋にある）。

❷ He **and** I **are** great (グレイト) friends (フレンヅ).

（**彼と私とは**親友です）。

❸ **Either** James (ヂエイムス) **or** John (ヂョン) **is** there.

（ヂエイムス**かヂョンかどちらか一人が**其處にゐる）

either ～ or は（～か～かどちらか一人）で單數だから **is.**

❹ **Neither** (ナイヂア) you **nor** (ノー) I **am** to go.

（君**も**僕**もどちらも**行かない筈です）。

neither ～ nor は（～も～もどちらも～ない）で一人のことを云ふのだから，單數である。單數の場合，I には **am,** you には are であるが，こんな場合には，**後にある方の主語**，この文では I に附く動詞を使ふのがきまりである。だから **am** である。

❺ I, **as well** (ウエル) **as** he, **have** a dictionary (デイクシヤナリ).

彼**と同樣に彼も**辭書を持つてゐる）。

I, as well as he は（彼は勿論**私は**）と **I** のことを主として云ふのだから，動詞は I に附くもの，即ち **have** である。いつでも“**A, as well as B**”とあつたら，‘**A**’の方に使ふ動詞を用ひるのである。

❻ **Not only** (オウンリ) he **but also** (オールソウ) I **have** a dictionary.

（彼**ばかりでなく**，併し**私も**辭書を持つてゐる）。

not only he **but aslo** I（彼ばかりでなく，私も**亦**）は意味は **as well as** と同じだが，これは，後にある方にある主語に附く動詞を使ふのである。こゝでは I に使ふ **have** を用ひるのである。

❼ **I,** not he, **am** to have it.

（彼ではなくて，**私が**それを持つ筈です）。

I, not he（彼ではなく**私は**）と，**I** のことを云ふのだから，I に伴ふ動詞，即ち **am** でなくてはならぬ。

（5）時　形（Tense）〔A〕

一切の動詞は，（**時形**）の變化といふことをやる。即ち**動詞の**

---

both [bouθ] **～ and ～. East** [iːst] 東洋。**either** [áiðə] **～ or ～. neither** [náiðə] **～ nor ～. as well as. not only ～ but also** [～のみならず～も亦]。**Tense** [tens] 時形。

示す動作や有樣の時期を表はすのである。これは中々むづかしいから十分注意して了解して下さい。

（時形）は，次の六種ある。

① **現　在**（**Present**）

② **過　去**（**Past**）

③ **未　來**（**Future**）

④ **現在完了**（**Present Perfect**）

⑤ **過去完了**（**Past Perfect**）

⑥ **未來完了**（**Future Perfect**）

① **現在**には，現在形を用ひる。**love(s)**, **go(es)**, **sleep(s)**, **do(es)**, **have** (**has**).

② **過去**には，過去形を用ひる。**loved**, **went**, **slept**, **did**, **had**.

③ **未來**には，"**shall**" 又は "**will**" と云ふ助動詞と，原形とを用ひる。

shall / **will** } **love**, **shall** / **will** } go, **shall** / **will** } sleep, **shall** / **will** } do, **shall** / **will** } **have**.

此所に注意して置きたい事は，**shall** 又は **will** に**原形**を附けるので，現在形ではない。從つて主語が第三人稱でも，he will **loves** だの She will **sleeps** などとしてはいけない，原形の love, sleep を用ひねばならぬ事である。

Present [préznt] 現在。 **Past** [pɑ:st] 過去。 **Future** [fjú:tʃə] 未來。 **Present Perfect** [pə́:fikt] 現在完了。 **Past Perfect** [過去完了]。 **Future Perfect** [未來完了]

④ **現在完了**には，**have**（主語が第三人稱單數には **has**）を**助動詞**に使ひ，それと過去分詞とを並べるのである。

have / **has** } **loved**, **have** / **has** } **gone**, **have** / **has** } **slept**, **have** / **has** } **done**, **have** / **has** } **had**.

注意 最後の have (has) **had** の前の have や has は助動詞で，後の **had** が本當の動詞である。

⑤ **過去完了**には，**had**（人稱の如何にかゝはらず）を使ひ，それと過去分詞とを並べるのである。**had loved, had gone, had slept, had done, had had.**

⑥ **未來完了**には，**shall** 又は **will** と **have** と二つを助動詞に使ひ，それと過去分詞とを並べるのである。

shall / **will** } **have loved**, **shall** / **will** } **have gone**, **shall** / **will** } **have slept**, **shall** / **will** } **have done**, **shall** / **will** } **have had**.

主語が第三人稱單數でも，have を has に改める必要はない。**has** を使ふのは，主語と直ぐ並んで，**he has** だの **she has** などとなる場合に限るのである，混同しないやうに注意して下さい。

次に **Be 動詞**の「時形」の變化を擧げる。これは中々複雜であるから注意して覺えて下さい。主語 **she** や**it** を始め，**I** と **you** と以外の單數の語が主語の時は，次の **he** の場合と同じだと心得て貰ひたい。

	現在	過去	未來
單數	I **am.** You **are.** He **is.**	I **was.** You **were.** He **was.**	I **shall be.** You **will be.** He **will be.**
複數	We **are.** You **are.** They **are.**	We **were.** You **were.** They **were.**	We **shall be.** You **will be.** They **will be.**
	現在完了	過去完了	未來完了
單數	I **have been.** You **have been.** He **has been.**	I **had been.** You **had been.** He **had been.**	I **shall have been.** You **will have been.** He **will have been.**
複數	We **have been.** You **have been.** They **have been.**	We **had been.** You **had been.** They **had been.**	We **shall have been.** You **will have been.** They **will have been.**

(6) 時 形 (Tense) 〔B〕 (Progressive Form)

以上述べた**六つの**(**時形**)には，別にそれぞれ**進行形**と云ふのがある。即ち

① **現在進行形** (**Present Progressive Form**)

Progressive Form [prəg·ésiv fɔ:m] 進行形。 **Present Progressive Form** [現在進行形]。

② **過去進行形** (**Past Progressive Form**)

③ **未來進行形** (**Future Progressive Form**)

④ **現在完了進行形** (**Present Perfect Progressive Form**)

⑤ **過去完了進行形** (**Past Perfect Progressive Form**)

⑥ **未來完了進行形** (**Future Perfect Progressive Form**)

進行形には，總て今述べた「**be 動詞**」の各變化の形を用ひ，それと**現在分詞**(**～ing 形**)を並べるのである。次に **sing** (歌ふ)と云ふ動詞の進行形を例に擧げて見やう。

現在進行形	過去進行形
I **am singng.**	I **was singing.**
You **are singing.**	You **were singing.**
He **is singing.**	He **was singing.**
We **are singing.**	We **were singing.**
You **are singing.**	You **were singing.**
They **are singing.**	They **were singing.**

Past Progressive Form [過去進行形]。 **Future Progressive Form** [未來進行形]。 **Present Perfect Progressive Form** [現在完了進行形]。 **Past Perfect Progressive From** [過去完了進行形] **Future Perfect Progressive Form** [未來完了進行形]。

未來進行形	現在完了進行形
I **shall be singing.**	I **have been singing.**
You **will be singing.**	You **have been singing.**
He **will be singing.**	He **has been singing.**
We **shall be singing.**	We **have been singing.**
You **will be singing.**	You **have been singing.**
They **will be singing.**	They **have been singing.**
過去完了進行形	**未來完了進行形**
I **had been singing.**	I **shall have been singing.**
You **had been singing.**	You **will have been singing.**
He **had been singing.**	He **will have been singing.**
We **had been singing.**	We **shall have been singing.**
You **had been singing.**	You **will have been singing.**
They **had been singing.**	They **will have been singing.**

(7) 時形の用法〔其の一〕

現在·過去·未來

さて，これから以上の十二の（**時形**）は，どんな意味を表はす場合に使ふのか，その使ひ方を述べて見ませう。

(A) 現在形の用法

「現在」だから，現在の事を述べるに使ふと，誰しも考へるだらうが，實はさうでない事を述べる場合に，此の形を用ひることがある。

(1) 一般的眞理

古今東西を通じて，何處でも，何時でもさうであることを述べるに，現在形を用ひる。

❶ The earth **moves** round the sun.
（地球は太陽の周りを廻轉する）。

❷ The sun **shines** in the daytime.
（太陽は晝間輝く）。

❸ Diligence **is** the father of success.
（勤勉は成功の父である）。

①の「地球が太陽の周りを廻轉する」こと，②の（太陽は日中輝く）ことは，永久に變らない眞理であり，③の「勤勉が成功の父」たることも一般眞理であるから，かゝる場合には現在形の **moves, shines, is** が使はれるのである。

(2) 習慣的動作

❶ I **get** up at half past five every morning.
（私は毎朝五時半に起床する）。

❷ He **deals** in tea.
（彼は茶を商ふ）。

❸ He never **breaks** his promise.
（彼は決して約束を破らない）。

①は（毎朝五時半に起床する）と云ふ習慣的動作を表はし，②は（茶を商ふ）は習慣的動作から職業を表はすことになり，③は（約束を破らない）即ち習慣的行爲を表はすものであるが，要するに三者共に日常の習慣的動作を表はすもので，かゝる時には現在形を用ひるのである。

---

earth [ə:θ] 地球。 **move** [mu:v] 廻轉する。 **in the daytime** [déitaim] 日中。 **diligence** [dílidʒəns] 勤勉。 **succe s** [səksés] 成功。 **deal** [di:l] 商(アキナ)ふ。 **brerk** [bre k] 破る。 **promise** [prɔ́mis] 約束。

(3) 現在の有様，動作を述べる場合

❶ I **see** a warship in the sea.
(私は海に軍艦を見る)。

❷ My brother **is** still abroad.
(私の兄はまだ洋行してゐる)。

注意 現在の有様や動作を述べるには，上例の如く現在形を使ふ動詞もあるが，大抵の動詞は，この意味には現在進行形の方を使ふのである。例へば He **studies** English. はいつも英語を勉強すると習慣的の事を云ふので，(今現に勉強してゐる) と云ふのだつたら，He **is studying** English. と，現在進行形を使ふのである。この二つの區別に注意して下さい。

それでは，どんな動詞が（現在のこと）を云ふに，現在進行形を用ひないで，唯の現在形を使ふかと云ふと，それは當然**或る時間の間繼續する動作や有様を示す動詞**，日本語で（何々してゐる最中）と云はない動詞である。(少年である最中)，(お金を持つてゐる最中)，(東京に住んでゐる最中)，(英語を知つてゐる最中)，(船が見える最中)，(兩親を愛してゐる最中)，(彼が好きな最中）などとは言へない，言へば變でせう。斯ふ云つた動詞は，だから，現在のことを云ふには，次の如く唯の現在形を用ひるのである。

❶ I **am** a boy. (私は少年**です**)。
❷ I **have** money. (私はお金を**持つてゐます**)。
❸ I **live** in Tokyo. (私は東京に**住んでゐる**)。
❹ I **know** English. (私は英語を**知つてゐる**)。
❺ I **see** a ship. (私は船が**見える**)。

warship [wɔ́:ʃip] 軍艦。 **abroad** [əbrɔ́:d] 海外に。

❻ I **love** my parents. (私は兩親を**愛します**)。
❼ I **like** him. (私は彼が**好きです**)。

斯んな進行形を使はない動詞は，① **be** 動詞，② **have** 動詞，③ **live**，④ **know**，⑤ **see**，⑥ **love**，⑦ **like** の七つの動詞の外にも，まだ可なり澤山ある。**dislike**（好まぬ），**hate**（きらいである），**hear**（聞く），**watch**（見る），**remember**(rimémbə 記憶してゐる）などは其中の主なものである。勿論，此等の動詞は必ず進行形を使はぬと云ふのではない。その表はす意味によつて進行形を使ふこともあるが，これ等は進んだ文法書で研究を願ふことゝして此處では申述べません。

以上で，**現在形**は，**眞理**，**習慣**を述べるに使ひ，**現在の動作や有様**を述べるには，動詞に依つては，現在形を使ふものもあるが，大抵は，別の現在進行形を使ふ，と云ふ事がお解りになつたことゝ思ひます。

(4) 特に注意すべき現在の用法

それは**現在が未來の代りに用ひられる**場合である。

（甲） **go**，**come**，**leave**（出發する），**start**（出發する）などの様な動詞は，未來を表はす副詞，例へば **to-morrow**，**the day after to-morrow**（明後日）などの如き副詞と共に用ひて，**現在形**で**未來**を表はすのである。

① (秩父丸は明朝神戸を出帆します)。
The steamer Chichibu-maru **leaves** Kobe **to-morrow morning.**

② (君は何時横濱を立ちますか。今晩七時に立ちます)。
When **do** you **start** from Yokohama? I **start**

at 7 this evening.

①, ② は何れも未來を表はす **will, shall** を用ひて書いてもよい。

The steamer Chichibu-maru **will leave** Kobe to-morrow evening.

序に云つて置くが, **leave** は他動詞, **start** は自動詞であることに注意して下さい。即ち上に示せる通り **leave** は leave Kobe と目的を直ちに leave の後に置くのであるが, **start** は自動詞だから stort Yokohama とは云へない, 必ず start の後に **from** なる前置詞を入れて start from Yokohama と云はねばならぬ。頗る簡單なやうであるが, 學生の屢々犯す誤りであるから特に注意して貰ひたい。

(乙) **if, when, before, after, till, as soon as** 等のつなぎことば (即ち從屬接續詞) で導かれた文が, 副詞の役目をしてゐる場合には, その文中の動詞の時が未來であつても現在で表はさねばならぬ。

❶ I will return home **as soon as** the summer vacatian **begins.**

(夏休みになり**次第**歸國する積りです)。

❷ We shall have an excursion **if** it **is** fine to-morrow.

(明日天氣**なら**遠足があるでせう)。

❸ I will wait here **till** your brother **returns.**

---

return [ritə́:n] 歸る。 **vacatio**ɹ [vəkéiʃən] 休暇。 **excursion** [ikskə́:ʃən] 遠足。

(兄さんがお歸へりになる**まで**此所で待ちませう)。

① の例に就て考へて見て下さい。(夏休み) の始まるのは未來の事だから the summer vaction **will begin** と云ふべき筈であるが, この文は **as soon as** で導かれてゐる文で, 且つ as soon as 以下の文は **go** なる動詞を説明してゐるものである, 即ち副詞の働きをする文であるから, will begin とすべき所を現在を用ひて begins としたのである。② も ③ も同様である。

併し此所に注意すべき事がある。それは, if や when の導く文が副詞の役目をしないで, (名詞) の役目をする事がある。その時は if などの導く文が未來を表はすならば, 現在を用ひないで, 矢張り**未來**を用ひなければならぬ。例へば

❶ I shall be at home **if** he **calls** on me this evening.

(彼が今晩尋ねて來る**なら**私は宅にゐよう)。

❷ Please ask him **if** he **will** call on me this evening.

(彼が今晩尋ねて來る**かどうか**尋ねてみて下さい)。

今 ① と ② を比較して見るに, 兩者は何れも, **if** で導かれた文である。併し ① は **calls** と現在を用ひ, ② は **will call** と未來形であるが, 何れも正しい文である。即ち ① は (若し彼が今晩尋ねて來るならば宅にゐよう) と云ふ意味で, **if** 以下の文は **be** 動詞を形容する副詞であるから, 上に述べた理由で **calls** と現在を用ひたのである。之に反して ② にあつては, (彼が今晩尋ねて來るかどうか尋ねて見て下さい) と云ふ文意であるから, **if** 以下の文は **whether** he will call on me this evening (彼が今晩尋ねて來る**かどうか**) と同じである,

---

call on (人を)訪問する。 **ask** [ɑ:sk] 尋ねる。

即ち**名詞**の働きをする文で，**ask** の目的に用ひられたものであるから **will call** と未來を用ひたのである。

（B） **過去形の用法**

（1） **過去に於ける動作又は狀態を表はす。**

これは過去，即ち今より以前に起つたこと，また以前にあつた有樣を述べるに使ふのである。

❶ Columbus **discovered** America in 1492.
（コロンブスは 1492 年にアメリカを**發見した**）。

❷ I **was** then in Paris.
（私は當時パリにゐた）。

① の **discovered** は（發見した）と云ふ動作を述べたもの，② は（私は當時パリにゐた）と過ぎ去つた其當時の狀態を述べたもので，現在はどうであるか，現在の事は言つてゐないのである。

（2） **過去の習慣を表はす。**

過去の習慣，（いつも～であつた）意を表はすには

❶ He **used to** get up early.
（彼は**いつも**（**きまつて**）早く**起きた**）。

❷ He **would** often study till late.
（彼は**度々**遲くまで**勉强した**）。

のやうに，（**used to**＋**原形**）や（**would**＋**原形**）を使ふのである。前者は（いつもきまつて）のこと，後者は，それほど，いつもとは言はれぬが（往々～ことがあつた）の意を表はすので

---

discover [diskʌ́və] 發見する。 **used to** [いつも～であつた]。 **would** [いつも～であつた]。

ある。尙，**would** が過去の習慣を表はす場合には **often**（屢屢），**sometimes**（時々），**now and then**（時々）などの副詞と共に用ひられることが多い。**would** は色々の用法があるから，特にこの點に注意して貰ひたい。

（3） **過去の用法に就て特に注意すべき點**

その一は，疑問文の場合で **did** を文首に出して疑問を表はす場合である。

① （君は萬年筆を失くしたのか）。
Did you **lost** pour fountain-pen?

上の如く書くものが可成り多いやうであるが，併しこれは誤りである。即ち **did** も **lost** も共に過去形の動詞（did は助動詞）であるから，かゝる場合には **did** だけ過去を用ひ，後の動詞は原形即ち **lose** と現在の動詞を用ひねばならぬ。即ち上例を正しく書けば次の如くなる。

Did you **lose** your fountain-pen?

② （君が此の手紙を書いたのですか）。
Did you **write** this letter?

次に **not** を用ひた否定の文に於ても上と同樣 **did not** の次の動詞は過去形にしないで現在形即ち原形を用ひることである。

❶ I **did not come** here yesterday.
（私は昨日此所へ來ませんでした）。

did not came としてはいけない。

❷ My father **did not go** to the office this morning.
（父は今朝事務所へ行きませんでした）。

勿論 **did** を用ひない場合は，過去形の動詞を使はねばならぬ。

❶ Who **came** (ケイム) this morning?
(誰が今朝來ましたか)。

❷ Uncle (アンクル) **came** this morning.
(叔父さんが今朝來ました)。

(C) 未來形の用法

(1) 叙述文の未來形

日本語では（毎日**行く**），（明日**行く**），（いつも**する**），（今晩**する**）と云つた風に，いつものことを言ふにも，明日や今晩のことを云ふにも同じやうに（行く），（する）と云ふが，英語では決してそんなことはないのである。未來のことを云ふには必ず未來形，即ち **shall** か **will** と，原形とを並べた動詞を使ふのである。

shall と will との使ひ方に就ては六づかしい規則がある。

① **單に未來を表はす**場合で，（何々の筈）と，自分の考へでなく，自然にさうなるべき事，規則などで，さうせねばならぬ筈のことを云ふのと。

② **意志を表はす**場合で，（何々する考）と自分の考へ，即ち意志ですること。

この二つに分けることが出來る。

(1) **單なる未來**（＝**無意志未來**）
には，主語が**第一人稱**，即ち **I** か **we** には **shall** で，其他（即ち第二人稱，第三人稱）には **will** を用ひる。

---

office [ɔfis] 事務所。

❶ **I shall get** (ゲット) well in a few (ふゆー) days.
(**私は**一兩日すると**直りませう**)。

❷ **You will be** in time (タイム) for the train (トれイン).
(**君は**汽車に**間に合ふでせう**)。

❸ **He will be** late (レイト) for school.
(**彼は**學校に**遲刻するでせう**)。

(2) 主語の意志と話者の意志

（何々する考へ）と，自分の考へ，意志ですることを云ふには，いつでも **will** を使ふ。而して（私が君に斯う**させる**），（彼に斯う**さしてやる**）と云つた風の，話者の意志，即ち '**I**' の意志を云ふには I の場合は will で，第二人稱，第三人稱には **you shall, he shall** のやうに **shall** を使ふ。

❶ **I will** go to Yokohama.
(私は横濱へ**行く考です**)。

❷ I shall be very glad (グラッド) if **you will** do it for me.
(君が僕の爲にそれを**して下されば**大變嬉しい)。

❸ He says (セズ) that **he will** buy (バイ) a watch (ウオッチ).
(彼は時計を**買ひたい**と云つてゐる)。

以上 ①, ②, ③ は主語の意志を表はすものである。

❹ **I will** buy it, dear (デイア) or cheap (チープ).
(高くても安くても僕はそれを**買ふつもりである**)。

❺ **You shall** have this book.
(この本をお前に**あげませう**)。

---

be in time [間に合ふ]　**be late** [遲れる]。　**dear** [diə] 高い。
cheap [tʃi:p] 安い。

❻ If you are late, **you shall** be punished.
(遲れると**罰せられるぞ**)。

❼ **He shall** carry you.
(彼にお前を**運ばせよう**)。

❽ **He shall** die. (彼を**殺してやる**)。

❾ **Everything** that you touch **shall** turn to gold.
(汝の觸れるものは皆黃金に**變へてやらう**)。

以上 ④ から ⑨ までの例は，話者の意志を表はすものである。而して ⑤ 以下の文は一人稱の **I will** を以て書き換へることが出來る。卽ち

❺ **I will** give you this book.

❻ If you are late, **I will** punish you.

❼ I will make him carry you.

❽ **I will** kill him.

❾ **I will** turn everything that you touch to gold.

以上述べた **will, shall** は最も普通な用法だから，是非記憶して置くべきである。次に記憶の便宜上これを表示して見やう。

單純未來	主語の意志	話者の意志
I shall	I will	I will
You will	You will	You shall
He will	He will	He shall

(D) 疑問文の未來形

以上述べた事は叙述文に於ける **will, shall** の大體の用法であるが，**疑問文に於ける will, shall** はこれと異なるもの

があるから，次に これに就て簡單に述べて見やう。

(1) 單に未來を表はす場合。

❶ **Shall you ～?** I shall.

❷ **Shall I ～?** You will.

❸ **Will he ～?** He will.

❶ (A) **Shall you** be at home this afternoon?
(今日の午後御在宅でせうか)。
(B) Yes, **I shall** be at home this afternoon?
(はい，今日の午後は內に居ります)。

❷ (A) **Shall I** be in time for the train?
(汽車に間に合ふでせうか)。
(B) Yes, **you will** be in time for it.
(はい，間に合ひませう)。

❸ (A) **Will he** sacceed this time?
(彼は今度は成功するでせうか)。
(B) I think **he will** succeed this time.
(今度は成功するだらうと思ひます)。

(1) 話相手(第二人稱 you)の意志を問ふ場合。

❶ **Will you ～?** I will.

❷ **Shall I ～?** You shall.

❸ **Shall he ～?** He shall.

❶ (A) **Will you** take some more tea?
Yes, I will.
(もう少しお茶をお上りになりませんか。はい，頂

succeed (səksíːd) 成功する。

きます)。

(B) **Won't you** (=**Will you not**) take a walk after schoo!?

Yes, I will.

(放課後散歩なさいませんか。はい、致しませう)。

以上(A), (B)は何れも日常最も多く用ひられる形である。

❷ Which **shall I** have? You shall have this.

(どれを下さいますか。これを上げます)。

❸ **Shall he** be punished for this?

Yes, he shall.

(これがため彼を罰しますか。はい, 罰します)。

以上 ②, ③ の用ひられる場合は少ない。

(3) **話相手の命令を乞ふ場合。**

❶ **Shall I** ～?　　命令。

❷ **Shall he** ～?　　Let him ～.

❶ **Shall I** take this letter to the post-office?

Please **do** so.

(この手紙を郵便局へ**持つて行つてあげませうか。どうぞ御願ひします**)。

❷ **Shall he** wait in this room?

Let him wait.

(彼を室内に**待たせて置きませうか。待たせて置け**)。

上例 ①, ② の中 ① の場合は用ひられることが多い。

疑問文に於ける **will, shall** の用法はかなり厄介であるか

---

won't (wount)=will not. **take a walk** (散歩する。 **post-office** (póustofis) 郵便局。**wait** (weit) 待つ。

ら, 十分注意して何度も繰返して物にして貰ひたい。以上述べた所を表示すると次の如くなる。

	單純		未來
疑問	**Shall you** ～? **Shall I** ～? **will he** ～?	答	I shall. You will. He will.
	話相手の意志を問ふ		
疑問	**Will you** ～? **Shall I** ～? **Shall he** ～?	答	I will. You **shall.** He **shall.**
	話相手の命令を乞ふ		
疑問	**Shall I** ～? **Shall he** ～?	答	命令 **Let him**

注意　各人稱, 第一人稱は **I** で, 第二人稱は you (you は單數も複數も同形), 第三人稱は **he** で, 例を擧げて置いたが, この規則は一人稱 we にも, 三人稱 she にも they にも其他の名詞にも共通であることは勿論のことである。I と you と he とだけだと誤解しないで下さい, 紙數に限りがあるのと, 前後の統一上, **I** と **you** と **he** の場合だけ例を擧げたのである。

(8) 時形の用法 〔其の二〕

現在完了, 過去完了, 未來完了

過去分詞の前に, (A) **現在完了 have** または **has** を置いて, それで〔**過去分詞**〕と云ふ意味を表はすことがある。この場合の **have** と **has** は (持つてゐる) と云ふ意味を表はしてゐるのではなく, それと (**過去分詞**) と, 二つで (**現在完了**) と

云ふ別の意味を表はすのである。

❶ I have stood (ストウツド) up. (私は**立ち上つてしまひました**)。

stood は **stand** (スタンド) (立つ) の過去分詞である。この stood と have と並んで現在完了を表はしてゐる。現在完了とは (或る動作をしたが**現在**にはもう**完了**してゐて, 今はもうそのことをしてゐない) と云ふ意味なのである。即ち **have stood** で (もう立つてしました) だから今は坐つてゐない。立つてゐるを云ふことを述べてゐるのである。

❷ I have come (カム) to the window (ウインドウ).

(私は窓の所へ**來てしまつた**)。

come (來る) と云ふ動詞は, 現在形も過去分詞形も同じなので, その過去分詞と have を並べると, **have come** で (來てしまつた) 今はもう (來てゐる) と云ふ意を表はす。

❸ I **have opened** the window.

(**私は戸をあけてしまひました**)。

もうあけてしまつた, だから (今はしまつてない, あいてゐる) と云ふ意味を表はしてゐるのである。**opened** は **open** の過去分詞。

❹ I **have shut** (シヤツト) it. (私はそれを**しめてしまひました**)。

have shut で現在完了, 即ち (しめてしまつた) だから今はもうあいてゐない, しまつてゐる意を表はすので, **shut** と云ふ語は, 現在も過去分詞も同形である。

❺ I **have come** back (バツク) to my seat (スイート).

(私は私の席に**戻つてしまひました**)。

既に戻つて來てゐることを云つたのである。**have come back** で (歸つて來てしまつた), (戻つてしまつた) である。

❻ I **have sat** (サツト) down (ダウン). (私は**こしかけてしまひました**)。

sit (坐る) の過去分詞は **sat** でしたね, **have sat** で (こしかけてしまつた) だから今はもう立つてはいないと云ふ意味を表はすのである。

以上の如く, 現在完了に have と過去分詞とを並べるのは, 此語が I と You か, 總ての複數の語の時である。主語が三人稱單數の時は **has** を用ひることは, (持つてゐる) の意に, これ等の語を使ふ時の場合と同じである。

問ひの文は, 主語の前に **have** と **has** を出し, 否定文は **have (has)** と, 過去分詞との間に **not** をはさむのである。

❼ **Has** he **stood** (ストウツド) up?

(彼は**立ち上つてしまひましたか**)。

❽ **Has** he **gone** (ゴン) to the window?

(彼は窓の所へ**行つてしまひましたか**)。

❾ **Has** he **opened** (オウパンド) the window?

(彼は窓を**開けてしまひましたか**)。

❿ **Has** he **shut** it? (彼はそれを**閉めてしまひましたか**)。

⓫ **Has** he **gone** back (バツク) to his seat (スイート)?

(彼は彼の席に**戻つてしまひましたか**)。

⓬ **Has** he **sat** (サツト) down (ダウン)?

(彼は**こしかけてしまひましたか**)。

---

❶ He **has not opened** the window.

(彼は窓を**開けてしまつてはゐません**)。

❷ He **has shut** the window.

(彼は窓を**閉めてしまひました**)。

❸ She **has stood** up.